

令和7年度
山口大学教育学部山口地区附属学校園（やまぐち学園）
幼小中一貫教育保育・授業づくり研修会
指導案集

【研究主題】
自ら学びをつなぐ子どもの育成
～学びの過程に着目して～（3年次）

令和7年
11月27日(木)



山口大学教育学部附属幼稚園
山口大学教育学部附属山口小学校
山口大学教育学部附属山口中学校

目 次

＜研究概要＞

研究概要	1
------	---

＜保育・学習指導案＞

保育部	7
-----	---

国語科部	14
------	----

社会科部	24
------	----

算数・数学科部	30
---------	----

理科部	40
-----	----

音楽科部	46
------	----

図画工作・美術科部	52
-----------	----

保健体育科部	58
--------	----

技術科部	64
------	----

家庭科部	66
------	----

外国語活動・外国語科部	70
-------------	----

道徳科部	76
------	----

総合的な学習の時間部	80
------------	----

＜その他＞

指導助言者・研究協力員	92
-------------	----

研究同人	93
------	----

会場図	94
-----	----

研究概要

今年度のやまぐち学園幼小中一貫教育研究の取組について

(1) はじめに

少子高齢化や人口減少、価値観の多様化、生成AIをはじめとしたテクノロジーの急速な進展など、社会は複雑さと不確実さを増している。子どもたちは今、予測困難で変化の激しい時代に生きており、「自分はどのように生きていくのか」といった問いと向き合いながら、未来を歩んでいく必要性が高まっている。

そのような時代を自立的に生き抜いていく子どもたちには、単なる知識や技術だけでなく、探究心や好奇心、協働性などの社会情動的スキルが必要不可欠である。さらに、未知の状況に柔軟に対応し、創造的に問題を解決する能力も求められるであろう。そこで、「やまぐち学園」では、山口大学教育学部附属幼稚園、附属山口小学校、附属山口中学校の3校園が一体となり、幼小中12年間の学びを見通した一貫教育研究に取り組むことで、予測困難で変化の激しい社会に適応できる子どもたちの育成に努めている。3校園が一貫してめざす人間像は以下のとおりである。

『やまぐち学園のめざす人間像』 よりよい未来を共に創り出す人間

3歳で入園した子どもが、幼小中12年間の学びを経て、15歳の人間として本学園を卒業していく。このめざす人間像は、本学園卒業時の姿であるとともに、在学中や卒業後の人生も含め、発達段階に応じて幅広く捉えられる姿である。

「よりよい未来」とは、予測困難で変化の激しい時代においても、身体的・精神的・社会的によい状態で、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せが持続する未来のことである。

「共に」とは、「よりよい未来」の実現のために、国際的に多様な人々と共生し、多様な文化を尊重するという、協働性と多様性を大切にする姿勢である。

「創り出す」とは、創造性を發揮し、過去の経験や知識などを組み合わせて、自ら問題の解決や豊かな生活の実現に取り組んでいくことである。

「人間」とは、幼稚園、小学校、中学校段階の子どものことであり、予測困難で変化の激しい社会を生きる未来の子どもたちの姿のことである。

以上の捉えを踏まえ、「よりよい未来を共に創り出す人間」は「未来の予測困難で変化の激しい社会でも、個人や全体の幸福の実現のために、多様な他者と協働しながら、自分の考えを創り出し、自立的に生きていく子ども」と言い換えることができる。

このような子どもたちを育成するために、本学園では、次の3つの資質、能力を高めることを重視している。

問い合わせだし、新たな価値を創造する力

多様な他者と対話・協働する力

自己の学び方と生き方を見つめ続ける力

「問い合わせだし、新たな価値を創造する力」とは、未知の状況に対して、自ら問い合わせだし、試行錯誤を繰り返しながら価値ある答えを生み出していく力のことである。

「多様な他者と対話・協働する力」とは、友達や教師、自分を取り巻く多様な人たちとの関わりの中で、互いのよさや違いを認め、協働して課題解決する力のことである。

「自己の学び方と生き方を見つめ続ける力」とは、自らの学び方や在り方を省察し、よりよい生き方を見付け出そうとする力のことである。

この資質・能力を育むために、私たちは次のような研究主題を設定した。

(2) 研究主題について

《研究主題》 自ら学びをつなぐ子どもの育成（3年次） ～学びの過程に着目して～

私たちが考える「自ら学びをつなぐ」とは、子どもが問題に直面した際に、立ち止まるのではなく、保育・授業で体験したことや獲得したスキルを自ら活用して乗り越えていくこうとする姿である。問題を乗り越えていく子どもたちは、問い合わせだし、他者と協働しながら解決にたどり着き、さらに自分のこれから学びや生き方につなげていく力をもっている。では、どのようなスキルを使って子どもは問題を乗り越えていくのだろうか。この問い合わせのもとに2年間研究を積み重ねることで特に重要であると捉えたのが、幼稚園教育や各教科等における「見方・考え方」（以下「見方・考え方」）である。

「見方・考え方」とは、幼稚園教育要領においては、「幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる」ものと示されている。小・中学校学習指導要領においては、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの、教科等の学習と社会をつなぐもの」と示されており、学習内容を概念的に理解するための思考の枠組みである。これは、学んだ知識や技能を統合的に活用して現実の事象と結び付け、他教科や社会生活とつながる深い学びへと導くものである。では、「見方・考え方」を自在に働く子どもを、どのように育てていけばよいのだろうか。私たちはその手がかりを、学びの結果ではなく過程に見いだした。なぜなら、深い学びの思考の過程にこそ、

「見方・考え方」が豊かに働いているからである。しかし、その思考過程は目に見えないため、子どもたちは見方・考え方を働くさせていることに無自覚である。だからこそ私たちは、子どもたちが無自覚に働くさせている「見方・考え方」に着目し、よさや価値に気付くことができるような支援を大切にする。そうすることで、「見方・考え方」を自在に働くさせながら、自ら学びをつなぐ子どもの育成を目指す。

(3) これまでの研究の流れ

研究初年度である令和5年度は、子どもが学びをつなぐ姿を明らかにするために、「今までとつなぐ」「これからにつなぐ」という二つの視点から研究を進めた。各教科等や保育において、子どもが何をつなごうとしているのかを見取る中で、つながりの中核には、経験や知識に加えて「見方・考え方」があることを見いだした。学習指導要領において「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核」とされる「見方・考え方」は、各教科等の学びと社会や生活をつなぐものであり、子どもの深い学びの鍵になると捉えた。

二年次である令和6年度は、「見方・考え方」が働く学びの過程を明らかにし、子どもがそれを自覚し、活用可能な状態へと高めるための支援について研究を深めた。子どもの学びの過程を「見方・考え方」に気付く【発見】の過程、発見した「見方・考え方」のよさを実感したり、価値を自分ごとにしたりする【獲得】の過程、獲得した「見方・考え方」を目的や場面、状況に応じて選択したり、複合・融合したりしながら使いこなす【活用】の過程の三つに整理し、それぞれの学習過程を支える教師の働きかけを検討した。

幼稚園段階における主な働きかけ

- それぞれの遊びで探究に向かう子どもの姿を具体的に想定する。【発】 【獲】 【活】
- したい遊びに何度も繰り返し取り組めるように、遊びに必要なものを分かりやすい場所に置いたり、みんなが集まって遊ぶことができるような空間を設けたりする。【発】
- 一人一人の思いが実現できるように、必要に応じて手伝ったり材料や道具を用意したりする。【獲】
- 身近な物事に関わりながら、試行錯誤を繰り返して遊びが広がるように、子どもの思いや考えを受け止め、一緒に考えたり言葉で共有したりする。【獲】
- 自分たちで遊びや生活に必要なことを考えて進めていくように、必要に応じて手伝ったり一緒に考えたりして支える。【活】
- 目標に向かって、考えたり工夫したり粘り強く取り組んだりして、やり遂げることができるよう、一人一人の思いに寄り添って励ましたり、喜びを共感したりする。【活】

小・中学校段階における主な働きかけ

○単元ごとに主たる「見方・考え方」を設定し、子どもたちの具体的な言葉や姿で想定する。

【発】 【獲】 【活】

○「見方・考え方」を引き出す教材提示や導入の工夫をする。【発】

○子どもから引き出した「見方・考え方」についての発言を価値付けたり、板書で明示化したりする。【獲】

○振り返りにおいて、「学びに役立ったものは何か」「より深く理解するために有効であったものは何か」を視点に振り返り、「見方・考え方」のよさの自覚を促す。【獲】

○子どもが「見方・考え方」を適応できる場面を設定して有効性を再認識できるようにする。

【活】

(4) 令和7年度の研究について

今年度も、昨年度の研究で得られた成果を生かしながら、引き続き「見方・考え方」に関する研究を通して、自ら学びをつなぐ子どもの育成を目指す。

一方で昨年度の研究から、一つの単元で「見方・考え方」を自覚できた子どもでも、単元が変わるとそれを十分に發揮しきれないという課題が浮かび上がった。このことから、単元内での自覚化にとどまらず、単元や場面が変わったり、難しい問題や答えが一つでない問いと出合ったりした際にも、子どもが知的好奇心や探究心をもち、「見方・考え方」を自在に働かせ、自ら学ぶ姿を目指す必要があると考える。

そこで今年度幼稚園段階では、「もっと知りたい」「もっとやってみたい」と知的好奇心や探究心を育むことを目指して、子どもが試行錯誤したり考えたりしている姿から一人一人の思いを丁寧に見取り、その思いに沿った環境を構成する際の教師の援助を研究する。幼児期に培ったこのような力が小学校から始まる各教科等の学びにつながっていくだろう。

小学校段階では、単元が変わっても「見方・考え方」を自覚的に働かせる子どもの育成を目指して、見方・考え方を軸にしたカリキュラムの編成と、カリキュラムを生かした教師の働きかけについて研究を進める。

中学校段階では、難しい問題や答えが一つでない問いに直面しても、これまで獲得してきた「見方・考え方」を自在に働かせる子どもの育成を目指して、探究的な学びの場をつくる教師の働きかけについて研究を進める。

以上のこととをもとに、各発達段階における教師の働きかけの具体を以下に示す。

幼稚園段階

〈環境構成〉

○それぞれのしたいことを見付けて遊びだせるように、子どもの表情や言動、遊ぶ様子から、一人一人の興味関心や思いを見取り、思わず関わりたくなるようなものや人、事柄との出会いをつくる。

○環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり考えたりすることを楽しめるように、色や形、質感などが違う様々な材料を用意する。

○繰り返し行ったり試したりするための十分な時間をとることで、自分なりに気付く過程を支える。

〈教師の援助〉

○友達のしていることを見たり友達の考えに触れたりすることで、自分とは異なる考えがあることに気付き、新しいことに挑戦してみようしたり、自分の考えに付け加えたりしようとする気持ちを支える。

○遊びや生活の中の機会を捉えて、子どもと共に振り返ったり話し合ったりすることで、自分の思いや友達の思いを知り、新たな気付きが生まれるようにする。

小学校段階

〈カリキュラムの編成〉

○各教科等のカリキュラムを、同様の「見方・考え方」を働かせる単元を連続して位置付けること（連続単元）、複数の「見方・考え方」を複合して働く単元を位置付けること（複合単元）を視点に編成することで、「見方・考え方」を自覚的に働くことができるようになる。

〈教師の働きかけ〉

- 導入において、既習単元で働かせた「見方・考え方」を引き出す教材提示や、「見方・考え方」を想起する場を設定することを通して、「見方・考え方」を働かせることができるようになる。
- これまで獲得した「見方・考え方」をもとに解決したい課題や課題の解決方法について話し合う場を設定し、「見方・考え方」を活用することができるようとする。
- 既習単元で働かせた「見方・考え方」と比較する場面を設定することで、連続性や発展性、有用性といった「見方・考え方」を働かせるよさを再び獲得できるようとする。
- 単元の終末で、自分がどの場面で、どのような「見方・考え方」を働かせたかについて振り返る場を設定することで、後の単元において「見方・考え方」をより自覚的に働かせることができるようにする。

中学校段階

〈単元構想の工夫〉

- 各教科で「探究的な学習」に適した内容・教材を見極めて、これまで獲得してきた「見方・考え方」を複合的に活用する場となるよう、単元構想をデザインする。
- 課題発見力、知識統合・活用力、課題解決力、コミュニケーション力、表現力、見通しをもつ力など、単元の中で付けたい資質・能力を見通し、学習活動を仕組んでいく。
- 「単元を貫く問い合わせ」を設定し、単元内のすべての授業を通じてその問い合わせについて考えていくように働きかける。
- 子どもが自発的・探究的に学ぶために、授業内での課題設定や調べ学習、発表などの機会に子どもによる自由な選択の場を設ける。
- 単元の終末において、具体的に振り返る時間を設けることで、身に付いた力や、学び方の有効性、自分自身の「見方・考え方」の変容や深化などを自覚できるようとする。

(5) 年次計画

令和5年度	○研究主題の設定と保育・各教科等における研究論を構築する。 ○子どもが「つなぐもの」とは何かを明確にする。
令和6年度	○保育・各教科等における子どもが「つなぐもの」を設定する。 ○今までとつなぐ・これからにつなぐを視点に学びのつながりを捉える。 ○「幼稚教育における見方・考え方」「各教科等の見方・考え方」の具体を明確にする。 ○子どもが「見方・考え方」を活用可能な状態にするために、幼稚園・小学校・中学校の発達段階に応じた働きかけを検討する。 ○「見方・考え方」を子どもの言葉や姿で具体化した一覧を作成する。 ○子どもがどのように学びをつなぎ、学びを深めていくのかについて、想定した子どもの姿や言葉をもとに検証、分析する。
令和7年度	○保育・各教科等における研究論を再構築する。 ○「見方・考え方」をもとに学びのつながりを自覚することができるカリキュラム・単元・教材の構成を工夫する。 ○研究の全体像を示したグランドデザインを作成する。 ○本学園で身に付けたい資質・能力を明確にする。 ○一貫カリキュラムを作成する。小学校においては、各教科等のカリキュラムを作成する。中学校においては、探究的な学びの単元を作成する。 ○保育・各教科等を超えたより汎用的な「見方・考え方」を設定する。 ○「見方・考え方」を柱としたカリキュラムを運用する。
令和8年度	○本学園で身に付けたい資質・能力をもとに、保育・授業中の子どもの言葉や、振り返りの記述を分析することを通して、研究の成果と課題を検証し、カリキュラムや単元構成を洗練していく。



保育・學習指導案



3歳児（花組）5期の保育案（5期：10月中旬～11月下旬）

花組（男児 7名 女児 15名 計22名） 保育者：中原早苗 木村恭子（補助）

1. 期のねらい

【あれしたい これしたい なにしてるの】

- 好きな遊びを楽しむ中で、いろいろなものに関わろうとする。
- 先生や友達がしていることに興味・関心をもち、一緒に遊ぼうとする。

2. 期待される子どもの姿

- 自分の好きな場や興味のあるところへ行き、したいことを楽しむ。
- 誘ったり誘われたり入れてもらったりしながら、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 走ったり踊ったりなど体を動かすことを喜び、戸外で遊ぶことを楽しむ。
- 秋の自然に触れながら遊び、木の葉や木の実を集めたり使ったりして自然物に親しむ。

3. この頃の遊びや生活の様子と援助



登園の様子・遊びへのとりかかわり

ほとんどの子どもが喜んで登園し、保育者が見守る中、自分で朝の支度をしようとする。途中で、他のことが気になり支度を忘れる事や、自分では支度をすることに気持ちが向かないこともある。保育者や保護者が側で声をかけたり、少し手伝ったりすると支度を進めることができる。

支度を終えると、したい遊びをしたり、好きな友達を待っていたりする。折り紙で紙飛行機をつくって飛ばしたり、生き物を観察したりする中で、同じことに興味をもった友達と出会い、遊び始める姿もある。

- ◆自分で支度をしようとする姿を認める。
- ◆興味がもてそうな遊びや友達がしている遊びに誘ったり、一緒に遊んだりして好きしたことやしたいことを見つけて遊びだせるように支える。

友達との関わり

友達がしていることに興味をもち、同じようなことがしたくなったり、好きな友達を誘ったりして一緒に遊ぼうとする。それぞれの子どもが自分の思いを出すようになり、譲らなかつたり言葉が足りなかつたりして思いがぶつかることもある。保育者が代わりに相手の気持ちを伝えてもすぐに納得しないこともあるが、「入れて」や「いいよ」「待ってて」などの言葉を伝えようとする姿も見られるようになってきている。

- ◆友達と一緒に遊ぶことが楽しくなるように、保育者も一緒に遊びながらそれぞれの思いやイメージを聞いたり、やり取りをつないだりする。
- ◆思いがぶつかったときには、それぞれの気持ちを受け止め、子どもたちの思いを代弁しながら自分の思いの伝え方を知らせる。

片付け

片付けの仕方が分かり、声をかけると片付けるようになってきている。保育者が具体的に示したり頼んだりするとはりきって片付けようとする。片付けだと分かっているが、まだ遊びたい思いから、遊び続ける子どももいる。

- ◆片付けに気持ちが向くように、楽しく片付けられるような声をかけたり、具体的に片付けの仕方を伝えたりする。

降園前のひととき

降園前は、保育者や友達と手遊びをしたり、絵本を見たりすることを楽しんでいる。また、遊びの紹介では、楽しかったことを話したいという思いや、保育者や友達につくったものを見せたいという思いをもっており、保育者に言葉を補つてもらいながら紹介したり、友達に嬉しそうに見せたりする。

- ◆みんなで一緒に過ごすことが楽しくなるように、みんなで楽しめるような手遊びをしたり、季節の絵本を読んだりする。
- ◆話を聞こうとする姿を価値付けたり、話したい思いを受け止め言葉を補つたりする。

秋の自然物やいろいろな素材に触れて

園庭で集めたいろいろな木の実や落ち葉を使い、食べ物や飾りに見立てて遊んだり、紙粘土やボンドを使って製作することを楽しんだりしている。秋の自然物を水に浮かべたり、ドングリを転がしたりと、繰り返し触れて遊ぶ中で、いろいろな形や大きさがあることを知ったり、転がり方や音の鳴り方に興味をもったりする姿がある。

- ◆それぞれの楽しみ方で秋の自然に触れて親しめるように、いろいろな木の実や落ち葉などの素材を用意したり、遊びに取り入れたりする。
- ◆自然物との関わりの中で、子どもの気付きや楽しみ方を認めたり、保育者も一緒に楽しんだりする。



いろいろなごっこ遊び(ショーや警察ごっこ・家族ごっこ・お店屋さんごっこなど)

なりたいものになりきってごっこ遊びを楽しむために、好きな友達を誘って遊び始める。それぞれの遊びの場を、ソフト積み木や柵、ござなどを使って自分たちでつくろうとする姿がある。ショーやお店屋さんの場では、お客様を呼んできて好きな曲に合わせて踊りを披露したり、つくったものを売ったりすることを楽しんでいる。おうちごっこの中では、回転すしのお店や病院など実際の生活の中で経験したことを遊びに取り入れている。それぞれが自分の思いを出しながらなりたいものになって遊ぶことを楽しんでいる。

- ◆友達と一緒に遊ぶことが楽しくなるように、それぞれのなりきった姿に応じながら保育者も一緒に楽しんだり、それぞれの思いやイメージをつなげたりする。
- ◆自分たちで場をつくる姿を認めながら、必要なものを用意したり、周りで遊んでいる友達からも見えやすい場所に用意したりする。



戸外で体を動かして(おいかけっこ・三輪車など)

なりたいものになりきって、保育者を敵に見立てて逃げたり、攻撃をしたりしておいかけることを楽しむ。保育者と一緒に敵役になって、友達を追いかけることを楽しむ姿もある。三輪車では、自分で乗れることを見てもらったり、保育者や友達に押してもらったりしながら、繰り返し楽しんでいる。

- ◆いろいろな友達と関わるよう、遊び方を伝えたり、言葉のかけ合いを楽しんだりする。
- ◆自分でできた喜びや友達と一緒に乗れた楽しさに共感する。



描いたり、つくったりなど

空き箱やペーパー芯などの廃材を組み合わせて、武器や好きな生き物など、つくりたいものを自分でつくれて遊んでいる。自分なりに「こうしたい」「こんなものをつくりたい」という思いをもっていて、保育者に思いを伝えながら一緒につくることを楽しんでいる。また、友達がつくれているものを見て同じものが欲しくなり、同じようにやってみようとする姿や、文字や絵を書いて、友達や家族、保育者に手紙を渡して相手が喜ぶ姿を見て嬉しそうにしている姿がある。

- ◆自分のつくりたいものや友達と同じものをつくれるように、身近な扱いやすい素材を用意したり、材料の数や種類に配慮したりする。
- ◆自分なりに思いをもってつくろうとする姿を認めたり手伝ったりして、つくる楽しさや喜びが味わえるようにする。



砂場

型抜きしたものや木の実などを使って料理をつくり、できたものを見せたり、テーブルにごちそうを並べて保育者や友達と一緒に食べたりすることを楽しんでいる。また、山をつくりトンネルを掘ったり、といを使って水を流したりして楽しむ姿もある。

- ◆それぞれのやりたいことを十分に楽しめるように、道具や材料を用意したり場を整えたりする。
- ◆つくったもので友達と一緒に簡単なやり取りを楽しめる場を用意したり、言葉をかけたりする。
- ◆砂や水の感触を十分に味わっている姿を大切にし、一緒に喜んだり共感したりする。

4歳児（風組）5期の保育案（5期：10月中旬～11月下旬）

風組（男児 12名 女児 13名 計25名） 保育者：水口美沙 宮野しづか（補助）

1. 期のねらい

【おもしろそうだな やってみよう】

- 自分のしたいことを見つけて、十分に楽しむ。
- 友達と一緒に遊び、親しみをもつ。

2. 期待される子どもの姿

- いろいろなことに落ち着いて取り組み、満足感を味わう。
- 遊びの中で、仲間入りしたり理由を聞いたり、謝ったりなどの言葉を使う。
- 秋の自然物との出会いを喜んだり、いろいろなものに興味をもったりして、遊びに取り入れようとする。
- 絵本や物語などの登場人物になったり想像を膨らませたりして遊ぶ。
- いろいろな音、色、形、手触りのものに興味をもち、遊びに取り入れようとする。

3. この頃の遊びや生活の様子



登園の様子・遊びへのといかかい

保育者や友達に挨拶をして、登園中に見つけたものを持ってきて見せたり、家庭での出来事を話したりする姿が見られる。自分で支度を済ませる子どもも多いが、友達が遊んでいる様子が気になり支度が進まず保育者に見守られながら支度をする子どももいる。支度を終えると、昨日の遊びの続きをしたり、したい遊びをしたりして遊ぶ姿が見られる。製作コーナーやブロックの場で遊びながら友達を待つ姿や、好きな遊びをしているところで友達と出会って遊び始める姿も見られる。

- ◆朝の出会いを大切にし、子どもたちが楽しく園生活を始められるように、明るく挨拶をしたり、話を聞いたりして温かく迎える。
- ◆昨日の遊びの続きや、それぞれのしたいことを見つけて落ち着いて遊ぶことができるよう、遊びの場や材料や用具を整えたり、遊びに必要なものを子どもたちで出せるように用意したりする。

友達との関わり

気の合う友達と誘い合って一緒に楽しいことを見つけて遊んだり、楽しそうなことをしている友達がいると、自分から友達に声をかけて一緒に遊んだりする姿が見られる。それぞれが思いを言い合いながら遊びを進めようとする中で、友達が言ったことに「いいね」など共感する姿もある。一方で、思いを伝えられなかつたり思いを通そうとして強い口調で話したりする姿も見られる。

- ◆気の合う友達を誘ったり、自分から声をかけて仲間入りしたりする姿を見守りながら、友達と一緒に遊ぶ中でやり取りを楽しむ姿や、自分の思いを言ったり友達の思いを聞いたりしながら一緒に遊ぼうとする姿を認める。

降園前のひととき

みんなで一緒に歌ったり、絵本を見たりすることを楽しんでいる。運動遊びや手遊びなどをしてクラスの友達と触れ合いながら、みんなで一緒に過ごすことを楽しめるようになってきている。また、その日につくったものや遊んだことを友達に紹介したい気持ちがあり、喜んでみんなの前で話をする。仲の良い友達の話や興味をもった話は喜んで聞こうとし、自分なりに考えて質問をする姿も見られる。

- ◆その日につくったものや遊んだことを紹介して、友達の思いを大切にしたり興味をもったりする姿を認める。

片付け

自分が遊んだところを片付けたり、知らせ合って片付けたりするようになっている。友達を手伝ったり、ほうきで掃いたりして、進んで片付ける子どももいるが、中には、遊びに区切りをつけるのが難しい子どもや、なかなか気持ちが向かない子どももいる。

- ◆保育者と一緒に、自分たちの生活の場をきれいしようとする気持ちや、自分なりに折り合いをつけて遊びに区切りをつけようとする姿を認める。

いろいろなごっこ遊び

気の合う友達を誘い、思いを出し合いながら、お店屋さんやショーや警察ごっこなど様々なごっこ遊びを楽しんでいる。友達と相談しながら、積木や廃材などを使ってお店やステージをつくりたり、遊びに必要なものをつくりたりする姿が見られる。友達と同じようなイメージをもって話をしながら遊んでいるが、思いが食い違つたり好きなように遊びを進めようしたりして、友達とぶつかることもある。

- ◆なりたいものになりきったり、友達同士で関わったりしながら遊ぶことを楽しめるように、保育者がお客様になったり、子どもが招待した友達や他クラスの子どもを誘って連れてきたりできるよう見守ったりする。
- ◆友達と同じようなイメージをもって遊ぶ楽しさが味わえるように、それぞれのイメージを確認したり、一緒に遊んでいる子どもたちに分かるように伝えたりする。



戸外で体を動かして

(アスレチック・長縄・フランコ・サッカー・ろうや鬼など)

気の合う友達と誘い合って、アスレチックや雲梯、ブランコなどを一緒に楽しんだり、友達や年長児がサッカーや長縄に取り組む様子を見て、自分もやってみようしたりする姿が見られる。ろうや鬼では、鬼(保育者)に捕まった友達を助けたり、逃げる方が多くなりすぎると保育者と一緒に鬼役になったりと、遊びが楽しくなるようにしようとする姿も見られる。遊びに入ったり出たりしながら、いろいろな友達と遊ぶことを楽しむようになってきている。

- ◆長縄やサッカーなど、したいことに主体的に取り組み、頑張っている姿を認めたり励ましたりして、できた喜びや充実感を味わえるようにする。
- ◆いろいろな友達と同じようなイメージをもって一緒に遊ぶことが楽しめるように、それぞれの楽しみ方で遊びに入る姿を支えたりつないだりする。

砂場

思ったところに水が流れていくように、といを組み合わせたり、水路を掘ったりと、工夫したり試したりしながら遊ぶ姿が見られる。友達と思いを伝え合いながら遊ぶ姿もあるが、途中で入ってきた友達と思いが違つたり、友達がつくったものを気付かずに壊してしまったりして言い合いになることもある。

- ◆これまでの経験を活かして必要な道具を選んだり、試したりしながら遊ぶ姿を認め、できることと一緒に喜ぶ。
- ◆友達とのイメージを共有して思いを伝え合いながら、友達と一緒に楽しめるように支える。

描いたり、つくったりなど

好きなものを描いたり、空き箱やカップなどの廃材や新聞紙、色画用紙などを組み合わせて、イメージするものやごっこ遊びで使うものをつくりたりしている。友達がつくっているものと同じようなものをつくろうとして、友達につくり方を聞いたり、自分なりにつくったりする姿が見られる。友達同士で教え合ったり手伝ったりして、友達とやり取りしながらつくることを楽しむようになってきている。

- ◆いろいろな素材の色や形、質感の違いなどに興味をもち、自分なりに工夫したり試したりしながら遊びに取り入れようとする姿を認める。
- ◆それぞれのイメージするものが表現できるように、必要に応じて手伝ったり一緒に考えたりして、自分でできる喜びや充実感を味わえるように支える。

秋の自然物やいろいろな素材を使って

拾い集めたドングリや落ち葉を使ってイメージしたものをつくりたり、つくれたコースにドングリを転がして楽しんだりと、それぞれの遊びに秋の自然を取り入れている。繰り返し触ることで、いろいろな木の実や木の葉に興味をもち、身近に感じるようになっている。

- ◆材料を並べたり、組み合わせたりして、イメージしたものをつくることを楽しめるように、いろいろな木の実や木の葉、枝などを用意する。
- ◆繰り返し試したり楽しんだりできるように場をつくる。

5歳児（星組）5期の保育案（5期：10月中旬～11月下旬）

星組（男児 14名 女児 11名 計25名） 保育者： 井上明日香 鶴永里恵（補助）

1. 期のねらい

【ああしよう こうしよう ~仲間と共に~】

- 自分の役割を自分で決めて取り組もうとする。
- 友達の思いや考えを受け入れ、一緒に取り組もうとする。

2. 期待される子どもの姿

- 生活の中での問題に気付き、みんなで楽しく生活するための約束を考え、守ろうとする。
- 相手の気持ちを考えて譲ったり、親切にしたりしながら、生活しようとする。
- 自分の考えを言ったり友達の思いを聞いたりして、遊び方やルール、役割などを考えて遊ぶ。
- 秋の自然物に触れて生活し、自然の変化に気付いたり、木の葉や木の実、枝等集めたりする。
- 様々な材料を用いて特徴を生かしたり、工夫したりして遊ぶ。

3. この頃の遊びや生活の様子と援助



友達との関わり

登園すると友達と一緒に前日の遊びに取り組んだり、誘い合って自分たちで遊びを始めたりする。友達とつくりたいものやしたいことを相談し、共通のイメージや目的をもって遊んだり、役割を分担したりしながら遊ぶ姿もある。鬼ごっこやボール遊びなど集団での遊びを楽しみにして、自分から声をかけて加わり、多くの友達と関わり合いながら遊んでいる。

友達同士で思いを伝え合いながら遊びを進めようとしているが、自分の思いを優先して、自分のしたい遊び方にしようとしたり、思い通りにいかず強く主張しそうたりして友達とぶつかることもある。周りで見ていた子どもが仲介に入って一緒に考えたり、新たな遊び方を提案したりする姿も見られる。

◆いろいろな友達と遊んだり、協力したりする楽しさを味わえるように簡単なルールのある集団での遊びの場を設ける。また、友達とイメージを共有しながら遊びを進めていけるように支える。

片付け・生活習慣など

自分たちで片付けたり、友達を手伝ったり、進んで園全体の見回りをする子どももいるが、遊んでいた場をそのままにしていたり、友達任せになっていたりする子どももいる。自分のことは自分でしようとするが、支度や自分の持ち物の整理整頓に意識が向くにくい子どももいる。

◆遊びや生活の場を進んで片付けたり、年長児として園全体をみんなで片付けようという気持ちになったりするように、声をかけたり認めたりする。

◆持ち物の整理や扱いなどは、機会を捉えてその都度声をかけ、丁寧に行えるようにする。

降園前のひととき

みんなで一緒に季節の歌を歌ったり、絵本を見たり、簡単なルールのあるゲームをしたりすることを楽しんでいる。その日につくったものや遊んだことを紹介したい気持ちがあり、一緒に遊んだ友達を誘って紹介しようとする。その中で、自分なりに工夫したところを話したり、関心をもって質問したりする姿も見られる。また、遊びの中で相談したことや困ったことなどをクラスのみんなの話題として伝えたり、一緒に考えたりすることもある。近くに座っている友達が気になっていたり、紹介している友達の話を最後まで聞けなかったりする姿も見られるが、関心が続くように声をかけると気持ちを向けて参加している。

◆子どもたちの遊びや思いがつながるように、つくったものや遊んだこと、考えたことを紹介する時間を設ける。

◆自分の言葉で思いや考えを伝えられるように支える。

◆次の日の見通しや期待がもてるよう、遊びの中で困ったことを相談したり、しようと思っていることを共有したりする機会をもつ。



ボール遊び(ドッジボール・バレー・サッカー・野球など)

保育者を誘って始めたり、誰かがやっていると加わったりしながら、多くの友達と一緒にすることを楽しんでいる。ルールが分からぬ友達に教えるつもりが、強い口調になったり、入ったかどうかや当たったかどうかでもめたり、途中で遊びが中断して、そのままやめてしまうこともある。保育者が様子を見ながらルールを確認したり、どういふ思いだったのか聞いたりすると話し合い、続ける姿がある。

- ◆コートをつくったり、機会を捉えて誘ったりしながら大勢の友達と体を動かして遊べるように向けていく。
- ◆保育者も遊びの仲間に入り、みんなで遊ぶ楽しさを味わえるように関わっていく。子どもたちだけでも遊びを進めていけるように支えていく。



ショー・踊り

友達と一緒にきつたり曲に合わせて歌ったり踊ったりし、お客様を呼んで見てもらうことを楽しんでいる。マイクや曲など必要な物を準備し、自分達で順番や曲数を決めて交代しながらステージを使っている。

- ◆友達と一緒に動きや声など合わせる楽しさや友達と相談して進めていく楽しさが感じられ、充実感が味わえるように関わる。

体を動かして…雲梯・鉄棒・縄跳びなど

雲梯や鉄棒、縄跳びなど、自分なりの目標をもって粘り強く取り組んだり、友達同士で励まし合ったり、できることを認め合ったりしている。

- ◆自分なりの目標をもって挑戦している姿を認め、できたことに自信がもてるよう関わったり、様子に応じてコツを知らせたりしながら、粘り強く取り組む気持ちを支える。



鬼ごっこ・しっぽとり

多くの友達と一緒にすることを楽しみにしており、誘い合って繰り返し楽しんでいる。その中で普段関わりの少ない友達同士が一緒になり、相談しながらタイミングを合わせて逃げたり、助け合ったりしている。思いがぶつかることもあるが、困ったことを一緒に考えたり、意見を出し合ったりしながら解決しようとしている。

- ◆ルールを伝え合ったり相談したりしながら、自分たちで遊びを進めていこうとする姿を支える。
- ◆敵や味方が分かりやすいようにビブスを準備したり、安全にできるように範囲を確認したりして場を整理する。



木工・クラフト

ホットボンドを使って木の実や枝など自然物の形の特徴を生かしながら好きなものをつくりたり、飾りを付けたりして楽しんでいる。友達と話したり木片や自然物を組み合わせたりする中でイメージを膨らませたり、友達がつくれているものを見て取り入れたりしながらつくる姿が見られる。安全に気を付けて慎重に道具を使い、粘り強く取り組む姿も見られる。

- ◆イメージを膨らませながら、つくりたいものに合う材料が選べるよう、いろいろな種類や大きさの木の実や木片、枝などを用意する。
- ◆自分なりに試したり工夫したりする姿や友達同士でコツやアイデアを伝え合う姿を認める。



いろいろなごっこ遊び(家族ごっこ、お店屋さんごっこなど)

友達と相談しながら一緒に準備をしたり、役割を決めたりして、自分たちで遊びを進めようとする。様々な素材や廃材を使って、遊びに必要なものを本物らしくつくることを楽しんでいる。大型ブロックや大型箱積み木を使って友達と協力しながら場をつくり、居場所や拠点にして遊ぶ姿も見られる。つくったものを使って実際に遊ぶ中で、新たなアイデアを出し合いながら友達と工夫し、遊びを進めている。また、他のクラスの友達を説いて、いろいろな友達に楽しんでもらうことを喜んでいる。

- ◆共通のイメージや目的をもって、友達と相談しながら遊びを進めていけるように支える。
- ◆考えたり工夫したりしてつくれるように、様々な素材や材料を用意したり、相談にのったりする。

第5学年国語科學習指導案

5年2組 指導者 内山公介

1 単元 複合語

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

複合語同士を比較する活動を通して、語句の構成や変化の共通点に着目しながらパターンを見付け、複合語の種類や語順、短縮、連濁について理解することができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、「熟語の読み方」で、熟語は基本的に音読み+音読み、訓読み+訓読みのパターンで読むこと、その中に重箱読み(音読み+訓読み)や湯桶読み(訓読み+音読み)のような例外があることを学習してきた。また、「和語・漢語・外来語」で、音訓のいずれで読むのか、あるいはどの国に由来があるのかによって、さまざまな語句を和語、漢語、外来語の3パターンに分類できることを学んだ。このように、語句の読み方や由来にパターンがあることに気付き始めた子どもたちが「複合語」の学習に取り組む。このことは、語句の構成や変化に何らかの共通点があるという見方・考え方を働かせてパターンを見付け、言葉への自覚を高める子どもの姿につながると考えられる。

本単元では、複合語の種類(和語、漢語、外来語の組み合わせ方)、語順(カレー+コロッケで「カレーコロッケ」という複合語を作るとき、「カレーコロッケ」はコロッケの一種)、短縮(CTのように頭文字を合わせて頭字語にするなど)、連濁(「靴箱」のように「はこ」が「ばこ」に変化する)について学習する。子どもたちはこれまでの学習経験から、複合語の構成や変化にも共通点があるのではないかと予想するだろう。その際、子どもたちが複合語同士を比較して、語句の構成や変化の共通点に着目しながらパターンを見付ける過程を大切にしたい。そうすることで、子どもたちは語句の構成や変化にパターンがあることを実感し、身の回りの言葉への興味・関心を高めるだろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 複合語を複数のグループに分類して提示する。そうすることで、複合語同士を比較し、語句の構成や変化の共通点に着目しながらパターンを見付けることができるようとする。【発】
- 授業の終末に、複合語の種類や語順、短縮、連濁についての理解が深まった理由について振り返るよう促す。そうすることで、語句の構成や変化の共通点に着目しながらパターンを見付けることのよさを実感することができるようとする。【獲】
- 複合語の種類や語順、短縮、連濁のパターンが身の回りの言葉に当てはまるか、調べる場面を設定する。そうすることで、身の回りの言葉に構成や変化のパターンが当てはまることを実感し、言葉への興味・関心を高めることができるようとする。【活】

4 本単元（題材）の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○複合語の構成や変化にどのようなパターンがあるか、具体例を含めて理解している。	○どのような構成や変化のパターンがあるかを考え、身の回りの複合語がどのパターンに該当するかを判断している。	○複合語の構成や変化のパターンを進んで調べようとしている。

5 指導計画（全3時間）

第1次 複合語の種類、語順、短縮のパターンを見付ける（2時間）

第2次 複合語の連濁のパターンを見付ける（1時間）【本時1／1】

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 9:05~9:50 5年2組教室】

- (1) ねらい 語句の構成や変化の共通点に着目しながら複合語同士を比較する活動を通して、連濁の起きる場合と起きない場合のパターンを見付け、複合語の連濁について理解することができるようとする。
- (2) 本時で働く見方・考え方 「語句の構成や変化の共通点に着目すること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 連濁が起きる場合と起きない場合の複合語同士を比較して、連濁のパターンを見付ける。(25分) ・語句の構成や変化の共通点に着目すること ・連濁という言葉の意味 ・連濁が起きるパターン(前の語句が和語のとき) ・連濁が起きないパターン(前の語句が漢語や外来語のときや、後ろの語句にすでに濁音が入っているとき)	<ul style="list-style-type: none"> 「焼魚」にあって「焼肉」にないもの、「待針」にあって「針山」にないもの。何かな。 「焼魚」や「待針」には濁音があるよ。 <p>B <u>後ろの語句の最初の音が「さ」→「ざ」のように変わっているね。「連濁」というのだね。</u></p> <p>A 複合語の語順や短縮にはパターンがあったよね。連濁にもパターンはあるのかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 連濁が起きる場合、起きない場合には、どのようなパターンがあるのかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 「綿毛」「たまご形」「前歯」は起きる。「綿花」「エッグタルト」「乳歯」は起きないね。 前の語句が訓読みのときは起きているけれど、音読みのときは起きていないよ。 <p>A 和語のときは起きるけれど、漢語や外来語のときは起きないと答えそうだね。</p> <p>B 前の語句が和語でも「合鍵」や「山火事」の場合は連濁が起きていないよ。起きない場合が他にもあるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「鍵」「火事」は最初から濁音があるよ。 <p>A 濁音がもともとあると、前の語句が和語でも連濁は起きないと答えそうだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 連濁のことがよく分かったのはどうしてですか。 </div> <p>B <u>連濁はたまたま起きるのではなく、前の語句が和語のときというように、同じパターンで起きていることを見付けたからだよ。</u></p>	<p>○複合語を二つのグループに分けて提示して、「あり・なし」クイズをする。そうすることで、語句の構成や変化の共通点に着目することができるようとする。</p> <p>【活】</p> <p>○連濁について、理解が深まった理由を振り返るよう促す。そうすることで、語句の構成や変化の共通点に着目しながらパターンを見付けることのよさを再認識できるようする。</p> <p>【獲】</p> <p>○連濁が起きる場合や起きない場合のパターンが身の回りの複合語に当てはまるか、調べる場面を設定する。そうすることで、身の回りの言葉に構成や変化のパターンが当てはまることを実感し、言葉への興味・関心を高めることができるようする。</p> <p>【活】</p>
2 本時の学習を振り返る。(10分) ・語句の構成や変化の共通点に着目することのよさ	<p>連濁のことがよく分かったのはどうしてですか。</p>  <p>B <u>連濁はたまたま起きるのではなく、前の語句が和語のときというように、同じパターンで起きていることを見付けたからだよ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 起きない場合にもパターンがあって、なぜ起きないのか、理由を説明できたからだね。 <p>B 筆箱は連濁しているよ。前の語句が「ふで」と和語だからね。パターンが分かると連濁する理由まで説明できるね。</p> <p>A <u>パターンを意識すると身の回りの複合語にも連濁が隠れていて、言葉の見方が変わったね。言葉っておもしろいね。</u></p>	
3 本時の学習で見付けたパターンが身の回りの複合語に当てはまるかを調べる。(10分) ・見付けたパターンを意識して複合語を捉えること		

第5学年国語科学習指導計画

5年2組 指導者 内山公介

1 本単元までの学びの過程

單元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
熟語の読み方 (全2時間)	・熟語は基本的に <u>音読み+音読み</u> 、 <u>訓読み+訓読み</u> のパターンで読むのだったね。このパターンを知っておくといろいろな熟語が読めるよ。
和語・漢語・外来語 (全2時間)	・語句は読み方や由来で <u>和語</u> 、 <u>漢語</u> 、 <u>外来語</u> の3パターンに分けることができたよ。音・訓のどちらで読むかは、和語と漢語を区別する手がかりになったね。

2 本単元の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ	3時間	が本時
第1次 語句の構成や変化の共通点に着目しながら、複合語の種類、語順、短縮のパターンを見付ける。		2時間	
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・複合語の種類、語順、短縮のパターンを、具体例を含めて理解すること（知） ・身の回りの複合語がどのパターンに該当するかを判断すること（思） ・複合語の構成や変化のパターンを進んで調べようすること（態） 		
<p>□複数のグループに分類された複合語の共通点について話し合うことを通して、複合語の種類と語順のパターンを見付ける。 (1時間)</p> <p>□短縮のされ方の共通点について話し合うことを通して、複合語の短縮のパターンを見付ける。 (1時間)</p>	<p>・二つ以上の言葉が結び付いて、新たな一つの言葉になったものを複合語というのだって。複合語は語句の組み合わせ方でいくつかパターンがあるらしいよ。「カレーコロッケ」は「外来語と外来語」、「昔話」は「和語と和語」の組み合わせだ。和語、漢語、外来語の組み合わせでパターンがあるね。先生が「カレーコロッケ」と「コロッケカレー」の絵をノートに描いてみるよう言っているよ。「カレーコロッケ」はコロッケで「コロッケカレー」はカレーの絵になるな。「蜜蜂」や「蜂蜜」も描いてみよう。もしかして、複合語の語順にもパターンがあるのではないか。Aさんが、複合語は前の語句が後ろの語句を修飾していると言っているよ。他の複合語にも当てはまるかな。「昔話」は「昔の話」のことだから当てはまるね。複合語は後ろの語句のことになっていることが分かったよ。自分の知っている複合語にも語順のパターンは当てはまるのかな。「附属小学校」は小学校のことだから当てはまるね。パターンがあると思って共通点を探すと、複合語の語順について理解できたね。</p> <p>・前回は語順のパターンを見付けたね。今日は黒板に複合語が三つに分けて貼られているぞ。それぞれのグループに共通点はあるかな。ICTやRPGは簡単だ。Information and Communication Technologyの頭文字をつなげてICTだ。バレーや携帯のグループも共通点が分かったぞ。「バレー・ボール」のように、前の語句だけを読んでいるね。「リモコン」や「天丼」は前と後ろの両方をつなげているよ。Aさんは、まだ共通点があると言っているぞ。「リモート・コントロール」「てんぷら・どんぶり」、前後から二つずつ音をとって合わせているね。どのグループも複合語が短くなっていたよ。こういうのを「短縮」というのだって。短縮のされ方にもパターンがあったね。自分の知っている複合語の短縮は、どのパターンかな。「附属小学校」は「附属」と言うからバレーと同じパターンだね。語句の構成や変化の共通点に着目すると、パターンを見付けられたね。</p>		

第2次 語句の構成や変化の共通点に着目しながら、複合語の連濁のパターンを見付ける。 1時間

- 学習内容**
- ・連濁の起きる場合と起きない場合のパターンを、具体例を含めて理解すること（知）
 - ・身の回りの複合語における連濁の有無がどのパターンに該当するかを判断すること（思）
 - ・連濁の起きる場合や起きない場合のパターンを進んで調べようとしてすること（態）

<p>□連濁が起きる場合や起きない場合の共通点について話し合うことを通して、複合語の連濁のパターンを見付ける。</p> <p>(1時間)</p>	<p>・学習指導案を参照。</p>
--------------------------------------------------------------------------	-------------------

第2学年国語科 学習指導案

2年1組 指導者 松本裕之

1 単元 筆者の説明の工夫を捉え、工夫をいかして書こう 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

既習単元の説明的な文章を読んで見いだした筆者の説明の工夫をいかして、おもちゃの作り方を読み手にとって分かりやすく書くことができる。

3 本単元の捉え

本単元における「筆者の説明の工夫をいかす」とは、「見出しや事柄の順序を表す言葉等の筆者が読み手に文章を分かりやすく伝えるために使っている言葉をいかして書くこと」である。

本学級の子どもたちは、「たんぽぽのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」の学習で、接続語や時間の順序を表す言葉に着目しながら読むことで、文章の構成や内容の大体を捉える経験をした。また、「紙コップ花火の作り方」の学習では、見出しや事柄の順序を表す言葉に着目して意味や効果について話し合い、読み手にとって分かりやすい説明の工夫が施されているを見付けた。このような子どもたちが、既習単元において見いだした筆者の説明の工夫をいかして、おもちゃの作り方を分かりやすく書く学習に取り組む。このことは、読み手にとって分かりやすくなるように、使う言葉を吟味して文章を書こうとする子どもの姿につながるだろう。

本単元「おもちゃの作り方をせつめいしよう」は、「紙コップ花火の作り方」等で見いだした筆者の説明の工夫をいかして、自分が1年生に紹介したいおもちゃの作り方を読み手にとって分かりやすく書く学習である。子どもたちは、例示されている「けん玉の作り方」と既習教材の「紙コップ花火の作り方」の文章を比較することで、まとまりが捉えやすい見出しや作り方の順序が想像しやすい「まず」「次に」等の事柄の順序を表す言葉が使われている共通点を見いだすであろう。その際、子どもが見付けた筆者の説明の工夫の意味や効果について話し合う過程を大切にしたい。そうすることで、読み手にとって分かりやすい文章を書く際に有効な筆者の説明の工夫に気付き、よさを感じることができると考える。このことは、見いだした筆者の説明の工夫を自らいかして文章を書き表そうとする子どもの姿につながるだろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 既習教材である「紙コップ花火の作り方」とを比較し、書き方について気付いたことを伝えるよう促す。そうすることで、筆者の説明の工夫に着目し、共通点に気付くことができるようとする。【活】
- 子どもが筆者の説明の工夫を見付けた際、その意味や効果について問う。そうすることで、筆者の説明の工夫のよさを再度実感することができるようとする。【獲】
- 完成した文章を友達と読み合う際、文章を書く際にいかした筆者の説明の工夫のよさを見付け、感想を伝え合うよう促す。そうすることで、読み手にとっての分かりやすさを考えて文章を書くことの大切さを実感することができるようとする。【獲】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○筆者の説明の工夫を使って、おもちゃの作り方を書いている。	○読み手にとっての分かりやすさを考え、文章の書き表し方を工夫している。	○粘り強く、読み手におもちゃの作り方が伝わるように、説明する文章を書こうとしている。

5 指導計画（全5時間）

第1次 「けん玉の作り方」を読み、筆者の説明の工夫を見付ける（1時間）【本時1／1】

第2次 見付けた筆者の説明の工夫を使って、おもちゃの作り方を書く（3時間）

第3次 書いたおもちゃの作り方を友達と読み合い、感想を交流する（1時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 11:05~11:50 2年1組教室】

- (1) ねらい 筆者の説明の工夫に着目しながら「けん玉の作り方」を読み、気付いたことを交流する活動を通して、おもちゃの作り方を書く際に使いたい説明の工夫を自分なりに決めることができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「筆者の説明の工夫に着目すること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 例示されている「けん玉の作り方」を読み、気付いたことを交流する。(35分) ・イラストと文の対応に着目すること ・見出しに着目すること	<ul style="list-style-type: none"> 1年生に紹介するおもちゃの作り方を書くために、同じ2年生が書いた「けん玉の作り方」を読んで考えるのって。 <p>A あれ、前に学習した「紙コップ花火の作り方」と似ているところがあるぞ。</p> <p><u>B <作り方>を見てみると、説明の上にいくつかイラストが描いてあって似ているな。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「紙コップ花火の作り方」では写真だったけれど、イラストでも分かりやすいな。 イラスト以外にも工夫がありそうだよ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「けん玉の作り方」にはどのような説明の工夫があるのかな。</p>	<p>○既習教材である「紙コップ花火の作り方」と比較し、書き方について気付いたことを伝えるよう促す。そうすることで、筆者の説明の工夫に着目し、共通点に気付くことができるようとする。</p> <p style="text-align: right;">【活】</p>
・事柄の順序を表す言葉に着目すること ・筆者の説明の工夫の効果に気付くこと ・文末表現に着目すること	<p>A <材料と道具><作り方><遊び方>も同じように書かれているよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 括弧にして書いてあると何について書かれているかのまとまりが分かりやすいね。 <p>B これは前に見付けた「見出し」という筆者の説明の工夫だったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <作り方>を読んでみると、「まず」「次に」「それから」が使われているぞ。 <p><u>A 「まず」や「次に」「それから」があると、作る順序がイメージしやすくなるね。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これは「順序を表す言葉」と言ったよね。 「～です。」の他に、「～すると楽しいですよ。」と、文の最後の書き方が違うことも筆者の説明の工夫だと感じたよ。 「～すると楽しいですよ。」と相手に呼びかけるように書くとやってみたくなるね。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どのような説明の工夫を使ってみたくなったかな。</p>	<p>○子どもが筆者の説明の工夫を見付けた際、その意味や効果について聞く。そうすることで、筆者の説明の工夫に着目し、よさを再度実感することができるようする。</p> <p style="text-align: right;">【獲】</p>
2 本時の学習を振り返る。(10分) ・おもちゃの作り方を書く際に使いたい筆者の説明の工夫を決めること	<p><u>B 私は見出しを必ず入れることにしたよ。なぜなら、文章のまとまりが分かりやすくなつて、読みやすくなるからね。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 私は文だけだと1年生が分からなくなるからイラストを多めに入れることにしたよ。 早くおもちゃの作り方を書いてみたいな。 	<p>○おもちゃの作り方を書く際に使いたい筆者の説明の工夫を選ぶように促す。そうすることで、説明の工夫を自ら書く際にいかすことができるようする。</p> <p style="text-align: right;">【獲】</p>

第2学年国語科学習指導計画

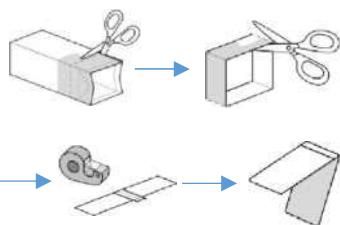
2年1組 指導者 松本裕之

1 本単元までの学びの過程

単元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
筆者の説明の工夫を見付けよう (全4時間)	・「紙コップ花火の作り方」では、<材料と道具><作り方>のような見出しを書いたり、「まず」「次に」といった順序を表す言葉を使ったり、説明の上に写真を載せたり等、 <u>読み手にとって分かりやすい文章</u> にするために、筆者の説明の工夫が多く使われていることが分かったよ。

2 本単元の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ	5時間	が本時
第1次 「けん玉の作り方」を読み、筆者の説明の工夫を見付ける。			1時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の説明の工夫を見付け、その意味や効果について自分なりの考えをもつこと（思） ・文章を読んで考えたことを伝え合おうとすること（態） 		
<input type="checkbox"/> 「けん玉の作り方」を読み、筆者の説明の工夫について話し合う。 (本時) (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を参照。 		
第2次 見いだした筆者の説明の工夫をいかして、おもちゃの作り方を書く。			3時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・見いだした筆者の説明の工夫をいかして、おもちゃの作り方を書いていること（知） ・読み手を意識して、文の組み立てや使う言葉を考えていること（思） ・筆者の説明の工夫をいかして説明する文章を書き表そうとすること（態） 		
<input type="checkbox"/> 作り方を説明するおもちゃを決め、説明する順序について構想する。 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・私は、説明の工夫として、「見出し」と「順序を表す言葉」を必ず使うことに決めたよ。使う説明の工夫が決まったから、説明するおもちゃと説明の順序を考えていこう。私は、身近な材料を使って1年生でも簡単に作れるパッチンカエルの作り方について説明することにしたよ。だって、生活科で作って遊んで楽しかったからね。説明するものが決まつたから、次は説明の順序についてだ。「紙コップ花火の作り方」と「けん玉の作り方」にも書いてあったように、まずは、まとまりが分かりやすくなるように見出しを書いていこう。確かに、初めの見出しが<材料と道具>だったよね。初めから<作り方>を書いてしまったら、何を使って作るのか、読む1年生にとって分かりにくくなりそうだからね。見出しの順序にも意味があるから、確認できてよかったです。よし、<材料と道具>、<作り方>、<遊び方>の順で3つのまとまりに分けられたぞ。次の時間は、見出しに合わせて文章を詳しく書いてみよう。 		
<input type="checkbox"/> 筆者の説明の工夫をいかして、説明する文章を書く。 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は見出しに合わせて文章を書いていこう。まずは、<材料と道具>からだね。パッチンカエルに必要なものは、「・牛乳パック・輪ゴム・はさみ・マジック・セロハンテープ」の5つだったな。次は、2つ目の見出しの<作り方>についてだ。<作り方>では、「まず」「次に」といった順序を表す言葉を使うと、読む人にとって作る順序が分かりやすくなるのだったね。順序を表す言葉を使って、作り方を書いてみよう。「まず、牛乳パックを4cmぐらいの幅に切ります。さらに、半分に切ります。次に、白い面を上にして、真ん中の折り目が丈夫になるようにテープを付けます。それから、白い部分が外側になるように折ります。下 		





の部分に輪ゴムをかけられるように切り込みを入れます。最後に、白い部分にお気に入りのカエルをマジックで描きましょう。切り込みの部分に輪ゴムをクロスするようにかけたら、出来上がりです。」時間がかかったけれど、とりあえず書けたぞ。でも、1年生に伝わるかどうか心配だな。友達と一緒に文章を読み合って確かめてみよう。私の文章を読んだAさんからは、「下の部分に輪ゴムをかけられるように切り込みを入れます」の部分が、イラストがあると、どこを切ればよいのかもっと分かりやすくなると思うと言われたよ。Aさんのアドバイス通り、イラストを付け足してみようかな。Bさんの文章を読ませてもらったら、説明が難しいところで「イラスト①のように」を使っていたよ。この言葉は筆者の説明にもあったよね。イラストを見て確認することができて分かりやすかったな。Cさんは、作り方に合わせてイラストを描いていたよ。1年生がイメージしやすくなるからこの工夫も素敵だな。私もこれらの説明の工夫を使って文章を仕上げてみよう。「<遊び方>裏にして、イラストのように指で押さえ、指を離して飛ばして遊びます。どれだけ高く飛ばせるか競争しても楽しいですよ。」よし、最後の<遊び方>についても説明の工夫を使って書くことができたぞ。次の時間は友達と作品を読み合って1年生に伝わるような文章になったのかを確かめてみたいな。

第3次 完成したおもちゃの作り方の文章を友達と読み合い、感想を交流する。

1時間

- 学習内容**
- ・友達が書いた文章から説明の工夫を見付け、そのよさを伝えていること（思）
 - ・友達が書いた文章を読み、よさを見付けようとしていること（態）

□完成した文章を友達と読み合い、感想を伝え合う。（1時間）	<p>・今日は一人一人が書いたおもちゃの作り方を読み合って、感想を伝え合うのだね。AさんとBさんの文章のどちらにも、見出しが使われているな。それに、作り方の説明に合わせるようにイラストも描いてあるから、作り方が分かりやすくなっていたよ。また、Dさんの文章には<作り方>の最後に「このように」というまとめを表す言葉が使われていたよ。なぜ「このように」を使ったのかをDさんに聞いたら、「たんぽぽのちえ」で見付けた文をまとめる説明の工夫だから使ったそうだよ。これまで学んだ筆者の説明の工夫が繋がっていることが分かったよ。そして、私の完成した作品を改めて読んだAさんからは、イラストが入ったことで、作り方の説明がよりイメージしやすくなったね。と褒めてもらえたよ。順序を表す言葉を使ったり、文に合わせてイラストを描いたりしてよかったな。このように、みんなで完成した作品を読み合うと、みんなが読み手となる1年生にとっての分かりやすさを考えて、筆者の説明の工夫を使っていたことが分かったよ。早く1年生にも読んでもらいたいな。</p>
-------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

国語科 学習指導案

1年D組 指導者 前村 昂宏

1 ねらい さかのぼって読む

○各場面を支えている表現を関連付けながらさかのぼって読むことを通して、結末の「僕」の行動の意味を表現の効果から読み取ることができる。

2 教材 「少年日の思い出」（ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳 光村図書1年）

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は、物語の内容に心をひかれているが、表現の機微にまでは気付いていない。

生徒に、「心に残った場面」「授業で考えてみたいこと」を書かせると、以下の傾向が見られた。

- ・結末で「僕」がちょうどをつぶした場面に注目した生徒が約65%いた。
- ・ちょうどをつぶした理由について言及した意見として、「怒りにまかせた」など「僕」が感情的になっているという読みや、「罪を償おうとした」など、道徳的な読みが多く見られた。
- ・「エーミールの台詞が関係していると感じた」と直前の場面とのつながりに気付いている生徒もいたが、どのように関係しているか言語化することはできていない。

このように、生徒は、ちょうどをつぶすという行動に関心をもっているものの、それまでの場面と関連付けて読んだり、「一つ一つ」などの表現に着目して読んだりするまでには至っていない。

(2) 場面同士のつながりや、場面を支えている表現が、巧みに構成されている教材である。

生徒は、小学校段階で場面の移り変わりや登場人物の心情の変化に着目する学習を積み重ねてきており。本教材はその学びをさらに深化させ、場面同士のつながりと表現の効果を統合的に読み取る力を育成する教材として適している。読み手は「僕」がちょうどをつぶすという衝撃的な行動に対して自然に「なぜこのような行動をとったのか」という疑問をもち、その答えを求めてエーミールと対峙する場面やちょうどを盗む場面、「僕」がちょうどを収集する場面等の場面を再読したくなる。

結末場面で「僕」がちょうどをつぶすときの心情は、それまでの場面と関連付けて、表現に着目して読むことで深く考えることができる。「一つ一つ」という表現は、怒りにまかせた衝動的な破壊行為ではなく、自分の「宝物」であったちょうどや、ちょうどを捕らえた瞬間の思い出との、静かで意図的な決別を表している。また、この行動の背景には、「僕」のちょうどに対する「熱情」、エーミールとの関係、「償いのできないもの」への絶望など、物語全体に表現されている要素が結集している。

(3) 各場面の内容や表現が、結末場面と深くつながっていくおもしろさを実感させたい。

生徒の知りたいという気持ちを喚起し、持続させながら読み進める探究的な学習の場面を設定するために、次のことに留意する。

ア 「あめだま」（新美南吉）を読み、結末と伏線が深くつながっていることを印象付ける。

（「少年日の思い出」を扱う2週間前の授業で、布石として実施した。）

イ 時系列で読ませていくのではなく、生徒が最も関心をもった結末場面からさかのぼって読ませることで、「なぜこうなったのか」という問い合わせを生み、伏線や表現の工夫を発見的に読み取らせる。

ウ 本時では、これまで読んだ各場面をふまえ結末場面を再読しながら、表現の効果を語らせていく。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、表現を基に捉えることができる。	○文章を読んで考えたことを、確かな根拠をもって表現することができます。	○複数の場面を関連付けて読む活動に粘り強く取り組み、物語を読み深めようとしている。

5 授業計画（計7時間）

- (1) 本文を通読し、初読の感想をもつ。 1時間
- (2) ちょうどをつぶす場面に対して多様な解釈を出し合う。 1時間
- (3) 各場面をさかのぼって読む。 4時間
- (4) ちょうどをつぶす場面を再読する。 1時間（本時）

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 1年D組教室】

(1) 主眼 これまでに読んだ場面を踏まえて、結末場面を再読することで、表現の効果について自分なりの考えをもつことができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
①本時の学習課題を確認する。 ・学習課題の確認	・結末場面の見方が変化していることに気づく生徒もいるだろう。	①「文にある表現とそれが及ぼすことは何か」という生徒の感想を紹介し、学習課題につなげる。
②二つの訳を読み比べる。 ・表現への着目	<p>岡田朝雄訳 「暗がりの中でふたを開けた。それからぼくは次から次へと蝶や蛾を取り出して、それらを指で粉みじんに押しつぶしてしまった。」</p>	②表現に着目する手立てとして、同作品同場面の岡田朝雄訳を提示する。 ・ワークシートを配付し、二つの訳の大きな違い「一つ一つ」 ⇄ 「次から次へ」、「粉々に」 ⇄ 「粉みじんに」を表出させる。

結末場面をこれまでの場面と関連付けて読もう。

③結末場面を各場面と関連付けて読む。 ・表現方法	・以下のような表現に着目するだろう。 •「自分は盗みをした、下劣なやつ」 •「色の斑点の一つ一つ」等、ちょうどを収集する際の「一つ一つ」。 •「僕」がちょうどを収集する際の「緊張と歓喜」「微妙な喜び」「热情」「宝物」等、ちょうどに対する思いがわかる表現。	③ワークシートに個人の考えを記入するよう伝える。 ・これまでの学習を踏まえ、高橋訳を読み深める視点をもつよう伝える。
④グループで意見を共有する。		④意見を交流する際、場面のつながりや表現など、根拠をもって話合うよう指示する。
⑤全体で意見を共有する。 ・多様な意見		⑤生徒の意見の中で本文の表現と矛盾する部分や疑問点をとらえ、全体に問い合わせる。 ・客が語り出す場面の「闇」と結末場面の「闇」の関わりに気付かせる。 ・「償うためにつぶした」という読みに対し、「一度起きたことは、もう償いのできないものだと悟った」や「喉笛に飛びかかるところだった」という表現に触れた生徒の意見を価値付ける。 ・二つの訳に優劣があるわけではないことを伝える。
		⑥ワークシートに「この授業で考えたことと学んだこと」を書かせる。
⑥本時を振り返る。 ・探究後の自己の認識	・「僕」がちょうどを押しつぶしてしまった心情理解が深まった。 ・表現に着目して読むことで解釈が深まる。	

(3) 評価 場面同士のつながりや表現の効果について、これまでの学習を踏まえて自分なりの言葉で説明することができる。

第3学年社会科學習指導案

3年2組 指導者 松富仁美

1 単元 地域のくらしを守るしくみ～事件・事故編～

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

地域の事件や事故への対応や、防止するための取組についてくらしを守る人々の働きや相互関係を捉えながら調査することを通して、自らも地域の一員として協力しようという思いをもつことができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、消防署の職員や消防団員の働きと相互関係を捉えることで、火災から地域のくらしを守る仕組みについて学んできた。このような子どもたちが、本単元でもくらしを守る人々の働きや相互関係を捉えながら、地域の事件や事故への対応とそれらを防止するための取組を調査していく。このことは、社会に見られる課題を見付け、自らも地域のくらしを守る一員であることを自覚し、よりよい社会を実現していこうとする子どもの姿につながるだろう。

本単元は、地域の事件や事故への対応とそれらを防止するための取組を調査し、地域の一員としての関わり方を見いだす学習である。ここでは、子どもたちがくらしを守る人々の働きや相互関係を自覚的に捉えながら、調査活動をすることを大切にしたい。そうすることで、子どもたちは、関係機関や地域住民の働きや相互関係について予想し、自ら問い合わせをもつだろう。問い合わせを解決するための調査活動を繰り返した子どもたちは、最終的にくらしを守る上での現代社会の課題に辿り着く。そして、自らも相互関係に含めて、課題の解決策を考えていく。このことは、事件や事故から地域のくらしを守る仕組みを捉え直し、地域の一員としてよりよくくらしを実現しようとする子どもの姿につながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 火災から地域のくらしを守るための仕組みについての資料を掲示しておく。そうすることで、事件や事故からくらしを守る仕組みについて調べる際も、くらしを守る人々の働きや相互関係を自覚的に捉えながら調査活動ができるようになる。【活】
- 調査したことを、くらしを守る人々の働きや相互関係という視点から整理し、新たな問い合わせをいだす時間を設定する。そうすることで、くらしを守る人々の働きと相互関係を捉えることが、新たな問い合わせにつながると気付くことができるようになる。【獲】
- 地域の一員であることを視点に現代社会に見られる課題の解決策について話し合う場を設定する。そうすることで、地域のくらしを守るために、自らも含めた人々の働きや相互関係を捉えながら、地域の一員としてできることを判断していくことができるようになる。【活】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○地域の安全なくらしは関係機関や地域住民によって守られていることを理解している。	○地域の安全なくらしについて、人々の働きや相互関係を捉えながら調べ、自分にできることを判断し、表現している。	○地域の安全なくらしについて、人々の働きや相互関係を捉えながら、自分にできることを意欲的に表現しようとしている。

5 指導計画（全7時間）

第1次 地域のくらしを守る仕組みについて問い合わせをもつ（1時間）【本時1／1】

第2次 地域のくらしを守る仕組みについて調査する（5時間）

第3次 現代社会の課題の解決策について話し合う（1時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 9:05~9:50 3年2組教室】

- (1) ねらい 地域の事故への対応や、防止するための取組についてくらしを守る人々の働きや相互関係を捉えながら話し合うことを通して、くらしを守る仕組みに関する問い合わせをもつことができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「くらしを守る人々の働きや相互関係を捉えること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけと めざす子どもの姿
1 事故が起きたときの人々の対応について予想し、話し合う。 (20分) ・事故が起きたときに関わっているであろう人々 ・事故への対応をするであろう関係機関の働きや相互関係	<ul style="list-style-type: none"> ・火事からくらしを守る仕組みにはいろいろな人が関わっていたのだったね。 ・消防署や消防団員以外にも僕たちのくらしを守ってくれる人がいると思うよ。 ・事故のニュースを見ると、警察の人が車を確認したり、何かを調べたりしていたよ。 <p>A 怪我をした人が映っていなかったけれど、すぐに救急車が来て病院へ運んだのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事のときのように、誰かがすぐに通報したから早く対応できたのではないか。 <p>B <u>事故が起きたときもいろいろな人が協力しているそうだね。</u></p> <p>地域のくらしを守るために、どのような仕組みがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が、警察は事故が起きたときだけ働いているのかと聞いているよ。 ・そんなはずはないよ。事故が起きていないときもみんなを守るために働いているよ。 ・登校するときに、白バイを見るのだけれど、町の安全を見守ることも仕事だと思うな。 ・先生が事故の発生件数が分かるグラフを見せてくれたよ。10年前と比べて半分に減っているよ。どうしてこんなに減ったのかな。 ・もしかして、火事を防ぐ取組のよう警察と地域の誰かが協力して事故を防ぐための取組をしているのではないか。 ・そうだね。こんなに減っているのだから、たくさんの人が協力しているそうだね。 <p>みんなで見付けた予想をもとに、これから調べていきたいことは何ですか。</p>	<p>○火災から人々のくらしを守るための仕組みを想起させた上で、動画を見せる。そうすることで、人々の働きや相互関係を自覚的に捉えながら、事故への対応について予想することができるようとする。 【活】</p> <p>○警察の人々が有事の際だけ働いているのかを問う。そうすることで、人々の働きや相互関係を自覚的に捉えながら、事故を防止するための取組を予想することができるようとする。 【活】</p> <p>○予想したことを整理する時間を設定する。そうすることで、人々の働きと相互関係を捉えながら問い合わせをもつことができるようとする。 【活】</p>
2 事故を防止するための取組について予想し、話し合う。 (15分) ・事故を防止する取組をしているであろう関係機関の働きや相互関係	<p>A 火事の対応のように事故のときの対応も早いと思うから、その秘密を調べたいな。</p> <p>B <u>事故が減っているからどのような人たちが協力しているのか調べたいよ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰がどんなことをしているのか、取材したり、本やタブレットで調べたりしたいな。 	
3 本時の学習を整理し、今後の学習に向け問い合わせをもつ。 (10分) ・関係機関の働きや相互関係を捉えながら問い合わせをもつこと		

第3学年社会科學習指導計画

3年2組 指導者 松富仁美

1 本単元までの学びの過程

單 元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
地域のくらしを守るしくみ～火事編～ (全7時間)	・消防署の人たちは日々の訓練もしながら、火事が起きたときに消防団員と協力することで僕たちのくらしを守ってくれていることが分かったよ。

2 本単元の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ	7時間	が本時
第1次 地域のくらしを守る仕組みについて問い合わせをもつ。		1時間	
学習内容	・地域のくらしを守る仕組みについての問い合わせをもつこと（態）		
<input type="checkbox"/> 事故からくらしを守る 仕組みについての問い合わせをもつ。（本時） (1時間)	・学習指導案を参照。		
第2次 地域のくらしを守る仕組みについて調査する。		5時間	
学習内容	・事件や事故への対応やそれらを防止するための取組について理解すること（知） ・人々のはたらきや相互関係を捉えながら、事件や事故から地域のくらしを守る仕組みについて調査活動をすること（思） ・事件や事故から地域のくらしを守る仕組みについて調査活動をしようとすること（態）		
<input type="checkbox"/> 事故が起きたときの対応について調べる。 (1時間)	・今日から事故が起きたときや事故を防ぐために、誰がどのようなことをしているのか、調べていくのだったね。先生が、事故が起きたときの写真を見せてくれたよ。警察の人、レスキュー隊、救急車が来ているね。警察の人は、事故を起こしてしまった人と話したり、交通整理をしたりしているね。事故が起きたら様々な人たちが駆けつけることができるのなぜだろう。消防と同じように通信指令室があるのではないかな。資料を見てみよう。通報をするとやっぱり県警本部にある通信指令室につながっているのだね。そして、指令室は警察署や交番、パトカーや消防署へ連絡しているよ。最初に連絡するのは事故を発見した人だ。発見した人が通報して、県警本部から一気に連絡するからすぐに対応できるのか。すごい仕組みだ。事故を発見したらすぐに連絡することでたくさんの人を救えるのだろうね。人を救うためには事故が起きていないときも、消防署の人たちの様に何かしているはずだよ。きっと、いろいろな人たちと警察の人たちが協力して事故に対応していると思うな。警察の人の仕事について調べよう。		
<input type="checkbox"/> 事故を防止するための日頃の取組について調べる。 (1時間)	・今日は、警察の人の普段の仕事について調べるのだったね。家の人が警察官だという友達が、話を聞いてきたそうだよ。地域を見守るために交番や駐在所で働く人がいて、警察本部と協力したり事故を防止する取組をしたりしているのだって。それぞれの場所で働いている警察の人はどのようなことをしているのかな。僕は交番の人を調べてみるぞ。困っている人を助けたり、パトロールをして事故が起きないよう見張ったりしているのか。交番の場所を確認してみると山口市全体にあるから、どこで事故が起きてもすぐに駆けつけることができるね。しかも、消防署と同じでいつでも対応できるように交代で働いているのだね。みんなの調		

<p>□暮らしを守るために地域で取り組んでいることについて予想する。 (1時間)</p> <p>□暮らしを守るために地域で取り組んでいることについて調査してきたことを共有する。 (1時間)</p> <p>□山口県警察本部の人と意見を交流する。 (1時間)</p>	<p>べたことを聞いてみよう。警察本部の人はヘリコプターも準備しているのか。警察本部と交番の人が溺れた人を救助する訓練もしていたのだね。警察の人はどのような場所でも、24時間地域を見守っていることが分かったよ。すごい仕組みだ。でも、駐在所を調べた人が、数が減っていると話しているよ。警察の人が少ない地域は大丈夫かな。このような地域は警察の人と地域の人が協力していそうだ。調べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の近くに『こども110番の家』があったよ。子どもたちの安全を見守っているのだって。『防犯ボランティア』という地域の取組を調べてきている友達もいるよ。子ども達の登下校の様子や地域を見守っているか。でも、年々ボランティアの人数が減っているのだって。見守る取組以外に事故を防ぐ取組もあるのではないか。他の友達はカーブミラーや標識について調べているよ。地域の人と警察の人が話し合って設置することができるのだって。そういうえば地下道は自転車を押して歩くよう伝える標識があるね。やっぱり地域には事故が起きないようにする工夫がたくさんあるのだね。次の授業までに、どのような工夫があるか調べてみよう。 ・調べてみると、たくさんの標識や交通ルールがあることが分かったよ。他にも防犯ブザーや反射板は身を守る工夫だと思うよ。みんなの見付けてきたことも知りたいな。話し合ってみよう。友達が自転車の乗り方について話していたよ。みんなで、交通ルールを守ることや事件に巻き込まれないような行動をとることが大切だね。他にはどんなことができるのかな。警察の人と話してみて自分ができることを増やしたいな。 ・今日は、山口県警察本部の人と話ができるのだって。警察本部の人たちに自分たちが考えたことを話してみよう。僕は交通ルールを守るためにも、標識の意味や自転車に乗るときの決まりを理解したいと話したら、警察の人が褒めてくれたよ。警察の人たちは市民の協力が必要なのだということも話していたね。やっぱり警察の人たちだけではなく、僕らの力が必要なのだね。自転車事故の件数が増えたことやスマートフォンを使った振込詐欺が増えたのだということも教えてもらったよ。僕達にできることがありそうだな。地域のためにできることをまだまだ増やしたいな。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第3次 現代社会の課題の解決策について話し合う。

1時間

- 学習内容**
- ・相互関係に自らを含めながら、自分のできることについて考え、表現すること（思）
 - ・現代社会の課題について考え、よりよく暮らしにするための解決策を考えようとしてすること（態）

<p>□事件や事故における現代社会の課題について、解決策を話し合う。 (1時間)</p>	<p>・警察の人の仕事は、事件や事故を防ぐ取組を多くしていたね。それでも、限界があるから、僕達の力も必要なのだよね。みんながどのようなことを考えてきたのか聞いてみよう。友達は警察の人から自転車事故の件数が増えた話を聞いて、できることを調べてきたのだって。なるほど、自転車について新しい法律がつくられたのか。スマートフォンを見たり、イヤホンを着けたりしたまま運転することは禁止されているのだね。友達はそうしたニュースを見て、家の人と話題にすると事故防止の意識が高まってよいのだと話しているよ。最近は危険な事件が多いから、防犯のためにできることについて警備会社の人たちの話から調べて来たよ。インターネットの使い方に気を付けたり、留守番の仕方を工夫したりするなど、自分の身を自分で守ることが大切だと思ったよ。友達の意見を聞くと新しいことにも気付けたな。これからは、多くの人に守られるだけでなく、自分も地域の安全なく暮らしを支える一員として頑張るぞ。</p>
--------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

社会科 学習指導案

3年A組 指導者 西村 勇輝

1 ねらい 損得の奥にある、税の本質を見抜く

○身近な「103万円の壁」を切り口に、税が制度としてもつ矛盾や限界に気付き、その社会的意義を多角的に考えることができる。

2 教材 「日本の税制度」

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は税制度への関心は一定程度有しているがその制度の背景や公平性までは理解していない。

生徒は小学校社会科で「税金はみんなの暮らしを支えるもの」と学び、日常生活の中でも消費税や地域の公共サービスを通して税の存在を感じ取っている。中学校段階では、その学びをより実生活に結び付け、自分の生活や将来の働き方と関わるものとして捉えようとする姿も見られる。生徒の中にはニュースや家庭での会話を通じて、働くことやお金を得ることへの関心を高めている姿もある。一方で、税を「取られるもの」と捉える傾向が強く、制度がどのような目的で設けられ、どのように社会の公平性を支えているのかまでは意識が及びにくい。「103万円の壁」という言葉についても、耳にしたことはあっても、「超えると損をする」という印象的なフレーズだけが一人歩きし、その背景にある税制や社会保障制度の仕組みまで理解している生徒は少ない。

(2) 「103万円の壁」は、税制が個人の働き方や社会の公平性に直結していることを示す教材である。

「103万円の壁」は、日本の税制度が個人の働き方や家計の在り方に直接影響を与えることを理解させることのできる教材である。配偶者控除や給与所得控除といった制度が組み合わさることで、一定の所得を超えると手取りが減少するという構造が生まれている。この仕組みは、第二次大戦直後に設計されたものであり、共働き世帯が多い現代社会では、その在り方が問い合わせられている。また、制度の複雑さゆえに、世帯全体の生活の安定を支えるというこの制度の本来の目的が理解されづらい。したがって、「損をする制度」という認識にとどまることなく、「公平に負担を分かち合うための仕組み」として学び直すことが重要である。本教材を通して生徒は、税が単なる財源確保の仕組みではなく、社会全体のバランスや支え合いの思想を反映したものであることに気付くことができる。

(3) 「壁」の意義を問う上で、制度の限界を直視させ、新しい視点を創出させたい。

単元全体を通しては、「税は義務か、それとも権利か」という大きな問いに向かわせ、制度の裏側にある価値の対立や調整の難しさに気付かせたい。その過程で、生徒が自分の意見を形成し、他者の考え方と比較しながら新たな視点を獲得しようとする姿勢を育てる。本時では、身近な「103万円の壁」を取り上げ、制度の仕組みを理解することを出発点としながら、「壁は誰のためにあるのか」という制度の価値を問う展開へとつなげる。まず「壁を超えると損をするのは公平か」という素朴な疑問から生徒の関心を引き出し、次に「壁は必要か不要か」と論点を広げる。そのうえで、「公平に負担を分け合う」という考え方を今後の社会でも正しいと言えるか」という本質的な問いを提示し、社会制度の持続可能性や変革の方向性について考えを深めさせることで、社会の制度を自らの言葉で批判的に捉え直す学びへと導いていく。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○税制度の仕組みと「103万円の壁」の内容を理解し、具体例を用いて説明できる。	○税制度の公平性と効率性の観点から「壁」の意義や課題を考察し、自分の意見を根拠をもって表現できる。	○身近な税制度に疑問をもち、社会の仕組みを捉え直そうしながら、より良い制度の在り方を探ろうとしている。

5 授業計画（計8時間）

- (1) 税の制度について理解する。 1時間
(2) 社会保障と税の関係、世代間の公平を考える。 2時間
(3) 格差是正と経済活力の視点から税制を検討する。 2時間（本時2/2）
(4) これまでの学習を踏まえて新たな税制について検討する。 3時間

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 3年A組教室】

(1) 主眼 103万円の壁という税制上の仕組みを題材に、税の公平性・効率性・社会的役割について多角的に考え、既存の制度や価値観の限界を捉え直し、税の在り方を見つめ直すことができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
①年収別就業者割合の分布図を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> なぜこんなに103万円付近に人が集まっているのか。 103万円の壁を知っている。 	①103万円付近の就業者数の集中に注目させ、理由について知っていることを積極的に挙げさせる。
②103万円の壁について理解する。 ・扶養控除、配偶者控除 ・令和7年度の税制の改正	<ul style="list-style-type: none"> なぜ「103万円」という金額に設定されているのだろう。 年収103万円の人より104万円の方方が、手取りが少ない。 	②情報を補足しつつ、年収が103万円を超えると損をする事例を提示し、学習課題へつなげる。 ・年収102万円と104万円の人の可処分所得の比較。

この壁は必要か。

③学習課題を追究する。 (予想される生徒の意見) 〈必要だと思う〉 ・国や国民のために財源の確保は重要である。 ・家事や育児、学業などとの両立を考えると働きすぎないための基準も必要。 〈不要と思う〉 ・働きたいがために損をするのはおかしいし、社会全体の損失。 ・この制度が専業主婦を前提にしていて時代遅れだ。	③生徒が表出した意見を「効率性」と「公平性」、「社会の利益の優先」と「個人の利益の優先」の2つの軸で分類し、必要に応じてそれぞれの意見を深め課題意識を高める。 社会 効率 C A 公平 個人 D B 平等
④壁がもたらす影響について、それぞれの立場で考える。 (家計) ・家計は税の影響を受けやすい。 (企業) ・雇用に直接影響する。 (政府) ・安定した税収を確保できる。	④必要に応じて〈家計〉、〈企業〉、〈政府〉の立場を提示するが、ここではそれについて、壁がどのような影響をもたらしているのかについては深堀りせず、立場が出たら⑤へ移る。

「壁」は誰のための制度か。

⑤103万円の壁が誰のための制度かについて考える。 (家計) 税金や社会保険料を気にせず、安心して働く範囲を決めることができる目安となっている。 (企業) 雇用を調整し、人件費をおさえることができる。 (政府) 社会保障や財政を安定させるために、税収を確保する仕組みとして必要。	⑤「103万円の壁が及ぼす影響について、下記の内容を踏まえて整理した後、「個別の視点」から「社会全体の視点」へと転換し、⑥に移る。 ・家計への収入、働き方の制限 ・労働市場への影響 ・税収の減少 ・政策のジレンマ
⑥本時を振り返る。 「公平に負担を分け合うという考え方は今後の社会でも正しいと言えるか。」	⑥税については、「公平性」、「効率性」、「持続可能性」の3つの価値を基盤に考えることが重要であり、現代社会ではこれらを同時に満たすことが難しいことを示唆する。

(3) 評価 税の仕組みと壁の課題を理解し、公平性と効率性の観点から考察している。

第4学年算数学習指導案

4年1組 指導者 有村 竜希

1 単元 面積

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

正方形や長方形、複合図形の面積の求め方を話し合うことを通して、単位正方形や辺の長さに着目しながら、面積の効率的な求め方を公式として導き、導いた公式を活用して能率的に問題解決することができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、第4学年「垂直・平行と四角形」において、辺の長さや直線の位置関係に着目しながら、様々な四角形の性質を見いだしたり正方形や長方形を捉え直したりしてきた。第4学年「小数」においては、単位とする数に着目しながら、小数第三位までの小数の仕組みを捉え、加法や減法についての計算の意味と仕方について学んできた。このような子どもたちが、「数値化するための単位となる大きさ」と「辺の長さ」という2つの見方・考え方を複合的に働かせながら正方形や長方形の面積の求め方を公式として導き、計算によって能率的に求めていく。このことは、第5学年「立体図形の体積」において、自ら単位とする大きさや着目すべき辺の長さを見いだし、導いた体積の公式を活用して能率的に問題解決する子どもの姿につながるであろう。

本単元は、正方形や長方形の面積を計算によって求める方法を公式として導き、導いた公式を活用していく学習である。子どもたちは、広さを比べようとした際、辺の長さによって図形を捉えてきた経験から、広さを図形の周囲の長さで比較しようとするだろう。その際、単位正方形や縦と横の辺の長さに着目することを大切にしたい。そうすることで、二次元の広がりである面積を正しく捉えることができると考える。さらに、辺にそって規則正しく並べられた単位正方形の個数は、乗法によって効率的に求めることができることに気付き、辺の長さによって面積を求めるための公式を見いだすであろう。このことは、面積の単位の意味や測定の意味を正しく理解し、公式を活用しながら能率的に問題解決する子どもの姿につながると考える。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 周りの長さが等しい複数の図形の面積を比べる場面を設定する。そうすることで、単位正方形に着目することができるようとする。【発】
- 問題解決できた理由について振り返るよう促す。そうすることで、単位正方形や辺の長さに着目していたことを自覚することができるようとする。【獲】
- 単位が曖昧になった面積の大きさを求める問題場面を設定する。そうすることで、自ら単位正方形や辺の長さに着目しながら問題解決することができるようとする。【活】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○求積公式を見いだし、正方形や長方形、複合図形の面積を求めることができる。	○単位正方形や辺の長さに着目しながら広さに応じた面積の求め方を考えたり、周りの長さと面積の関係を捉えたりすることができる。	○単位正方形や辺の長さに着目しながら図形を捉え、面積を求めようとしている。

5 指導計画（全8時間）

第1次 周りの長さと面積の関係を捉えたり、長方形や正方形、複合図形の面積を求めたりする（5時間）【本時1／5】

第2次 大きな面積を求める（3時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 9:05~9:50 4年1組教室】

- (1)ねらい 周りの長さが等しい長方形や複合図形の広さについて話し合う活動を通して、
単位正方形に着目しながら面積の比べ方を見いだすことができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「単位正方形に着目すること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけと めざす子どもの姿
1 周りの長さが等しい長方形や複合図形の面積が最小となる場合について話し合う。 (30分) ・単位正方形に着目すること ・広さを数値化すること	<ul style="list-style-type: none"> 同じ長さの棒 18 本を使って、囲いを作るのだって。囲いの角は直角でなければならぬのだね。 長方形だけではなくてたくさんの種類の囲いができたね。 どの囲いが一番狭いのかと聞かれたよ。 <p>B どの囲いも同じ長さの棒を 18 本使っているから、広さは全て同じなのではないかな。 A でも、広く見える囲いと狭く見える囲いがあるよ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一番狭い囲いはどれなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 縦が 1 本で横が 8 本になっている囲いが一番狭いのではないか。 A 似たような形だけど、途中で直角に曲がっている囲いも同じ広さだと思うよ。 <u>囲いの中に線を引くと、どちらも 8 マス分で同じ広さになるからね。</u> <p>B 同じ大きさのマスに分けて、マスの数を数えると分けると広さが比べられるのだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> このマスは 4 本の棒で、できた正方形だね。 先生が一番広い囲いも同じように考えることができるのかと聞いているよ。 <u>縦が 4 本、横が 5 本の長方形にして、同じように線を引いてみると、同じ大きさの正方形が 20 個の囲いができたよ。</u> 縦が 5 本、横が 4 本の長方形も同じ大きさの正方形が 20 個の囲いだね。 縦が 5 本、横が 4 本の長方形は向きを変えただけだから、どちらも同じ大きさの正方形が 20 個で 1 番大きい囲いだと言えるね。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一番狭い囲いや一番広い囲いがはっきりしたのはどうしてかな。</p>	<p>○周りの長さが等しい長方形や複合図形で面積が最小となる囲いについて話し合うよう促す。そうすることで、単位正方形に着目することができるようとする。</p> <p style="text-align: right;">【発】</p>
2 周りの長さが等しい長方形や複合図形の面積が最大となる場合について話し合う。 (10分) ・単位正方形に着目すること ・面積の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 似たような形だけど、途中で直角に曲がっている囲いも同じ広さだと思うよ。 <u>囲いの中に線を引くと、どちらも 8 マス分で同じ広さになるからね。</u> <p>B 同じ大きさのマスに分けて、マスの数を数えると分けると広さが比べられるのだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> このマスは 4 本の棒で、できた正方形だね。 先生が一番広い囲いも同じように考えることができるのかと聞いているよ。 <u>縦が 4 本、横が 5 本の長方形にして、同じように線を引いてみると、同じ大きさの正方形が 20 個の囲いができたよ。</u> 縦が 5 本、横が 4 本の長方形も同じ大きさの正方形が 20 個の囲いだね。 縦が 5 本、横が 4 本の長方形は向きを変えただけだから、どちらも同じ大きさの正方形が 20 個で 1 番大きい囲いだと言えるね。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一番狭い囲いや一番広い囲いがはっきりしたのはどうしてかな。</p>	<p>○面積が最大となる場合も同様にできるのかを問う。そうすることで、単位正方形に着目しながら面積の求め方を見いだすことができるようとする。</p> <p style="text-align: right;">【獲】</p>
3 本時の学習を振り返る。(5分) ・単位正方形に着目することのよさ	<ul style="list-style-type: none"> 同じ大きさの正方形をつくってその数を数えたからだよ。 <u>形が変わっても、同じ大きさの正方形を数えると広さが分かるね。</u> 	<p>○問題解決できた理由を振り返るよう促す。そうすることで、単位正方形に着目することのよさを自覚することができるようとする。</p> <p style="text-align: right;">【獲】</p>

第4学年算数科學習指導計画

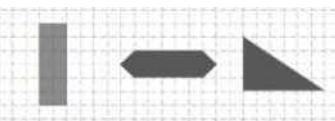
4年1組 指導者 有村 竜希

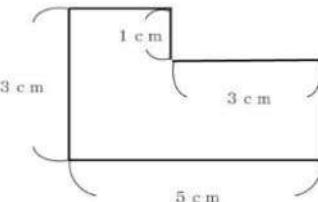
1 本単元までの学びの過程

単元(題材、主題)	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
平行・垂直と四角形 (全15時間)	・辺の長さや平行、垂直、対角線を視点に四角形を仲間分けすると、台形や平行四辺形、ひし形に分けられて、性質もはつきりわかったね。
小数 (全10時間)	・はしたの量を表すには <u>0.1</u> や <u>0.01</u> を10等分して <u>0.01</u> や <u>0.001</u> の幾つかで表すことができるね。

2 本単元の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ
第1次 周りの長さと面積の関係を捉えたり、長方形や正方形、複合図形の面積を求めたりする。	8時間 が本時 5時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の意味を理解しながら長方形と正方形の求積公式を見いだし、活用すること(知) ・単位正方形や辺の長さに着目しながら面積の求め方を考えたり、周りの長さと面積の関係を捉えたりすること(思) ・単位正方形や辺の長さに着目しながら、面積を求めようとしている(態)
□周りの長さが同じ四角形や複合図形の広さを比べる。(本時) (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を参照。
□1cm ² の単位正方形を基に面積を表す。(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・2枚の紙の広さを比べるのだね。どのような大きさの正方形に分けるとよいのかな。⑦の辺の長さを調べてみると一辺の長さが4cmの正方形だね。一辺の長さが2cmの正方形だと4個に分けることができるよ。Aさんが、一辺の長さが1cmの正方形だと16個に分けられると言っているよ。④は縦が3cm、横が5cmの長方形だね。これだと一辺の長さが2cmの正方形では比べることができないから、一辺の長さが1cmの正方形で比べよう。④は一辺の長さが1cmの正方形が15個だね。広さのことを面積といって、1辺の長さが1cmの正方形の面積のことを1cm²というのだって。⑦は16cm²で、④は15cm²で⑦の方が1cm²広いね。一辺が1cmの正方形に分けて1cm²の数を数えると面積が正確に求められるのだね。
□12cm ² の面積になる図形をかく。(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は方眼用紙に12cm²になる図形をいろいろかいていくのだね。12cm²ということは1cm²が12個になるようにかいていけばよいのだね。1cm²を縦に6個を2列分並べた長方形をかいたよ。え、長方形に二等辺三角形を合わせた形をかいた人がいるよ。これは12cm²なのかな。Aさん2つの三角形を合わせると1cm²になって12cm²になるといっているよ。そうか。動かしても面積は変わらないのだね。12cm²になる図形をたくさん、かくことができそうだね。大きい三角形をかくことができたよ。上半分をくるっと動かしたら12cm²の長方形になるからね。図形を動かして1cm²の正方形をつくると、どのような図形でも面積が分かったね。
□長方形や正方形の求積公式を見いだす。(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・縦3cm、横5cmの長方形の面積を求めるのだね。1cm²の正方形の数を数えると、縦の3個が5列分で$3 \times 5 = 15$で20cm²だね。3は縦の長さで5は横の長さだから、長方形の面積は「縦×横」で求められるよ。「縦×横」のような式を公式というのだね。正方形は辺の長さが同じだから一辺の長さが分かればよいね。それなら「一辺×一辺」で求められるよ。先生が2つの四角形を出したぞ。どちらの面積が大きいか比べるのだ



<p>□複合図形の面積を求める。(1時間)</p> 	<p>ね。長さを測って公式を使えば、面積が求められそうだよ。1つ目は、一辺が4cmの正方形だから$4 \times 4 = 16$で16cm²だね。2つ目は、縦が7cmで横が2cmの長方形だから$7 \times 2 = 14$で14cm²だよ。1つの方が面積が大きいよ。長さが分かれれば、公式を使って面積を求められるのだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> Lのような图形の面積を求めるのって。長方形や正方形にすると求められるのではないかな。どの長さが分かれれば正方形や長方形ができるのかと聞かれたよ。Aさんが大きな長方形の縦と横、それからへこんでいる場所の縦と横の長さと言っているね。あ、横に線を引けば、2つの長方形に分けることができるよ。上の長方形は縦の長さは1cmで横の長さは2cmだから、$1 \times 2 = 2$で2cm²だね。下の長方形は縦の長さは2cmで横の長さは5cmだから$2 \times 5 = 10$で10cm²だよ。2つを合わせると$2 + 10 = 12$で12cm²だね。縦に線を引いて分けたり、大きな長方形から小さな長方形をとったりする方法もあるよ。2つの長方形に分けたり、大きい長方形から小さい長方形を引いたりすると面積を求められるね。
<p>第2次 大きな面積を求める。</p>	<p>3時間</p>
<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積の単位(m², a, ha, km²)を知り、長方形と正方形の求積公式を活用して面積を求ること(知) ・単位正方形や辺の長さに着目しながら、広さに応じた面積の求め方を見いだすこと(思) 	
<p>□4年1組の教室の面積を求める。(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長方形の面積を求めるのだけ。長さが分からないと面積を求められないよ。縦が7cmで横が8cmか。だったら$7 \times 8 = 56$で56cm²だね。4年1組の教室と同じ形なのって。Aさんが1cmを1mと見立てるといのではないかと言っているよ。縦7mで横8mと見立てるのだね。教室の長さを調べてみよう。本当だ。Aさんの言った通り1cmを1mと見立てるといの、$7 \times 8 = 56$になるね。一辺が1mの正方形の面積を1m²といのだって。教室の面積は56m²といのことだね。先生はどうして7×8をしたのかと聞いているよ。7×8をすると一辺が1mの正方形の数を求めることができるからね。長さの単位がmでも、公式が使えたよ。
<p>□上運動場の面積を求める。(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日も長方形の面積を求めるのだけ。長さを測ってみると縦が30cm、横が50cmだよ。上運動場と同じ形なのって。1cmを1mに見立てるといの、縦が30m、横が50mだね。面積は$30 \times 50 = 1500$で1500m²だよ。1m²の正方形が1500個分ということか。とても大きいね。大きな面積を求めるときには、m²以外にもaという単位があつて、一辺が10mの正方形を1aといのだって。それなら$3 \times 5 = 15$で15aと表せるね。先生はどうして3×5をしたのかと聞いているよ。3×5をすると一辺が10mの正方形の数を求めることができるからだね。1m²よりも大きな正方形で面積を求めるときも、やっぱり、面積を求める公式は使えたよ。
<p>□維新百年記念公園と羽田空港の面積を求める。(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの長方形の面積を求めるのだけ。1つ目の長方形は維新百年記念公園で、縦が600m、横が500mなのって。$60 \times 50 = 3000$で3000aだね。1aの正方形が3000個もあるのか。とても大きいね。一辺が100mの正方形を1haといのだって。それなら維新百年記念公園の面積は$6 \times 5 = 30$で30haと表せるね。2つ目の長方形は東京にある羽田空港の第1ターミナルなのって。長さが分かれれば面積を求めることができそうだね。縦が3kmで横が5kmなのだね。一辺が1kmの正方形を1km²といのだって。そうすると一辺が1kmの正方形の数を求めるために3×5をすればよいね。15km²と表すこともできるのだよ。大きい面積を表すときでも長さに合わせて正方形の数を数えると求めることができるね。どのような大きさの面積でも、辺の長さからかけ算で求めることができるね。

第5学年算数科學習指導案

5年1組 指導者 林 純梨

1 単元 割合(2)

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

二量の関係を捉えながら基準量に着目し、割合を用いて比べたり、比較量や基準量を求めたりする活動を通して、問題の条件や目的に合わせて的確に問題解決することができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、第5学年「簡単な場合の比例」において、二量の関係に着目しながら、変化や対応の規則性を見いだし、比例の関係を捉えてきた。そして、「単位量当たりの大きさ」や「速さ」、「割合(1)」において、「二量の関係に着目すること」及び、「比例の関係を前提として1当たりの大きさや基準量に着目する」という見方・考え方を複合的に働かせて問題解決してきた。これらの学習を本単元と関連付けることで、子どもたちは、これまで複合的に働かせてきた見方・考え方を活用し、割合を扱う複雑な問題に出会っても適切に数量の関係を捉えて問題解決することができると考える。このことは、第6学年「比」や中学校数学科の「関数」領域においても、様々な事象の中における関係や法則を数理的に捉え、数学的に考察し表現できる子どもの姿につながるであろう。

本単元では、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に、割合を用いて比べたり、比較量や基準量を求めたりして問題解決する学習である。子どもたちは、部分と部分の大きさの関係どうしを比べる際、全体と部分の大きさの関係どうしを比べたことをいかして、比例数直線図や4マス関係表などを用いて数量の関係を整理し、比例関係を前提に、割合でみてよいか判断するであろう。その際、二量の関係を捉えながら基準量に着目することを大切にしたい。そうすることで、問題の条件や目的に合わせて基準量と比較量を適切に捉え、図と式を関連付けながら問題解決することができると考える。このことは、解決の質的な改善をめざして多面的に考察したり、処理のよさを見いだしたりして、的確に問題解決しようとする子どもの姿につながると考える。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 割合を用いて比べる問題場面を設定する。そうすることで、関連付けた学習を想起して図を用いて数量の関係を整理し、二量の関係を捉えながら基準量に着目することができるようになる。【活】
- 問題解決できた理由を振り返るよう促す。そうすることで、二量の関係を捉えながら基準量に着目することの有効性を再認識することができるようになる。【獲】
- 基準量を曖昧にした問題場面を設定する。そうすることで、自ら二量の関係を捉えながら基準量に着目し、問題の条件や目的に合わせて的確に問題解決するようになる。【活】

4 本単元の評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
○部分と部分の大きさの関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。	○数量の関係を図や式を用いて整理し、二量の関係を捉えながら基準量に着目して問題解決している。	○二量の関係を捉えながら基準量に着目し、問題の条件や目的に合わせて的確に問題解決しようとしている。

5 指導計画(全6時間)

第1次 部分と部分の大きさの関係どうしについて割合を用いて比べる(1時間)【本時1／1】

第2次 比較量や基準量を求めたり、割合を用いて問題解決したりする(5時間)

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 10:05~10:50 5年1組教室】

- (1) ねらい 2日間のシュートの結果を比べる活動を通して、二量の関係を捉えながら基準量に着目し、割合を用いて問題解決することができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「二量の関係を捉えながら基準量に着目すること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 2日間のシュート練習のうまさの比べ方について話し合う。(10分) ・二量の関係に着目すること ・基準量に着目すること	<ul style="list-style-type: none"> 2日間のシュートの練習をして、どちらの日が上手にならなかを比べるのだって。 <p>A 失敗した本数で見ると5本で1日目だね。では、もう一方の量は総数かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> もう一方は成功した本数か。成功した本数で見ると、15本で2日目の方がよいね。 差で比べるといつも同じにならないね。 <p>A <u>いつも同じと考えるということは、比例を仮定して、基準量を1として割合で比べるとよさそうだよ。</u></p> <p>B あれ、失敗と成功を二量にすると、全体と部分の関係にないよ。</p> <p>どの数量を基準量にすればよいのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 失敗した本数と成功した本数のどちらかを基準量にできないのかな。 <p>C 数直線図で関係を整理すると、どちらも部分だけれど1とみることができそうだよ。</p> <p>B <u>失敗した本数を基準量にすると、成功した本数の割合は1日目は $12 \div 5 = 2.4$ で2.4倍、2日目は $15 \div 8 = 1.8\cdots$ で1.8倍だ。</u></p> <p>A 失敗した本数を1とみたとき、成功した本数が何倍にあたるかということだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 成功した本数の方が多いから、割合が1より大きくなっているよ。 今度は成功した本数を基準量にしてみよう。1日目は $5 \div 12 = 0.4\cdots$ で0.4倍、2日目は $8 \div 15 = 0.5\cdots$ で0.5倍だ。 <p>B 基準量が変わると割合の大きさが変わるけれど、どちらでみてもシュートの結果がよい日は1日目だね。</p> <p>どうして割合で比べることができたのかな。</p>	<p>○部分と部分の大きさの関係どうしを比べる問題場面を設定する。そうすることで、関連付けた学習をもとに、二量の関係を捉えながら基準量に着目することができるようする。 【活】</p> <p>○何を基準量にして比べるとよいかについて話し合うよう促す。そうすることで、二量の関係を捉えながら基準量に着目し、基準量と比較量を適切に捉え、図と式を関連付けながら問題解決ができるようする。 【活】</p> <p>○問題解決できた理由を振り返るよう促す。そうすることで、二量の関係を捉えながら基準量に着目することの有効性を再認識することができるようする。 【獲】</p>
2 割合を用いて、問題解決する。(25分) ・数直線図を用いて二量の関係を整理すること ・二量の関係を捉えながら基準量に着目すること ・割合を用いた比較		
3 本時の学習を振り返る。(10分) ・二量の関係を捉えながら基準量に着目して比べることの有効性	C 数直線図で二量の関係を整理して、どちらを基準量にするかを考えたからだよ。	
	B <u>部分と部分の関係でも、どちらかを1とみれば割合で比べることができたね。</u>	
	・割合で比べるときは、やっぱり何を基準量にするかが大切だと思ったよ。	



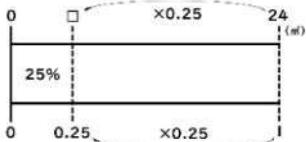
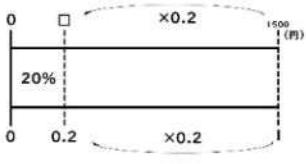
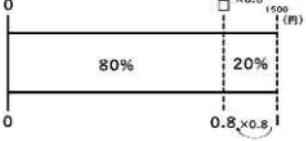
第5学年算数科学習指導計画

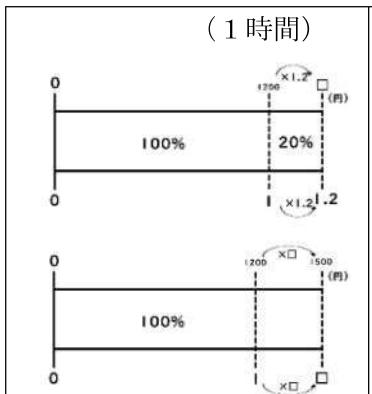
5年1組 指導者 林 紘梨

1 本単元までの学びの過程

単 元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
割合（1） （全4時間）	・シートの結果や混み具合を比べるときには、 <u>二量の関係を整理して基準量の1を揃えると、割合で比べることができたね。</u>

2 本単元の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ	6時間 が本時
第1次 部分と部分の大きさの関係どうしについて割合を用いて比べる。		1時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・部分と部分の大きさの関係どうしの割合を用いた比べ方（知） ・数量の関係を図や式を用いて整理し、二量の関係を捉えながら基準量に着目すること（思） ・問題の条件や目的に合わせて的確に問題解決しようすること（態） 	
□2日間のシートの結 果を割合で比べる。 (本時) (1時間)	・学習指導案を参照。	
第2次 比較量や基準量を求めたり、割合を用いて問題解決したりする。		5時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・比較量や基準量の求め方（知） ・数量の関係を図や式を用いて整理し、二量の関係を捉えながら基準量に着目すること（思） ・問題の条件や目的に合わせて的確に問題解決しようすること（態） 	
<input type="checkbox"/> 「全体の何%」の場合 の比較量を求める。 (1時間)	<p>・塀にペンキを塗っているのって。全体の25%が塗られているのか。今、塗られている塀の面積は何m²なのかな。塀全体の面積と塗られている面積の二量の関係を整理すればよさそうだね。全体と部分の大きさの関係どうしだから、塀全体の面積が基準量だよ。塀全体の面積は24 m²なのかな。25%は割合だから、この問題は比較量を求めるのだね。どうやって比較量を求めるのかな。図に整理してみよう。25%を0.25にして書くと、0.25に対応する面積が□になるね。基準量の1を0.25倍するから面積も0.25倍して、$24 \times 0.25 = 6$で6 m²だ。比較量を求めるときは、基準量×割合をすればよいね。二量の関係を整理して基準量を決めれば、割合を求めたときと同じように比較量を求めることができるのだね。</p> <p>・定価1500円のTシャツを20%引きの値段で売るのって。割引後の値段は何円なのかな。定価と割引後の値段の二量を整理するとよいのか。全体と部分の大きさの関係どうしだから、どちらを基準量にすればよいかな。定価とは、元の値段のことなのだね。だったら、定価を基準量にして比較量を求めれば割引後の値段が分かりそうだよ。比較量を求めるときは基準量×割合をするから、$1500 \times 0.2 = 300$で300円だ。え、20%引きなのに、半額以下の値段になっているよ。そっか、300円は値引き額なのか。値引き額が比較量になっていたのだね。だったら、$1500 - 300 = 1200$で割引後の値段は1200円だね。割引後の値段を比較量と考えている人がいたよ。図に整理してみよう。割引後の値段は定価の80%ということだから、$1500 \times 0.8 = 1200$で1200円だね。二量の関係を図に整理して基準量を決めると、求めたい比較量が何なのかはっきり分かったよ。</p> <p>・前の問題の割引したTシャツの値段を定価の1500円に戻すのって。何%増やしたらよいのかな。20%引きにしたのなら、20%増やせばよい</p>	
<input type="checkbox"/> 「何%引き」の場合 の比較量を求める。 (1時間)		
<input type="checkbox"/> 「何%増」の場合の比 較量を求める。	 	



□基準量を求める。

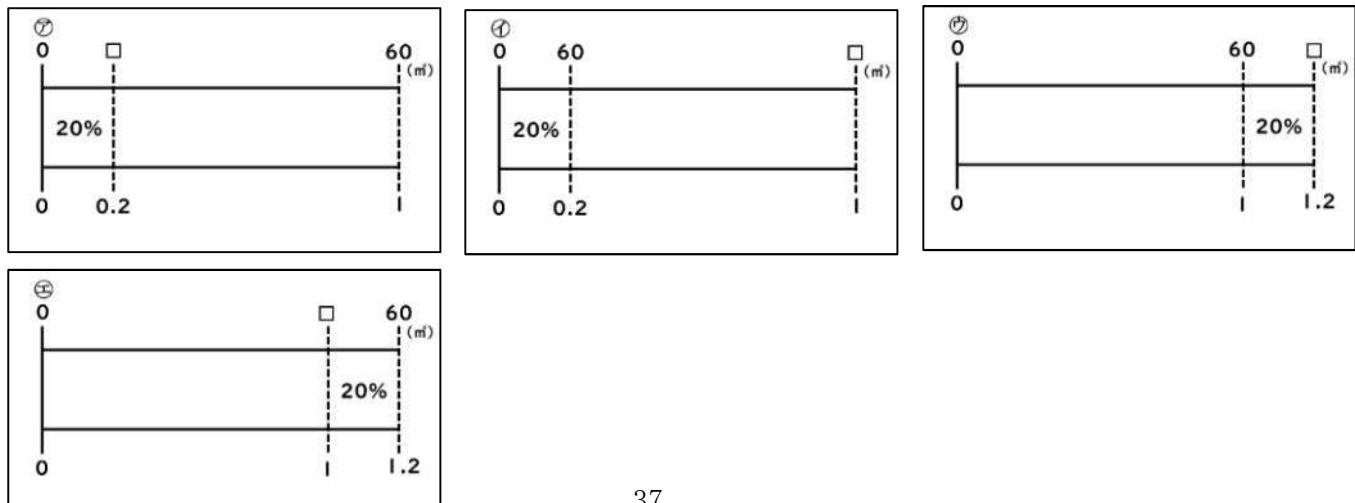
(1 時間)

□割合を用いて、条件や
目的に合わせて値段を
求める。 (1 時間)

と言っている人がいるよ。だったら、割引後の値段の 120%が定価になるね。割引後の値段を基準量にすると、 $1200 \times 1.2 = 1440$ で 1440 円だ。あれ、おかしいな、定価の 1500 円に戻っていないよ。よし、二量の関係を図にきちんと整理しよう。割引後の値段の 1200 円を基準量、定価の 1500 円を比較量にすると、 $1200 \times \square = 1500$ 、 $\square = 1500 \div 1200$ で 1.25 だ。割引後の値段の 125%が定価ということは、25%増やすといけないってことだね。 $1200 \times 0.25 = 300$ で 300 円増やすってことにもなるね。割引したときと定価に戻すときで基準量が変わるから、同じ 300 円でも割合が変わることが分かったよ。やっぱり、二量の関係を整理して、基準量を決めることが大切だね。

- ④さんの家では、畠の一部を大根畠にしているのって。大根畠の面積は 60 m²で畠全体の面積の 20%にあたるのだね。畠の面積を求めるのか。大根畠の面積と畠全体の面積の二量の関係を整理すればよいね。先生が用意した図はどれが問題に合っているのかな。全体と部分の大きさの関係どうしだから、畠全体が基準量だね。⑦と⑧の図は絶対に違うよ。だって、大根畠の 60 m²が基準量になっているからね。④と⑨のどちらなのかな。大根畠は畠の一部ということは畠全体の中に大根畠があるイメージかな。だったら、⑨は畠全体よりも割合が大きくなっているから、大根畠の中に畠があるということになるね。この問題に合っている図は④だ。基準量を求めるのだね。これまでと同じように、基準量×割合=比較量で求めよう。 $\square \times 0.2 = 60$ 、 $\square = 60 \div 0.2$ で 300 m²だ。基準量の数量が分からなくても、比較量÷割合で求めることができるのだね。
- ④の店と⑤の店に同じパン屋があって、お得に買える日があるのって。④の店はどのパンも 2 割引き、⑤の店は 400 円以上買うと 100 円引きなのだね。150 円のパンを 3 個買う場合、どちらがお得に買えるのかな。④の店は割合で考えるとよいね。もとの値段と割引された値段の二量の関係を整理すればよいね。割引された値段が比較量になるから、もとの値段を基準量にして、 $150 \times 0.8 = 120$ で 1 個 120 円になるね。3 個買うから $120 \times 3 = 360$ 円だ。⑤の店は 150×3 で 450 円の 100 円引きだから 350 円だ。⑤の店の方がお得に買えるね。パンの値段によってどちらがお得に買えるのかが変わると言っている人がいるよ。もし、200 円のパンだったら、④の店は $200 \times 0.8 = 160$ 、 $160 \times 3 = 480$ 円。⑤の店は $200 \times 3 = 600$ 、 $600 - 100$ で 500 円だ。200 円のパンの場合は、④の店の方がお得だね。生活の中には、割合を使って考える場面が多くあるよ。二量の関係を整理して基準量を見付けると、求める数量がはっきりするね。

第 2 次 4 時で提示する図



数学科 学習指導案

1年A組 指導者 伊藤 慧

1 ねらい 文字のよさに気付く

- 文字を用いることで事象における数量や数量関係を、簡潔・明確で、一般的に表すことができるよさに気付くことができる。

2 教材 「文字式の利用～数学マジックを解き明かそう」

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は文字の利用に関心はあるが、その有用性については十分に実感できていない。

小学校算数科では、第6学年で、数量を表す言葉の代わりに、文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすることを学習している。本単元の導入では、本棚をつくるために必要な棒の数を数える活動から始め、文字の導入につなげていった。そのときは、数学に対する苦手意識がある生徒も含め、意欲的に各自の方法で図を利用しながら式を立てることができていた。一方で、授業の振り返りの中では、「文字を使った式は難しそう」「どんなときに文字を使えばよいのだろう」と回答する生徒も一定数いた。実際に、連続する2つの整数の和は必ず奇数となることを確認する授業では、具体的な数の例をいくつか示すだけで満足してしまう生徒がいた。文字を用いることの有用性を十分に実感できていないことが課題である。

(2) 数学マジックの謎を解き明かす過程で文字を用いることのよさに気付ける教材である。

教材「文字式の利用～数学マジックを解き明かそう」は、カレンダーの中の数を正方形（ 2×2 ）で囲んだときに、その4つの数の和を4で割り、その商から4つの数のうち一番小さい数を引くと、囲む場所によらず計算結果が4になる謎に迫るというものである。このマジックの謎を解き明かすには、計算手順を一つ一つ吟味する必要がある。カレンダーのどこを囲んだ場合でも同じ計算結果となることを説明しようとすると、文字が有用であることに気付くことができる。具体的な事象から見付けた数の性質が一般的に成り立つことを説明する上で、文字を用いることは有用であり、その文字のよさを実感できると考える。さらに、囲み方を生徒自身が自由に変えて考えることができ、自分で見付けた囲み方に対して考察できる教材である。

(3) 文字を用いるよさを理解し、様々な事象を文字式で捉え、解決しようとする生徒を育てたい。

本単元では、小学校算数科における学習の状況を考慮し、数量の関係や法則などを数や言葉の式に表してその意味を読み取ったり、数を当てはめて調べたりする活動などを行う。そうすることで、文字のもつ一般性について丁寧に取り扱い、文字に対する抵抗感を和らげたい。また、文字を用いることで一般化され、効率的に、簡単に考えられることに気付かせたい。

本時は、具体的な数で計算を繰り返し、試行錯誤する中で、計算手順に潜む謎に迫っていく。カレンダーの数を囲む活動を通して、「いつでも」や「どこでも」をキーワードに一般化する必要性を実感させ、文字を用いることの有用性に気付かせていく。身の回りの事象を捉えるときに、文字を用いることで簡潔かつ明確に表すことができる文字のよさを理解した生徒を育てたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">○文字を用いることの必要性と意味を理解し、数量関係を文字を用いて表すことができる。○一次式の計算ができる。	<ul style="list-style-type: none">○文字を用いた式を活用して、具体的な事象を考察し表現することができる。	<ul style="list-style-type: none">○文字を用いることのよさに気付き、文字を用いた問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

5 学習計画（計19時間）

- (1) 文字を用いる必要性を理解し、文字を用いて式で表現できる。 8時間
- (2) 項や係数を理解し、一次式の計算ができる。 5時間
- (3) 数量や数量関係を文字式で表したり、式を読み取ったりすることができる。 6時間（本時6／6）

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 1年A組教室】

(1) 主眼 カレンダーの数の並びを利用した数学マジックの謎を解き明かすことを通して、文字式の有用性に気づき、文字を用いて説明することができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
①課題に出会う。 【課題】数学マジックの謎を解き明かそう。 [生徒] (1) カレンダーの中の数を正方形(2×2)で囲み、和を求める。 (2) (1)の計算結果を4で割る。 (3) (2)の計算結果から初めの4つの数のうち一番小さい数を引く。 [教師] 計算結果を当てる。	・説明だけでは課題の理解が困難な生徒がいるだろう。 ・自分以外も計算結果が4になることを不思議に感じる生徒がいるだろう。 ・正しく計算できずに課題の不思議さを実感できない生徒がいるだろう。	①生徒自身に計算させることで、課題を正確に捉えられるようにする。 ・数学が苦手な生徒も興味をもてるよう、数学マジックの謎の不思議さを印象付ける。 ・計算ミスを防ぐために、全体で確認できる場を設定する。
どの正方形の4つの数字を選んでも4になるのだろうか。		
②見通しをもつ。 ・一般化(文字の利用)	・どこを囲んでも同じ計算結果になることに気付くだろう。 ・すべての場合を考えるには文字が有効であることに気付くだろう。 ・文字をどのようなときに利用すればよいか分からぬ生徒がいるだろう。	②正方形(2×2)で囲む場所を変えて複数計算する中で気付かせる。 ・具体的な数だけで考える難しさ実感させるために、複数の月のカレンダーを用意する。 ・どこの正方形でも規則性が成り立つことを説明するためにはどうすればよいかを問う。
キーワード:「いつでも」「どこでも」		
③解決する。 ・nを用いたカレンダーの正方形(2×2)で囲まれた4つの数の表し方 ・文字を用いた説明 ・文字式が表していることの考察 ・数学マジックの仕組みの説明	・4つの数をどのように文字で表すか迷う生徒がいるだろう。 ・文字を用いて表したものどのように処理すればよいか分からぬ生徒がいるだろう。 ・式変形で得られた式が何を表すか説明することに困難を感じる生徒がいるだろう。 ・囲み方が変わり、どのように文字で表せばよいか分からぬ生徒がいるだろう。	③具体的な数を扱いながら、カレンダーの周期に着目させる。 ・課題の手順を確認できるように、大きく板書し、視覚支援を行う。 ・生徒同士で説明し合う場を設定し、文字式が表していることを整理させる。
④囲み方を変えて新たなマジックを見付ける。 条件・囲んだ数の和を考えるところまでは同じ	・正方形(2×2)の囲み方のときの考え方を利用して解決できないかと考えるだろう。	④正方形(2×2)のときと同様に具体的な数を用いてカレンダーの周期に着目させる。
・新たな囲み方におけるマジックの発見 ・文字を用いた説明 ・文字式が表していることの考察	・文字を用いることで、どこを囲んでも合計の数を4で割ってから4を引くと4になることが分かった。	・正方形(2×2)のときの考え方を振り返らせることで、同じように考えられることに気付かせる。
⑤本時を振り返る。 ・Google Formsでの回答	・文字を用いることですべての場合を一度に考え、解決できることが分かった。	⑤自己の学びを自覚させ、次の学習へつなげるために、課題を解決するための大重要なポイントと分かったことを問う。 ・活動を通して、文字を用いて一般化することの有用性に気付かせる。
・課題を解決するための大重要なポイント ・分かったこと		

(3) 評価 文字を用いて数学マジックの謎を説明できたか。

第4学年理科学習指導案

4年2組 指導者 出穂佑貴

1 単元 追究！温度によるものの体積の変化

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

温度によるものの変化の仕方に着目しながら、体積の変化と温度の変化を関係付けて調べる活動を通して、金属、水及び空気の性質とそれらの違いを捉えることができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、「とじこめた空気と水」において、圧す力によるものの変化の仕方に着目しながら、体積や圧し返す力の変化と圧す力を関係付けて調べ、空気と水の性質とそれらの違いを追究してきた。このような子どもたちが、加熱・冷却したときの体積の変化をもとに、金属、水及び空気の性質とそれらの違いを追究していく。エネルギーによるものの変化の仕方に着目しながら問題解決を図る学習を連続的に行うことで、前単元の見方・考え方を活用し、目に見えないものの変化とエネルギーを関係付けて調べ、物質の性質を捉えることができると考える。このことは、新たな物質の性質を捉える際に、物質に生じる目に見えない事物・現象についての問題を、より科学的に解決することにつながるであろう。

本単元は、金属、水及び空気を加熱・冷却したときの体積の変化と温度の変化を関係付けて調べることで、金属、水及び空気の性質とそれらの違いを追究していく学習である。空気や水を加熱・冷却した際、シャボン液の膜の膨らみや水の高さが変化することを観察した子どもたちは、温度の変化によって体積が変化すると予想し、その様子を図や絵を用いて説明しようとするだろう。その際、温度によるものの変化の仕方に着目することを大切にしたい。そうすることで、温度の変化による空気と水の体積の変化の仕方だけでなく、初めて扱う金属であっても温度の変化による体積の変化の仕方を捉えることができるだろう。このことは、金属、水及び空気の性質とそれらの違いを科学的に追究する子どもの姿につながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 空気鉄砲の筒の両端に付けたシャボン液の膜の膨らみを観察する場を設定する。そうすることで、圧す力以外の外部からの働きかけにより、空気の体積が変化することに気付くことができるようとする。【発】
- 「分かったこと」「どうして分かったのか」を視点に学習を振り返るよう促す。そうすることで、温度によるものの変化の仕方に着目することが、金属、水及び空気の性質とそれらの違いを追究することに有効であると再認識することができるようとする。【獲】
- 金属を加熱・冷却した際の体積の変化について調べる活動を設定する。そうすることで、自ら温度によるものの変化の仕方に着目しながら、金属の性質に加え金属、水及び空気の性質の違いを捉えることができるようとする。【活】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○金属、水及び空気は、温度により体積が変化するが、その程度には違いがあることを理解している。	○金属、水及び空気の体積の変化について、温度によるものの変化の仕方に着目しながら、根拠のある予想や仮説を発想し、表現している。	○金属、水及び空気の体積の変化について、温度によるものの変化の仕方に着目しながら、科学的に問題解決しようとしている。

5 指導計画（全6時間）

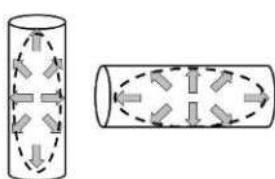
第1次 温度の変化による空気や水の体積の変化について調べる（4時間）【本時1／4】

第2次 温度の変化による金属の体積の変化について調べる（2時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 10:05~10:50 理科室】

- (1) ねらい シャボン液の膜の膨らみの変化を観察することを通して、温度による空気の変化の仕方に着目し、体積の変化と温度の変化を関係付けて考察することができるようとする。
- (2) 本時で働く見方・考え方 「温度による空気の変化の仕方」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけと めざす子どもの姿
1 シャボン液の膜が膨らむ様子を観察する。 (10分) ・エネルギーによる空気の体積の変化	<ul style="list-style-type: none"> 先生が空気鉄砲の筒の端に付けたシャボン液を膨らませるのだって。 お、膜が上に向かって膨らんできたよ。 B 下から圧しているのかな。 横向きにしても、膜は膨らんだよ。 え、空気を圧していないよ。 <p>どうしてシャボン液の膜は膨らんだのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> あ、空気鉄砲の筒にタオルが巻いてあるよ。やってみよう。あれ、膨らまないな。 <u>先生のタオルには、何か秘密があるのかな。</u> 触ってみたら温かいよ。 A 温かいタオルでやってみたら、膨らんだよ。 B 温めたら、空気が上の方に移動したのだね。 横向きでも膨らんだから、空気は横にも移動するのかな。 え、空気は広がったのではないかな。両端にシャボン液を付けて試してみようよ。 あ、横向きにしても両端とも膨らんだよ。 やっぱり、空気は移動したのではなく、広がっていると言えそうだね。 <p>A 図で表すと、空気は温められて全体的に広がっていくから、矢印を外向きにかいたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 温めると空気が広がって、体積が大きくなることが分かるね。 つまり、温められることで、空気が広がってシャボン液の膜が膨らむのだね。 <p>シャボン液の膜が膨らんだ理由が分かったのはどうしてかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体積の変化には温めることが関係していると気付いたからだよ。 <p>A <u>温度によって膜が膨らむときの空気の変化を矢印で表すと、体積の変化の様子がよく分かったね。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 今度は、空気を冷やすとどうなるのか調べてみたいよ。 	<p>○シャボン液の膜が膨らむ様子を見せる際、手元を隠して実演する。そうすることで、膜の膨らみに圧す力以外の、エネルギーが関係していることに気付くことができるようとする。</p> <p>【発】</p>
2 シャボン液の膜が膨らんだ理由について、話し合う。 (30分) ・温度によるシャボン液の膜の膨らみの変化 ・既習内容との関係付け ・空気の膨らみ方 ・空気の体積の変化 ・温度による空気の変化の仕方に着目すること	<ul style="list-style-type: none"> あ、空気鉄砲の筒にタオルが巻いてあるよ。やってみよう。あれ、膨らまないな。 <u>先生のタオルには、何か秘密があるのかな。</u> 触ってみたら温かいよ。 A 温かいタオルでやってみたら、膨らんだよ。 B 温めたら、空気が上の方に移動したのだね。 横向きでも膨らんだから、空気は横にも移動するのかな。 え、空気は広がったのではないかな。両端にシャボン液を付けて試してみようよ。 あ、横向きにしても両端とも膨らんだよ。 やっぱり、空気は移動したのではなく、広がっていると言えそうだね。 <p>A 図で表すと、空気は温められて全体的に広がっていくから、矢印を外向きにかいたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 温めると空気が広がって、体積が大きくなることが分かるね。 つまり、温められることで、空気が広がってシャボン液の膜が膨らむのだね。 <p>シャボン液の膜が膨らんだ理由が分かったのはどうしてかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体積の変化には温めることが関係していると気付いたからだよ。 <p>A <u>温度によって膜が膨らむときの空気の変化を矢印で表すと、体積の変化の様子がよく分かったね。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 今度は、空気を冷やすとどうなるのか調べてみたいよ。 	<p>○空気の変化の仕方を図示した際、その表現の意図を問う。そうすることで、温度による空気の変化の仕方に着目することができるようとする。 【発】</p>
3 本時の学習を振り返る。 (5分) ・温度による空気の変化の仕方に着目することのよさ	<p>「どうして分かったのか」を視点に学習を振り返るよう促す。そうすることで、温度によるものの変化の仕方に着目することのよさを自覚することができるようとする。</p> <p>【獲】</p>	



第4学年理科学習指導計画

4年2組 指導者 出穂佑貴

1 本単元までの学びの過程

単元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
とじこめた空気と水 (全4時間)	・空気や水の性質やその違いを調べる際は、 <u>圧す力によるものの変化の仕方</u> に着目すると、体積や圧し返す力の変化を捉えることができたね。

2 本単元の学びの過程

6時間 が本時

学習活動	子どもの思考の流れ
第1次 温度の変化による空気や水の体積の変化について調べる。	4時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・空気や水は、温度により体積が変化するが、その程度には違いがあること（知） ・温度による空気や水の変化の仕方に着目しながら、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること（思） ・空気や水の体積の変化について、科学的に問題解決しようとすること（態）
□空気を温めたときの体積の変化を調べる。 (本時) (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案を参照。
□空気を冷やしたときの体積の変化を調べる。 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・温めたときと同じ方法で実験をするとよさそうだね。今度はタオルを冷やしてみよう。僕は、温めたら膜が膨らんだから、それと反対で膜がしほむと思うよ。Aさんは、冷たいタオルを巻くと空気がぎゅっと集まることで、体積が小さくなつて、両端とも膜がしほむと予想したのだね。実験してみよう。あ、両端とも膜がしほんだよ。縦向きにしても横向きにしても膜はしほむね。冷たいタオルを巻くと両端の膜がしほんだという結果から、空気は冷やされたことで体積が小さくなつたということが分かったよ。空気が冷やされる様子を図に表すと、矢印でかいたように、内側に向かって集まるから、体積が小さくなつたのだと思うよ。つまり、冷やされることで空気が縮まって、膜がしほむのだね。膜がしほむときの空気の変化を矢印で表したこと、空気の体積が小さくなる様子が分かったね。空気は温度によって体積が変化したけれど、前の単元で扱つた水も温度によって同じように体積は変化するのかな。調べていこう。
□水の温度を変化させたときの体積の変化を調べる。 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は温度によって水の体積が変化するかどうかを調べるよ。B君は、水を圧したときには体積が変化しなかつたから、温めたり冷やしたりしても水の表面は変化しないと言っているよ。僕はやかんでお湯を沸かしているときに、ふたがカタカタして開きそうな様子を見たことがあるから、水の体積は変化すると思うよ。お湯が入つたビーカーと氷水が入つたビーカーを用意して、その中に口いっぱいまで水を入れた試験管を入れてみよう。あ、お湯に入れた試験管は、水の体積が変化しているよ。水の表面が盛り上がつているね。逆に氷水に入れた試験管は、あまり変化はないね。体積が変化したと言えるのかな。先生が、口いっぱいまで水を入れた試験管に、ガラス管を通してゴム栓をして、水を温めたり冷やしたりする方法を教えてくれたよ。この実験方法で水の体積の変化を調べていこう。ガラス管の中の水の高さに印を付けると、体積の変化が分かりやすくなるね。早速温めたり冷やしたりしてみよう。試験管をお湯で温めると水の高さが印よりも高くなつたよ。氷水で冷やすと印より

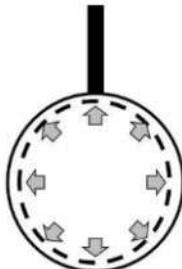
	<p>も低くなったよ。この結果から、水も温度によって体積が変化することが分かったよ。空気のときと同じように体積が変化する様子を図で表そう。温めたときは矢印でかいたように全体的に広がって、冷やしたときは全体的に縮まって体積が変化したのだと思うよ。でも、空気と比べると体積の変化は小さいと思うな。だって、空気の場合は変化がはっきり分かつたけれど、水を口いっぱいに入れて調べたときには、変化したかどうかがはっきり分からなかつたからね。B君は、圧したときに空気の方が体積や圧し返す力の変化が大きかったことと関係付けて、温度を変化させたときにも空気の方が体積の変化が大きいと言っているよ。Aさんの図では、空気のときと比べて水のときは矢印が短くなっているよ。つまり、空気と水の体積は温度によって変化するけれど、変わり方には違いがあるのだね。温度による水の体積の変化を、矢印の長さを変えて表したから、水の体積の変化と空気の体積の変化の大きさの違いを理解することができたね。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第2次 温度の変化による金属の体積の変化について調べる。

2時間

学習内容

- ・金属、水及び空気は、温度により体積が変化するが、その程度には違いがあること（知）
- ・温度による金属の変化の仕方に着目しながら、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること（思）
- ・金属の体積の変化について、科学的に問題解決しようとすること（態）

	<p>□金属の温度を変化させたときの体積の変化を調べる。（2時間）</p> <p>・先生が、冬の鉄道のレールの写真を見せてくれたよ。レールには鉄が含まれているのだね。おや、レールに隙間があるよ。夏にはレールのつなぎ目の隙間はどうなるのかな。Aさんは隙間が小さくなると言っているよ。気温が高くなるとレールが温められて体積が変化するからなのだつて。僕は体積は変化しないと思うな。だって、金属は硬くて、簡単に膨らみそうにないからね。前の実験と同じように、お湯が入ったビーカーと氷水が入ったビーカーを用意して、その中に金属を入れてみよう。温度による金属の体積の変化を調べるために、金属球実験器を使って調べるよ。お湯に入る前に、輪を通り抜けするかどうか確かめてみよう。あ、通り抜けたよ。空気や水と同じように、お湯で温めると体積が大きくなるのかな。あれ、温めても金属球は輪を通り抜けたよ。結果から考えると、温めても金属の体積は変わらないと言えるね。でも、Aさんが空気と水の体積の変わり方は違ったから、金属も体積の変わり方に違いがあると言っているよ。どのように調べると体積の変化が分かるのかな。先生が、ガスコンロで金属球を熱する方法があると言っているよ。もっと高い温度で熱すると、金属球の体積が変化するのか確かめてみよう。あ、通り抜けなくなったよ。この結果から、金属も温度によって体積が変化することが分かったよ。おや、氷水に金属球を入れた後だと、輪を通り抜けたよ。冷やしたときは、体積が小さくなつたと言えるね。金属の体積の変化を図で表そう。矢印でかいたように、熱したときは全体的に広がって、冷やしたときは全体的に縮まって体積が変化したのだと思うよ。つまり、夏にはレールが温められて体積が大きくなるから、つなぎ目の隙間が小さくなるのだね。でも金属球は $1700^{\circ}\text{C} \sim 1900^{\circ}\text{C}$ で熱さなければ、輪を通り抜けなかつたよ。だから、空気と水、金属の体積の変化は空気が一番大きくて、次に水が大きくて、金属が一番小さいと言えるね。だからAさんは、矢印を前よりもさらに短くかいたのだね。それぞれの体積の変化を矢印の向きや長さで表したから、空気や水、金属の体積の変化の違いがよく分かつたね。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

理科学習指導案

3年B組 指導者 藤田 真也

1 ねらい 運動の規則性や関連性を見出す

○物体の落下運動について、探究の過程を振り返りながらエネルギーと関連付けてとらえる。

2 教材 「物体の落下運動」

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は、身近な物体の運動をエネルギーと関連付けて考える場面が乏しい。

生徒は、小学校の「空気と水の性質」で、圧縮した空気は、圧し返そうとする力をもっていることについて学習し、中学校の「力のつり合い」で2つの力がつり合う条件とつり合うと力を打ち消し合うことについて学習している。しかし、事前アンケートでは、「動いている自転車でブレーキをかけるとエネルギーはどう変化するか」という質問に、「位置エネルギーが小さくなる」と答えた生徒がいたり、水力発電に関する問い合わせに対し、関わりのない化学変化と結び付け「水の化学エネルギー」と答えたりする生徒がいた。他教科や日常の中でエネルギーという言葉には触れているが、実際の運動との関連性やつながりを意識できていない生徒がいるため、実験などで意識的に思考する機会を設け、身近な物体の運動やその仕組みをエネルギーと関連付けてとらえることが必要であるといえる。

(2) 落下運動は、運動の規則性や力学的エネルギーの変化について考えることができる教材である。

物体の落下運動は、日常生活の中で起こる物理現象の中で身近に関わることが多いものといえる。しかし、従来の学習では斜面上での落下運動のみとなっており、等速直線運動とつなげたり、落下する物体の速さの変化と関連付けたりする機会が少ない。自由落下は、物体の速さが増え続ける仕組みを、分力などは用いずにシンプルに確認することができる。また、水中での落下運動では、空気の代わりに水を用いることで水圧や浮力が抵抗となり、落下運動を妨げることで、上空からゆるやかに落下する状態を再現できる。落下運動の学習を進める中で「上空から降る雨は、本来大きな位置エネルギーをもっているはずである」という仮説を立てられる。一方で、既習事項から「空気抵抗と重力がつりあうと等速直線運動になるのか」などさらなる問い合わせも考えられる。このように、運動の規則性と力学的エネルギーが保存されないことの矛盾から抵抗との関係を考えることができる教材である。

(3) 身近な疑問から立てた仮説を検証することを通して、新たな関係性を見いださせたい。

落下運動を考えることは、「なぜ、雨は速くならないのか」といった身近な疑問の仕組みについて、ストップウォッチとビデオ撮影で定量的に測定し、仮説と結果・考察を共有することで運動の規則性や関係性を見いだすことができる。本時では、水中での物体の落下運動において、浮力と重力がつり合い、等速直線運動になることを確かめる実験を行う。物体にかかる水圧や浮力が空気抵抗の役割を担うことで室内でも運動と抵抗の関係性を確かめることができる。既習事項から立てた仮説をもとに、エネルギーと抵抗の関わりをとらえるための問い合わせをして探究的思考をし続けられる場面を設定する。これらの学習を行うことで、新たな物理現象に出会っても常に疑問をもち続け、その中で仮説を検証するなど、理科の見方・考え方を自在に働かせることのできる生徒を育てたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○運動とエネルギーの関係を日常生活や社会と関連付けて理解し、探究の土台となる知識技能を身につけている。	○実験結果を分析し、運動の規則性や関連性を、探究の過程を振り返りながら表現している。	○自発的に運動の規則性に関心を持ち、見通しや振り返りを通して主体的に探究しようとしている。

5 学習計画（計8時間）

- 1 仕事と力学的エネルギーの関係性を理解する。 2時間
- 2 斜面上での物体の落下運動の規則性について理解する。 2時間
- 3 自由落下する物体の運動の規則性と関連性について理解する。 2時間（本時2/2）
- 4 エネルギー保存の法則について理解する。 2時間

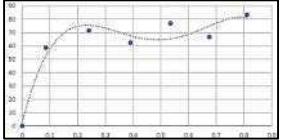
6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 第2理科室】

(1) 主眼 水中の物体の落下実験を行い、落下する速さを測定することを通して、落下を妨げている力が運動に与える影響や関係性を見いだし、説明することができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
①前時に立てた仮説を確認する。 ・仮説の確認	・等速直線運動になると速さが一定になるだろう。 ・等速直線運動にはならずに加速し続けるだろう。 ・高い位置ほどエネルギーが大きいから、もっと高い位置だとより速くなると考えるだろう。	①前時の実験を動画で振り返る。 ・前時の最後に出た仮説「空気抵抗と重力がつりあつたら、等速直線運動になるか」を確認。 ・高さと速さが関わる現象を踏まえて、意見を共有させる。(高いほど加速する例：ジェットコースター、加速しない例：雪)

上空から降る雨の速さは、加速し続けないのだろうか？

②落下実験を行う。 • 1mのアクリル筒へ水を入れ、おもりの落下を記録 • タブレットで動画撮影 • 撮影した動画からデータ処理  X 軸：時間、Y 軸：平均速度 • 測定値から関係性を分析	• 1mでも水の抵抗を受けるから、遅くなるだろう。 • 結果が自由落下のように比例すると仮説を立てた班は、結果に疑問をもつだろう。 • うまく関係性を見つけられず、手が止まる生徒がいるだろう。 • iPadに出てきた点の配置から、速度が一定に近づいているのではないかと気付いた。	②実験をする前に仮説を立てさせる。 • iPadは三脚で固定し、コマ送りで10cmごとにかかった時間と速さを測定させる。 • 仮説と結果をスプレッドシートに入力させ、結果の点の配置からどんなグラフになるかを考えさせる。 • すべてを一括して表示するスプレッドシートを用意しておく。
③仮説と結果を共有する。 • 考察の発表 • 整合性を確認	• 比例すると思っていたが、直線にならないので、加速し続けないと分かった。 • 横ばいになる部分が等速直線運動であると考えるだろう。 • 今回の実験では、高いほど落下する速さが早くなるわけではないことがわかった。 • 雨が速くならないのは、空気抵抗と重力がつり合い、等速直線運動になっているからである。 • 位置エネルギーは、何に変わったのだろう？と疑問をもった。 • 雨より雪の方が遅く、雹が速いのはなぜだろうか。 • 水圧と浮力の関係など、今まで習ったことと繋げて考えることはできないだろうか。	③発表に向け、結果のグラフからわかるることを整理させておく。 • 仮説と異なる結果が出ている場合も、わかることを説明できるように準備させておく。 • ほかの班の発表から疑問をもった場合や問い合わせられた場合はメモを残すように促す。
④本時を振り返る。 • 班での意見共有 • さらなる問い合わせの提案・共有	• 水圧と浮力の関係など、今まで習ったことと繋げて考えることはできないだろうか。	④実験結果から、抵抗の影響を考えられている生徒や実際の落下運動の特徴に気付くことができている生徒の意見を共有する。 • エネルギーに触れながら考えることができている生徒の振り返りを共有する。 • ほかの物質や既習事項との関連性にふれている生徒のさらなる問い合わせを共有する。

(3) 評価 物体の落下運動の実験結果を比較し、抵抗によって力の大きさが変化することについて、関連付けで説明することができる。

第2学年音楽科學習指導案

2年2組 指導者 塩田 悠莉

1 題材 音楽からのストーリー ~そりすべり~

2 本題材の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

音色やリズム、旋律の変化と自己のイメージや感情を関連付け、「そりすべり」を聴くことを通して、曲全体を味わうことができる。

3 本題材の捉え

本学級の子どもたちは、前題材「ゆかいな時計」の鑑賞活動において、音色やリズムといった音楽を形づくっている要素と自己のイメージや感情を関連付けて学習を進めてきた。そのような子どもたちが、旋律の変化も加わった要素と自己のイメージや感情を関連付けて鑑賞活動を行う。このように見方・考え方を連続させることで、前題材で気付いた音楽を形づくっている要素に繰り返し着目して聴くだけでなく、曲の違いから新しい要素にも気付き、曲の楽しさを自ら広げて聴くことができるだろう。このことは、楽しみながら曲全体を味わい、ひいては、音楽と関わることで心豊かな生活を営むことのできる子どもの姿につながるだろう。

本題材で扱う「そりすべり」は、馬ぞりに乗って走る様子をジャズ風に表現した描写音楽であり、スレイベルが鳴るリズミカルな曲である。子どもたちは、「そりすべり」を聴く際、音色やリズムに着目して聴き、曲の楽しさを言葉や動作で表現しようとするだろう。その際、音色やリズムに加え、新しく旋律の変化と自己のイメージや感情を関連付けることを大切にしたい。そうすることで、音色やリズム、旋律の変化に着目しながら曲全体を聴き、自分なりの音楽を作ることができるだろう。このことは、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらが生み出すよさや面白を感じることができる子どもの姿につながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本題材でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 前題材「ゆかいな時計」の楽しさを見いだすことができた理由を問う。そうすることで、「そりすべり」も聴き始めから音色やリズムと自己のイメージや感情を関連付けながら、聴くことができるようになる。【活】
- 旋律の変化からお話を想像している子どもの発言を取り上げ、再度曲を聴く場面を設定する。そうすることで、旋律の変化にも着目して曲を聴くことができるようになる。【発】
- 自分なりのお話を作ることができた理由について問う。そうすることで、旋律の変化に着目すると、曲全体を味わえることに気付くことができるようになる。【獲】

4 本題材の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○音色やリズム、旋律の変化を聞き取ることができる。	○「そりすべり」を聴いて感じ取ったことや気付いたことを自分なりに言葉で表現することができる。	○音色やリズム、旋律の変化に着目しながら、曲全体を味わおうとしている。

5 指導計画（全2時間）

- 第1次 「そりすべり」を聴いて感じ取ったことや気付いたことについて話し合う（1時間）【本時1／1】
- 第2次 「そりすべり」から自分なりのお話を作り、伝え合う（1時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 11:05~11:50 2年2組 音楽室】

- (1) ねらい 音色やリズム、旋律の変化と自己のイメージや感情を関連付け、「そりすべり」を聴くことを通して、曲の楽しさを見いだすことができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「旋律の変化と自己のイメージや感情を関連付けること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 前題材の学びを振り返る。(5分) ・音色やリズムと自己のイメージや感情を関連付けること	<ul style="list-style-type: none"> ウッドブロックの音やトライアングルの音が聴こえて楽しかったな。 <p>A 楽器の音色やリズムに注目したから愉快な感じが想像できたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は、「そりすべり」を聴くのだって。 「そりすべり」は、どのような曲かな。 	○前題材の「ゆかいな時計」の楽しさを見いだすことができた理由を問う。そうすることで、「そりすべり」も聴き始めから音色やリズムと自己のイメージや感情を関連付けながら、聴くことができるようになる。 【活】
2 「そりすべり」を聴いて感じ取ったことや気付いたことについて話し合う。(30分) ・楽器の音色やリズム、旋律の変化と自己のイメージや感情を関連付けること	<ul style="list-style-type: none"> 「そりすべり」は、同じリズムの鈴の音から雪が降っているのを想像したよ。 パチンという音が聴こえてきたぞ。終わりにはバババーンという音がしたよ。 僕は、曲全体が元気にそりが滑る曲に聴こえたよ。 <p>A 私は、曲の途中でそりがジャンプしたりくるくる回ったりするような感じがしたな。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが気付いたことをもう一度聴いて確かめてみよう。 <p>B <u>確かに、大きな音が鳴るところや、音が高くなつたところがジャンプをしているように聴こえたよ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ずっと同じように滑っているわけではないのだね。 もう一度、曲の感じが変わるところに注目して聴くと、最初は滑らかな丘を滑っているけど、途中からリズムが変わって凸凹した丘を滑っている感じがしたよ。 最後はいろんな音が聴こえたからパーティ一會場へ向かっていくのだと思うよ。 最後の不思議な音は、パーティ一會場に着いて喜んでいる馬の声かな。 <p>どうしてお話を思い浮かべることができたのかな。</p>	○旋律の変化からお話を想像している子どもの発言を取り上げ、再度曲を聴く場を設定する。そうすることで、旋律の変化にも着目して曲を聴くことができるようになる。 【発】
3 本時の学習について振り返る。(10分) ・旋律の変化に着目することのよさ	<ul style="list-style-type: none"> 曲の感じが変わるところに注目しながら聴いたからだよ。 <p>B <u>曲の感じが変わると、いろいろな場面が想像できて楽しいね。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 次の時間は、想像を広げて自分なりのお話を考えてみたいな。 	○曲をもとに、お話を思い浮かべることができた理由について問う。そうすることで、旋律の変化に着目すると、曲の楽しさを見いだせることに気付くことができるようになる。 【獲】

第2学年音楽科学習指導計画

2年2組 指導者 塩田 悠莉

1 本題材までの学びの過程

題材	前題材までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
音色とリズム 「ゆかいな時計」 (全2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ベルのようなトライアングルの音やカッコッカコというリズムが変わる ウッドブロックの音が、パーティーのごちそうを準備する調理場の人たちとそれを見守る時計を想像できて楽しく聴けたよ。

2 本題材の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ	2時間	が本時
第1次 「そりすべり」を聴いて感じ取ったことや気付いたことについて話し合う。			1時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 音色やリズム、旋律の変化に気付くこと（知） 音色やリズム、旋律の変化と自己のイメージや感情を関連付けながら感じ取ったことや気付いたことを表現すること（思） 音色やリズム、旋律の変化に着目しながら、曲全体を楽しんで聴こうとすること（態） 		
<input type="checkbox"/> 「そりすべり」を聴いて感じ取ったことや気付いたことについて話し合う。（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導案を参照。 		
第2次 「そりすべり」から自分なりのお話を作り、伝え合う。			1時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 音色やリズム、旋律の変化を聴き取ること（知） 音色やリズム、旋律の変化と自己のイメージや感情を関連付けながら、感じ取ったことや気付いたことを表現すること（思） 音色やリズム、旋律の変化に着目しながら、曲全体を味わおうとすること（態） 		
<input type="checkbox"/> 「そりすべり」から自分なりのお話を作り、伝え合う。（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> この前は、みんなで想像したことを繋げて「そりすべり」を聴いたけど、今日は想像を広げて聴くのだったね。自分なりのお話が作れたらいいな。僕は「そりすべり」の曲から、ピエロが芸をしている様子を想像していたよ。曲の感じが変わるところに気を付けてもう一度「そりすべり」を聴いてみよう。やっぱり僕は、ピエロが芸をしている様子が思い浮かぶな。曲の始まりのシャンシャンという音は、ピエロが玉に乗って登場しているみたいに聴こえたよ。最初は簡単なジャグリングをして、途中のタララッタララッと曲の感じが変わるところでピンの投げ方が変わったよ。みんながどんなお話を想像したのか聞いてみたいな。Aさんは、音が増えたことに気付いたのだって。そこから旅の仲間が増えた感じがしたのか。僕は音が増えたことに気付かなかったから、もう一度聴いてみたいな。確かに、途中からラッパの音が増えているね。初めは1人だったけどピエロが何人も登場してきた感じがするよ。最後の楽器の音が盛り上がるところでピエロが大技を決めようとしたのだけど、玉から落っこちてしまってお話を終わったよ。これで自分のオリジナルのお話が完成したぞ。友達と想像したことを伝え合うと気付かなかつた音に気付くことができるね。音色やリズムだけでなく、曲の感じが変わるところにも気を付けて聴くと、お話を想像できて前より楽しんで聴くことができたよ。これから新しい曲を聴くときにも、意識して聴いてみよう。 		

音楽科学習指導案

2年A組 指導者 原田 美穂

1 ねらい 和楽器特有の表現を生かして演奏する。

○和楽器の音色や間の味わいについて理解し、創意工夫して演奏活動に取り組むことができる。

2 教材 篦笛・箏二重奏曲「うさぎ」

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は、西洋音楽を主に学習しており、日本の音楽の特徴についてはまだ知らない。

生徒はこれまで日本の音楽について、小学校ではわらべ歌を歌唱したり、郷土の民謡を鑑賞したり、親しみながら学習してきた。中学校では、篠笛を演奏したり、地域の人材を活用した狂言のワークショップに参加したりしながら、日本の音楽の面白さを味わう学習を進めている。授業で扱う曲の多くは西洋の音楽を用いられており、楽譜に書かれている速度や音程、リズムなどの音楽の諸要素の働きから自己のイメージを膨らませ、音楽活動を行っている。しかし、楽譜に書かれている表現だけでなく、演奏者の思いや意図によって音色や余韻、速度などを自由に変化させたり、日本音楽の特徴である間のもたらす無音の時間を生かしたりする音楽表現があることを多くの生徒はまだ知らない。

(2) 日本音楽の特有の表現を生かし、創意工夫することのできる教材である。

本教材「うさぎ」は、篠笛と箏の二重奏に編曲した器楽のアンサンブル曲である。原曲は江戸時代の箏曲であり、日本の旋法の醸し出す雰囲気を味わうことができ、小学校3年生では歌唱教材として学習した。本教材でもちいる篠笛は、音程を変化させるメリ、カリ、音を揺らすビブラートなど顔の角度や息の使い方によって自由な表現ができる楽器である。また、箏は弦を弾くだけで容易に演奏でき、左手で音程や音色を変化させることができる。アンサンブルでは、篠笛と箏のもつ音色の特徴を生かし、「うさぎの様子や風景」をイメージしながら、ふさわしい音色や間の効果を考えながら、日本音楽の特有の表現の面白さを実感することができる教材である。

(3) 日本音楽の特有の音楽表現を知ることで、多様な音楽の面白さを感じることのできる生徒を育てたい。

日本音楽の特徴として、揺らぎやかすれなどの音色、余韻や音程の変化、間、拍子や速度が明確でないことなどが挙げられる。今回扱う「うさぎ」は、4分の4拍子で旋律も9小節と短く、音域が狭いため、容易に演奏しやすく、創意工夫することにじっくりと向き合わせることができる。本題材では、うさぎの跳ねる様子や風景をイメージしながら、楽譜に書かれていることだけでなく、音色や間を工夫しながら器楽表現する面白さを味わわせるようにする。本時は、グループ内で篠笛と箏に分かれて、それぞれの楽器の音色の重なり合いや間のもつ効果を手がかりとしながら、グループで考えた内容をどのように創意工夫することができるのか、試行錯誤しながら演奏する。そして、この後で学習する日本の伝統芸能の学習においても、声と和楽器の重なりや変化による表現の広がりに着目させ、さらなる興味・関心をもたせるきっかけとしたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知篠笛や箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 ○因創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けている。	○篠笛と箏の音色や間を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	○篠笛や箏の構造や奏法による音色の違いや間のとり方に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

5 授業計画（計5時間）

- (1) 篠笛の表現技法を理解する。 1時間
(2) 箏の基本的な奏法を知り、演奏する。 1時間
(3) 音色の特徴を生かして、グループでイメージを共有し、演奏する。 1時間
(4) グループで考えたイメージと関わらせながら、器楽表現を創意工夫する。 1時間（本時）
(5) 相互鑑賞し合い、日本音楽特有の表現の面白さを味わう。 1時間

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 音楽室】

(1) 主眼 簿笛と箏の音色や間による音楽の変化を生かし、グループで考えたイメージが伝わるように創意工夫することができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
①課題を把握し、自分の担当の旋律を演奏する。 音色や間を生かして、イメージが伝わるように、表現を工夫しよう。	・どの部分にビブラートを入れただろう。 ・箏の旋律のリズムはどうだったかな。	①それぞれの旋律や簿笛のメリ・カリ・ビブラートの奏法、箏の押し手・ゆり色の奏法を確認する。 ・机間指導し、つまずきのある生徒に対して個別に支援する。
グループで考えた「うさぎの様子や風景」が伝わる演奏になっているだろうか。		
②グループで繰り返し演奏する。 ・音色の変化…音程の上下、余韻の変化 ・間のもたせ方 ・情景…夜の風景、視点の種類 うさぎの様子	・誰が最初の合図を出そうか。 ・速度はどのくらいにしようか。 ・間の後が入りにくいか。 ・懐かしい感じを出すために、メリを入れて音程を下げてみよう。	②簿笛と箏の担当に分かれ、演奏できているか確認させる。 ・お互いの音を聴き合いながら合わせるよう、助言する。 ・考えた工夫とイメージがどのように結びついているか、説明できるように助言する。
③工夫した表現を演奏し、他のグループ同士で聴き合う。	・簿笛と箏の音量のバランスはどうかな。	③グループ活動の進め方を確認するとともに、どこに工夫を用いているか気付きを伝えるように促す。
• グループ活動の進め方 (1) 演奏のイメージと用いた奏法を伝える (2) 演奏する (3) どのようなイメージを想像したか聞く		• 聴き合う観点 (1)どの部分に音色の工夫が加わっているか (2)演奏からイメージしたことが伝わっているか
④他のグループの助言を生かし、創意工夫しながら演奏する。	・風が吹いている様子を表すために、簿笛にも箏にもビブラートを入れている。 ・間を入れることで、夜の静かな感じが表れているな。 ・跳ねている感じを出すために、箏の音が工夫されているな。 ・ゆっくりとした感じがやわらかい音色から伝わる。 ・どのように息を入れると、ビブラートの幅が出るんだろうか。	・お互いの演奏を聴いて、アドバイスをし合ったり、奏法を確認したりするように促す。
⑤本時のまとめをする。 ・工夫したこととの共有 ・次時の鑑賞会	・間のもたせ方を工夫することができた。 ・音の余韻に工夫を入れると気持ちが伝わりやすくなった。	④他のグループの演奏で生かせる工夫があれば参考にして、表現を高めるように助言する。 ・必要に応じて、参考になるグループの演奏を取り上げる。 ⑤どんな工夫を付け加えたのか、演奏して確認したり、ワークシートに記入したりするように促す。

(3) 評価 イメージにふさわしい表現になるよう、自分の選択した楽器を創意工夫しながら演奏したり、グループで意見を伝え合ったりすることができたか、活動の様子やワークシートの記述から見取る。

第1学年图画工作科学習指導案

1年2組 指導者 森田歩香

1 題材 スルスルビューン

2 本題材の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

身近な材料を滑らせながら工作に表す活動を通して、滑る動きや仕組みに着目し、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、滑らせて遊ぶものを工夫して表すことができる。

3 本題材の捉え

本学級の子どもたちは、第1学年「おってたてたら」において、画用紙を折って立たせる仕組みに着目し、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、折り方や立たせ方、切り方を工夫して生き物の立つ姿や建物などを表してきた。また、「いっしょにあそぼうぱくぱくくん」では、紙袋や紙コップなどの基底材に手を入れて、開いたり閉じたりする動きに着目し、感じたことや想像したことから表したいことを見付け、基底材の形や飾りの材料を工夫して生き物やオリジナルのキャラクターなどを表してきた。これらの学習と本題材を関連付けることで、「動きに着目すること」「仕組みに着目すること」の2つの見方・考え方を複合的に働かせて滑る動きや仕組みを生かし、より創造的に表したり、作品や材料、出来事などに対する自分の感じ方を深めたりすることができると考える。このことは、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる子どもの姿につながるだろう。

本題材では、基底材を滑らせて感じたことや想像したことから表したいことを見付け、基底材や飾り、滑らせるコースや傾斜などを工夫しながら、滑らせて遊ぶものを表す学習である。子どもたちは、基底材や作品を何度も滑らせながら、発想・構想を繰り返し、滑らせて遊ぶものを表すだろう。その際、滑る動きや仕組みに着目することを大切にしたい。そうすることで、作品や材料の様子が変わる楽しさや、様々な方向から見ることの面白さに気付くことができるを考える。そして、作品や材料、出来事を造形的な視点で捉え、表したいことを見付けるだろう。このことは、滑る動きや仕組みを生かして発想・構想し、表し方を工夫しながら造形活動に取り組む姿につながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本題材でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 関連付けた学習を振り返る活動を設定する。そうすることで、滑る動きや仕組みに着目し、感じたことや想像したことから表したいことを見付けることができるようとする。【活】
- 滑らせて遊ぶものを表すことができた理由を視点に学習を振り返るよう促す。そうすることで、滑る動きや仕組みに着目することのよさを再認識することができるようとする。【獲】
- 自分や友達の作品を滑らせながら鑑賞する活動を設定する。そうすることで、自ら滑る動きや仕組みに着目して、表現の楽しさや面白さを味わうことができるようとする。【活】

4 本題材の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○滑らせて遊ぶものを表すときの感覚や行為を通して、作品や材料の形や色などに気付き、表したいことを工夫して表している。	○感じたことや想像したことから表したいことを見付け、滑る動きや仕組みに着目して発想・構想している。	○滑らせて遊ぶものを表す活動に進んで取り組み、つくりだす喜びを味わおうとしている。

5 指導計画（全4時間）

第1次 基底材を滑らせて、表したいことを発想・構想する（1時間）【本時1/1】

第2次 滑らせて遊びたいものを工作に表す（2時間）

第3次 作品を鑑賞する（1時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 11:05~11:50 体育館】

- (1) ねらい 基底材を何度も滑らせる活動を通して、滑る動きや仕組みに着目し、感じたことや想像したことから滑らせて遊びたいものを発想・構想することができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「滑る動きに着目すること」「滑る仕組みに着目すること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 関連付けた学習を振り返り、本題材の参考作品を鑑賞する。 (10分) ・折って立たせる仕組み ・開いたり閉じたりする動き ・滑る動きに着目すること ・滑る仕組みに着目すること	<ul style="list-style-type: none"> 前につくった作品の動画を見るのだって。 紙を折って立てる仕組みからつくったね。 もう一つは、手を入れて開いたり閉じたりする動きからつくったものだね。 先生が空き箱を持っているよ。クリップが付いているよ。わあ、糸に沿って滑ったよ。 <p>A <u>滑る動きがエレベーターみたいだな。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ロープウェーにも見えるよ。 クリップが付いているから滑るのだね。 <p>B 紙コップや紙皿、空き箱もあるよ。これも滑らせてみたいな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>滑らせたら何に見えるかな。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな材料にクリップを付けて滑らせてみよう。2つのクリップをまっすぐ1列になるように付けたらよく滑るね。 <p>B 紙コップを滑らせよう。わあ、速いな。</p> <p>A 細長い箱も縦向きに滑らせてみよう。うーん、思い付かないな。</p> <p>C 横向きに滑らせたらどうかな。</p> <p>A あ、電車に見えてきたよ。</p> <p>C 箱を2つ繋げたら、横長になってしまふと電車らしくなるのではないか。</p> <p>A <u>やってみよう。電車らしい形になったけれど傾いてゆっくりになってしまふから、クリップの数を増やしてみよう。</u></p> <p>C あ、バランスがよくなつて速く滑ったね。</p>	<p>○関連付けた学習を振り返る活動を設定する。そこで、動きや仕組みに着目して参考作品を鑑賞し、滑らせて遊びたいものを発想・構想することができるようする。【活】</p>
2 材料を滑らせながら、滑らせて遊びたいものを発想・構想する。 (30分) ・滑る動きや仕組みから感じたこと ・滑る動きや仕組みから想像したこと ・感じたことや想像したことから滑らせて遊びたいものについて発想・構想すること ・材料や飾りを工夫して表すこと	<p>A 細長い箱も縦向きに滑らせてみよう。うーん、思い付かないな。</p> <p>C 横向きに滑らせたらどうかな。</p> <p>A あ、電車に見えてきたよ。</p> <p>C 箱を2つ繋げたら、横長になつてもっと電車らしくなるのではないか。</p> <p>A <u>やってみよう。電車らしい形になったけれど傾いてゆっくりになつてしまふから、クリップの数を増やしてみよう。</u></p> <p>C あ、バランスがよくなつて速く滑ったね。</p> <p>A 今度は新幹線に見えてきたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> Bさんは紙皿をクラゲにしようとしているのだって。確かに、ゆらゆら滑っていく様子が、クラゲが泳いでいるみたいだな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>滑らせて遊びたいものを思い付くことができたのは、どうしてですか。</p> </div> <p>A <u>いろいろな材料を滑らせたり、箱を2つ繋げたりして何に見えるか試したからだよ。僕は、新幹線を思い付いたよ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 次は飾りをつけて、滑らせたいな。 	<p>○様々な基底材を滑らせて、滑る動きや仕組みを試す場を設定する。することで、滑る動きや仕組みを生かして発想・構想を広げができるようする。【活】</p>
3 本時の学習を振り返る。 (5分) ・滑る動きや仕組みに着目することのよさ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: right;">  </div> <p>滑らせて遊びたいものを思い付くことができたのは、どうしてですか。</p> <p>A <u>いろいろな材料を滑らせたり、箱を2つ繋げたりして何に見えるか試したからだよ。僕は、新幹線を思い付いたよ。</u></p>	<p>○滑らせて遊びたいものを発想・構想することができた理由を視点に学習を振り返るよう促す。そこで、滑る動きや仕組みに着目することのよさを再認識することができるようする。【獲】</p>

第1学年图画工作科学習指導計画

1年2組 指導者 森田歩香

1 本単元までの学びの過程

題材	前題材までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
おってたてたら (全2時間)	・紙を折って立たせたり、立てる向きを変えたりしたら、画用紙が生き物や建物に見えてきたよ。
いっしょにあそぼうぱく ぱつくん (全4時間)	・紙袋に手を入れて開いたり閉じたりしたよ。開き方や向きを工夫したら、遊びたい生き物やキャラクターを思い付いたよ。

2 本単元の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ	4時間	が本時
第1次 基底材を滑らせて、表したいことを発想・構想する。			1時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 滑らせて遊ぶものや材料の形や色などに気付くこと（知） 感じたことや想像したことから表したいことを見付け、滑らせて遊びたいものを発想・構想すること（思） 		
□滑らせて遊びたいものを発想する。（本時） (1時間)	・学習指導案を参照。		
第2次 滑らせて遊ぶものを工作に表す。			2時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> 滑らせて遊ぶものや材料の形や色などに気付き、工夫して表すこと（知） 表したいことを見付け、滑らせて遊ぶものを発想・構想すること（思） 進んで滑らせて遊ぶものを表す活動に取り組むこと（態） 		
□飾りを工夫して、滑らせて遊びたいものを工作に表す。（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> もっと新幹線に見えるように、飾りをつくるよ。まずは、新幹線の色になるように、青色と白色の画用紙を貼ろう。窓もつくりたいな。Cさんは、空き箱の横に切り込みを入れてドアをつくっているよ。僕も箱に穴を開けて窓にしてみよう。あ、窓から乗客が見えたら面白そうだな。穴の内側に乗客の絵を貼って、外から見えるようにしよう。できたぞ。滑らせてみよう。わあ、始めよりも新幹線に見えてきたぞ。あ、Bさんはクラゲを滑らせているよ。紙皿に紙テープを付けて、クラゲの足をしているのだね。足がひらひら動いているのがきれいだな。新幹線にもテープを付けたら、どうなるのかな。P Eテープを後ろに付けてみよう。細く裂くときれいだから、白色と黄色のテープを付けよう。できたよ。もう一度滑らせてみよう。わあ、速く滑っている感じがするよ。かっこいい新幹線になったな。先生がどのような工夫をしたのか、聞いているよ。箱に穴を開けて窓にしたり、P Eテープを付けたりして飾りを工夫したよ。本物の新幹線みたいに、速く走っているように見せたかったからだよ。もっと速く滑らせて遊びたいな。 		
□飾りやコースなどを工夫して、滑らせて遊ぶものを工作に表す。 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 今日は、コースがワイヤーでできているのだって。早速新幹線を滑らせてみよう。わあ、タコ糸のコースより速く滑るよ。本物の新幹線みたいだな。Cさんが、箱に紙コップを付けて先頭車両の先端を表しているよ。やってみよう。カラーセロハンでライトも付けてみよう。もう一度滑らせるよ。わあ、本物の新幹線が走っているみたいになったよ。Bさんは、ワイヤーを横に曲げて新しいコースをつくっているな。あ、ゆらゆら揺れてクラゲが泳いでいる動きに見えるよ。新幹線がもっと速く走るようなコースをつくりたいな。傾きを急にしてみよう。わあ、すごい勢いで走っていくよ。Cさんが、駅をつくるみたいと言っているよ。最後に 		

	<p>駅に停まるようにしたら面白そうだな。トイレットペーパーの芯でつくった駅を置こう。駅で停車させたいから、最後はワイヤーをまっすぐにしよう。あ、駅に停まったよ。先生が、滑らせて遊ぶものをもっと面白くできたのはどうしてか、聞いているよ。ワイヤーは糸より速く滑るから紙コップをつけて先頭車両を表したら見た目がもっと本物らしくなったよ。傾きを急にしたり曲げたりしたら、本当に新幹線が走っているように見えたよ。</p>
第3次 作品を鑑賞する。	1時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・滑らせて遊ぶものや材料の造形的な楽しさや面白さ、表したいこと、表し方などに気付き、自分の感じ方を深めること（思） ・滑らせて遊ぶものの形や色などに進んで関わること（態）
□作品を滑らせて遊びながら作品を鑑賞する。 （1時間）	<p>・今日は、自分や友達の作品を滑らせて遊ぶのだって。ビューンコースやくねくねコース、くるくるコースがあるよ。くねくねコースで自分の新幹線を滑らせよう。線路のカーブを走っているみたいで面白いな。Dさんの鳥の作品も滑らせてみよう。紙コップを切って、くちばしと尾羽にしているのだね。羽は、画用紙に切って貼っているのだね。ビューンコースを滑らせてみよう。あ、鳥がまっすぐ自分に向かって飛んで来るよう見えるよ。羽や足がある生き物を滑らせると、生きているみたいに動くから面白いな。次は、Bさんのクラゲを選んだよ。P Eテープの足も増やしたのだね。P Eテープは、長い足になっているね。紫色と青色が海の生き物みたいでできだね。滑らせてみよう。長い足がなびいているよ。次は、くるくるコースで滑らせてみよう。わあ、回りながら滑るのが面白いな。上から見ると、回りながら潜っているみたいだよ。先生が、自分や友達の作品の面白いところを見付けることができたのはどうしてか、聞いているよ。いろいろなコースで滑らせてみたからだよ。滑らせると本物に見えたり、コースによって動きが変わったりして面白かったよ。</p>

美術科 学習指導案

1年C組 指導者 藤井 里奈

1 ねらい 造形要素で伝える

○学年シンボルマークの制作を通して、伝えたい内容やイメージについて、造形要素の効果を客観的な視点を取り入れながら表現することができる。

2 教材 「学年シンボルマークの制作」

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は、よりよい作品を制作するためには、客観的視点を取り入れる必要があると感じ始めている。

小学校では、生活を楽しくしたり伝え合ったりするなどの目的に沿った表現を経験する中で、構想や工夫を考える力を身につけている。さらに、前期に行ったシンボルマークの鑑賞では、多くの生徒が身の周りのデザインに目を向け、その工夫や意図について考えようとする姿が見られた。また、構成美の要素や色の調子の学習を通して、形や色などの造形要素がイメージに与える効果についても学んでいる。一方で、形や色を通して、イメージを相手に伝えることに難しさを感じている生徒も多い。実際に、選んだ言葉から構想し、それに合うトーンを考える学習の中で、自分のイメージと他者のイメージに差異があることに気付き、他者にアドバイスを求めようとする様子が見られた。このように、他者からの視点を意識することで作品がより伝わりやすく、よりよくなっていくことに気付き始めていることが見て取れる。

(2) シンボルマークの制作は修正を加えやすく、客観的視点を取り入れた試行錯誤がしやすい教材である。

シンボルマークは、単純な形や限られた色で多くの情報やイメージを非言語的に私たちに伝える働きがある。また、単純な形と色で構成されたシンプルな作品であるため、アイデアスケッチを複数案提示したり、形や色の修正を加えたりするといった作業が行いやすい。

本単元では「学年シンボルマーク」を題材として扱う。学年主任は『にじいろ歌劇団』というスローガンを掲げ、「個性が輝く、温かみのある学年集団にしたい」という思いを生徒と共有している。学校生活に関わる身近な題材であるため、各々が制作の意義を見いだし、主題を生み出しやすいと考える。また、互いが目指す学年の姿を共有しているため、作品の表現がイメージとして伝わっているか、生徒同士が評価し合うことができる。本教材は、客観的視点を取り入れ、試行錯誤しながらの制作が可能だと言える。

(3) 客観的視点をもって、より意図的な工夫を重ねる中で、相手に伝える表現の楽しさを味わわせたい。

実際のデザインの現場では、ユーザーの視点に立ち、課題を捉え、アイデアを発想し、受けたフィードバックを反映させ、より客観的・意図的な表現になるよう改善を繰り返す。生徒がこの過程を追体験することで、制作を単なる作品作りではなく、作品をよりよくしていく探究的な制作活動として取り組んでいけるよう仕組んでいきたい。本授業では、鑑賞の視点をもたせるワークシートをもとに小グループでの活動を行い、選んだ造形要素とそこに込めた思いを言葉で説明できるようにする。また、作者の意図と客観的視点の同異点に着目したり、作品に表れた造形要素の工夫を価値づけたりしていくことで、イメージをより効果的に伝えるにはどうしたらよいか探究的に考えさせる。生徒には、客観的視点をもとに、より意図的に造形要素を工夫していくことで、作者の思いが伝わっていくおもしろさや喜びを実感させたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○アイデアスケッチを鑑賞し、 造形的な視点から捉えるこ とができる。	○表現の意図と工夫について考えると ともに、よりよい作品にするための 改善点について思案している。	○意欲的に鑑賞会に臨み、作品 をよりよくしていこうとし ている。

5 学習計画(全8時間)

- (1)鑑賞を通してデザイナーの仕事やシンボルマークの役割を学ぶ。…………… 1時間
- (2)アイデアスケッチを描く。…………… 2時間
- (3)アイデアスケッチの鑑賞を通してアイデアの再考をする。…………… 1時間(本時)
- (4)シンボルマークを下書きし、着彩を行う。…………… 3時間
- (5)デザインしたマークをプレゼンする。…………… 1時間

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 美術室】

(1) 主眼 アイデアスケッチの鑑賞を通して、客観的な視点から作品を再考することができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
<p>① 本時の活動のねらいを確認する。 作品を客観的視点で再考しよう。</p> <p>② 4人グループでアイデアスケッチを鑑賞し、作者の思いや意図を読み取る。</p> <p>・鑑賞シートの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ①形の特徴・工夫 ②色の特徴・工夫 ③作者の意図 ④修正点・改善策 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次で学習したデザイナーとクライアントの打合せを連想する生徒もいるだろう。 ・作品から伝わるイメージを上手く言語化できない生徒もいるだろう。 ・作品の改善点を指摘することに難しさや抵抗感を抱く生徒がいるかもしれない。 ・本来の意図とは違う解釈も出るだろう。 	<p>①制作途中のものを見せ合う意味や、お互いの作品を尊重し合い、よりよい作品を目指すことをおさえる。</p> <p>②造形的な視点で作品を評価できるよう鑑賞シートの項目を工夫する。</p> <p>・他者の作品を尊重することを前提に、形や色から感じた素直な思いやイメージを記入するよう促す。</p>

より意図が伝わるデザインにするためには、どうすればよいだろう。

<p>③ グループで作品のよさや改善点を協議する。</p> <p><協議の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①作者が工夫や意図を説明 ②作品のよさ、改善点の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチの工夫や意図について作者の説明を聞くことで、納得感を得る生徒もいるだろう。 ・形・色の工夫や意図をうまく言語化できないかもしれない。 ・作品に対して予期せぬイメージをもたれることもあるだろう。 ・作者の思いが形や色によってより印象的に伝わっていることに感心する生徒もいるだろう。 ・作者の造形的な工夫を参考にしたいと考える生徒もいるだろう。 ・他者の作品に見られる工夫を参考に、自分の作品を再考するだろう。 	<p>③作品の良さや、意図がしっかりと伝わっている点を価値付ける。</p> <p>・作者の思いとの相違点については具体的な言葉で焦点化させながら明らかにさせる。</p> <p>・課題のみならず、代替案を提示するよう促す。</p> <p>・形や色を根拠に説明させる。</p> <p>④評価の高い作品を共有し、その意図や工夫を参考にさせる。</p> <p>・鑑賞者の気付いていない、効果的な工夫が見られる作品を紹介し、工夫によってうまれる作品の深まりに着目させる。</p> <p>⑤得られた視点や助言をどういかつか考えさせる。</p> <p>・机間指導をしながら、改善点を価値付ける。</p> <p>⑥ワークシートに本時を通して学んだことを記入させる。</p>
<p>④ 全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒選定の作品 ・教師選定の作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者の意図が形や色によってより印象的に伝わっていることに感心する生徒もいるだろう。 ・作者の造形的な工夫を参考にしたいと考える生徒もいるだろう。 ・他者の作品に見られる工夫を参考に、自分の作品を再考するだろう。 	
<p>⑤ アイデアを再考する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な工夫の方法について考えることができた。 	
<p>⑥ 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった視点や言葉 		

(3) 評価 鑑賞を通して得られた客観的な視点をもとに、作品を再考しようとすることができる。

第6学年体育科学習指導案

6年1組 指導者 田中 博

1 単元 ハンドボール

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目しながらハンドボールに取り組むことを通して、チームの作戦をいかして、相手の動きに応じた得点に繋がる動きを身に付けることができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、第5学年「バスケットボール」の学習で、空いている場所に着目しながら、どのように動いたら得点できるかについて話し合い、ゲームの中で実践してきた。前単元「タグラグビー」の学習においても、空いている場所に着目しながら、チームで作戦を選び、自分の役割に応じた動きでゲームに取り組んだ。ここでは、攻守交替型のルールで行い、攻撃の立場に専念することで、空いている場所をいかすことができそうな作戦を選び、得点に繋がる動きを増やそうとする子どもたちの姿が見られた。このような子どもたちが、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目しながら攻守混在型のハンドボールの学習に連続して取り組む。このことは、今後、様々な運動と出会った際に、これまで経験した課題解決の方法をいかしながら、運動を楽しむことができる子どもの姿に繋がると考える。

本単元で行う「ハンドボール」は、仲間と力を合わせてパスやドリブルでボールを運び、ゴールにシュートをして得点を競い合う楽しさを味わうことができる運動である。子どもたちは、ハンドボールに取り組む中で、「たくさん点を取りたい」という思いをもつであろう。そこで、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目することができるようになる。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 試しのゲームを行った際に、得点に繋がる動きをするために、これまでの学習の中でいかせそうな動きについて話し合うよう促す。そうすることで、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目することができるようになる。【活】
- 振り返りを行う際には、得点に繋がる動きや作戦と、その理由について振り返るよう促す。そうすることで、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目して動くことのよさを再認識し、その後のゲームにいかすことができるようになる。【獲】
- ゲーム終了後、作戦ボードを使って、チームの作戦とともに相手の動きに応じた一人一人の得点に繋がる動きについて話し合う時間を設定する。そうすることで、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目して動きを試行錯誤することができるようになる。【獲】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に移動して、パスを受けたりシュートをしたりしている。	○チームの特徴に応じた作戦を選ぶとともに、考えを他者に伝えている。	○パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目しながら得点に繋がる動きについて仲間の考えを認めようとしている。

5 指導計画（全6時間）

第1次 ハンドボールの行い方を知り、試しのゲームをする（2時間）【本時2／2】

第2次 チームで作戦を話し合い、考えた作戦をゲームで試す（3時間）

第3次 チームで考えた作戦をいかして山小ハンドボールカップ2025を行う（1時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 10:05~10:50 体育館】

- (1) ねらい パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目しながら得点に繋がる動きについて話し合い、ゲームで試すことを通して、空いている場所を見付けて動くことができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目すること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 前時の学習を想起し、本時の学習の見通しをもつ。 (5分) ・得点に繋がる動きを見付けようとしてすること	<ul style="list-style-type: none"> 前回のことを振り返ると、どのように動いたらよいかが難しかったと振り返っている人が多いたようだね。 今日は、どのように動いたら、よりたくさん点が取れるのかについて話し合いながらハンドボールに取り組もう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どのように動いたら、たくさん点を取ることができるのがだろうか。</p>	○前時の学習で、ゲーム中の動きに難しさを感じた子どもの振り返りを取り上げ、共有する時間を設定する。 そうすることで、得点に繋がる動きを見付けようとすることができるようとする。【発】
2 どのように動いたらよいかについて話し合い、ハンドボールに取り組む。 (30分) ・得点に繋がる動き ・得点に繋がる動きを他者に伝えること ・パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目して動くこと	<ul style="list-style-type: none"> 実際にやってみると、やっぱりパスをたくさん受けることが難しかったよ。 前の時間も今日もゲームで活躍しているAさんにこつを聞きたいな。 <p>A 守備の人にボールを取られないように、パスを受けたりシュートをしたりしやすい空いている場所を見付けて動いたよ。</p> <p>B そういえば、タグラグビーのときにも、人が少なくて空いている場所を見付けて、パスを受けたり走り込んだりしていたよね。</p> <ul style="list-style-type: none"> タグラグビーで見付けたこつもいかして次のゲームで試してみよう。 実際にやってみると、初めのゲームのときよりパスを受けることができたね。 <p>A みんなが空いている場所を見付けて動いたら、ゴール前に相手がいない場所ができてシュートのチャンスに繋がったよ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">たくさん点を取るためにどのように動いたらよかつたですか。</p>	○得点に繋がる動きをするために、これまでの学習の中でいかせそうな動きについて話し合うよう促す。 そうすることで、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目することができるようする。【活】
3 本時の学習を振り返る。 (10分) ・パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に着目することのよさ ・空いている場所を作り出すこと	<p>B たくさん点を取るために、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所を見付けて動いたらよかつたね。</p> <p>A 一人一人の動きで空いている場所を作り出すことも得点に繋がりそうだったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次は、チームでいろいろな作戦を話し合ってゲームに挑戦してみたいな。 	○たくさん点を取るためにどのように動いたらよかつたのかについて振り返るよう促す。 そうすることで、パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所を見付けて動くことのよさを再認識することができるようする。【獲】

第6学年体育科学習指導計画

6年1組 指導者 田中 博

1 本単元までの学びの過程

單 元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
タグラグビー (全6時間)	・パスを繋げて点を取るために、空いている場所を見付けて、パスを受けたり、走り込んだりすることが大切だと分かったよ。空いている場所をいかしたチームの作戦が成功して点を取ることができたときはとても嬉しかったね。

2 本単元の学びの過程

学習活動	子どもの思考の流れ	6時間	が本時
第1次 ハンドボールの行い方を知り、試しのゲームをする。		2時間	
学習内容			
・得点に繋がる動きについて仲間の考えを認めようとしていること（態）			
<input type="checkbox"/> ハンドボールの行い方を知り、試しのゲームをする。（1時間）	<p>・ハンドボールをするのって。今までやったことはないけれど、バスケットボールみたいに手でドリブルやパス、シュートをして、サッカーのようなゴールに向かってシュートをするのだね。得点を競い合って勝ち負けを決めるところや攻守の切り替えが速いところもサッカーとバスケットボールに似ているよ。早速、ハンドボールをやってみよう。実際にやってみると、攻撃側になつたり守備側になつたりと、タグラグビーと比べてゲームの展開が速かったよ。パスをたくさん受けたりシュートをしたりしたかったけれど、どのように動いたらよいのかが難しかったな。でも、Aさんがシュートを決めたときにはみんなで盛り上がっていたよ。それにAさんはパスもたくさん受けて活躍していたね。学習の最後には「山小ハンドボールカップ2025」をするのって。私もAさんのように、パスをたくさん受けたり、得点を決めたりすることができるようになりたいな。そのためにはどのように動いたらよいかな。</p> <p>・学習指導案を参照。</p>		
口どのような場所に動いたらよいかについて話し合い、ハンドボールに取り組む。（本時） (1時間)			
第2次 チームで作戦を話し合い、考えた作戦をゲームで試す。		3時間	
学習内容			
・チームの特徴に応じて作戦を選ぶとともに、考えを他者に伝えていること（思）			
・得点に繋がる動きについて仲間の考えを認めようとしていること（態）			
<input type="checkbox"/> チームで作戦を選び、ゲームで試す。（1時間）	<p>・今日はチームで作戦について話し合ってゲームをするのだね。先生が準備した作戦が3つあるよ。選んだ作戦について、作戦ボードを使って動きを確認して、ゲームで試してみよう。最初の作戦は、空いている場所に動いてパスを細かく繋いでいく「パス&ラン作戦」だよ。試してみると、パスはたくさん繋がったけれど、みんなが遠慮してシュートの回数が少なかったね。次の作戦は、素早くゴール前に走り込んだ人にパスを繋ぐ「ゴール前速攻作戦」だね。試してみると、ゴール前に走り込むAさんにみんながパスを繋いでたくさん点を取ることができたね。最後の作戦は、誰かが相手を引き付けて、空いている場所に動いた人にパスを繋ぐ「おとり作戦」だね。試してみると、相手を引き付けることは難しかったけれど、成功したら気持ちがよいね。私たちのチームには、ゴー </p>		

<p>□チームに応じた作戦を話し合い、ゲームで試す①。 (1時間)</p> <p>□チームに応じた作戦を話し合い、ゲームで試す②。 (1時間)</p>	<p>ル前の空いている場所に走り込むのが速いAさんにパスを集める「ゴール前速攻作戦」が合っていたよ。一人一人の動きも分かりやすいね。次は「ゴール前速攻作戦」を中心に点をたくさん取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前の時間に私たちのチームに合っていた「ゴール前速攻作戦」で、今日も点を取るぞ。今のゲームでは、作戦が上手くいかなくて負けてしまったね。どうして上手くいかなかったのだろう。相手チームの人がAさんのマークにずっと付いていたからかな。Bさんが、Aさんにマークがずっと付いて「ゴール前速攻作戦」が上手くいかないときは、Aさんをおとりにして空いている場所を作り出して、攻撃しようと言っているよ。何だか「ゴール前速攻作戦」と「おとり作戦」を組み合わせたみたいだね。ゲームで試してみよう。やった、Aさんがおとりになっている隙に、相手チームの人が少ないゴール前に走り込んだ私にパスが来て、シュートを決めることができたよ。チーム一人一人が作戦を大切にしながら、相手の動きに応じて動いて、空いている場所を作り出すことができたからだね。相手の動きに応じて作戦を変えていくことも大切だと分かったよ。まだまだ作戦について話し合ってゲームで試してみたいな。 前回の学習を振り返ってみると、私たちのチームは、ゴール前に走り込むAさんにボールを集める作戦を基本にして、相手の動きに応じてAさんをおとりにして空いている場所を作り出す作戦がよかったね。前回の作戦を試してみると、複数の人でゴール前の空いている場所を見付けて走り込んだ方が得点に繋がっていたよ。シュートをしやすい場所にいる人が多くて、パスの選択肢が増えるからかな。Bさんが、最初から3人でゴール前に走り込もうと言っているよ。Aさんが左、私が右、Cさんが真ん中、パスが上手なBさんとDさんがパスを繋いでいくのだって。よし、試してみよう。ゴール前のシュートをしやすい場所に3人いるからパスを繋ぎやすかったとDさんが言っているよ。ゴール前の3人も相手チームの人に取られないように空いている場所を見付けてパスを繋いでいたから、守備側も困っていたね。みんなで考えた「トリプルアタック作戦」で山小ハンドボールカップ2025優勝だ。
<p>第3次 チームで考えた作戦をいかして山小ハンドボールカップ2025を行う。 1時間</p>	
<p>学習内容 •パスを受けたりシュートをしたりしやすい場所に移動して、パスを受けたりシュートをしたりしていること（知）</p> <p>□チームで考えた作戦をいかして山小ハンドボールカップ2025を行う。 (1時間)</p>	<p>•今日は山小ハンドボールカップ2025だ。「トリプルアタック作戦」で得点をたくさん取って優勝をめざそう。□□のチームと対戦だ。作戦通りに空いている場所を作り出せたから勝つことができたよ。Bさんが相手チームの隙を突いて、ゴール前にボールを運んでシュートを決めたことがすごかったね。一人一人が相手を引き付けていたからおとり作戦が成功したよ。次のチームと対戦だ。あれ負けてしまったよ。このチームは守備のときに一人一人にマークが付いていたから、パスを回しにくかったな。今回みたいに空いている場所を作り出しにくくなると、点が取れなくなってしまうね。作戦の動きを大切にしながら、パスを受けたりシュートをしたりしやすい空いている場所を見付けて動き続けないといけないな。■■のチームと対戦だ。最後は4点も取れて、よいゲームができたよ。優勝はできなかつたけれど、今までの経験をいかして空いている場所を作り出せたから得点に繋げることができたよ。チームで得点を競い合って楽しかったね。</p>

保健体育科学習指導案

3年C組 指導者 戎 健介

1 ねらい 共生の視点を広げる

○スポーツ界が抱える課題に対して仲間と考えを伝え合う活動を通して、国、人種、性など様々な違いをもった人への理解を深めることで、共生の視点を広げることができる。

2 教材 「体育理論—文化としてのスポーツの意義—」

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は、スポーツがもつ「人と人を結び付ける力」を実感し始めている。

7月に大学生を招いて行ったバレーボール大会の振り返りとして、「スポーツを通じて、人々は理解し合えるのか」を問うと、9割以上の生徒が肯定的な回答を示した。その中には、授業や部活動等に着目している生徒が多く、日常的なスポーツ活動の中でも年齢や男女の違いを越えて関わることでスポーツには、人と人とを結び付ける力があることを実感したと考える。

一方で、スポーツ界が抱える課題に着目し、「ドーピングやジェンダー等、多くの課題を抱えていることから理解し合うことは難しい」と回答した生徒もいる。

生徒は、年齢や男女の違いといった身近な「共生」の視点はもっている。しかし、スポーツを通じた共生社会の実現を目指すには、広い視点で「共生」を捉える必要がある。

(2) 多様な性とスポーツとの関係を考えながら公平性という視点を広げることができる教材である。

「スポーツには人々を結び付ける文化的な働きがある」と教科書に記載がある。しかし、オリンピックや世界選手権などの国際大会では、人種や考え方の違いから衝突が発生している。「パリ五輪女子ボクシング66キロ級における出場権利問題」は、多様な性とスポーツとの関係について議論された顕著な例である。身体活動の競争を伴うスポーツにおいて、LGBT等のセクシャルマイノリティは性的な差別や不平等が社会の他の部分よりも根強く、性の在り方を「多様性」として受け入れることは容易ではない。この問題は、安全性を重んじるIBA（競技の公正さ）と、オリンピズムに準ずるIOC（出場機会の公正さ）の判断を比較することを通して、多様な性の視点から公正なスポーツの参画を考えることができる教材である。このように、平和の祭典であるオリンピックが抱える課題から性を捉え直すことは、共生の視点をより広げることに期待できる。

(3) 国、人種、性の在り方を捉え直し、多様性を受け入れ、他者とよりよく生きていく生徒を育成したい。

本单元では、まず単元全体の内容を学習し、スポーツがもつ文化的意義を理解させた上で諸課題に迫る。教科書に載っている内容とスポーツ界の現状を比較し、課題解決方法や自分なりの見解を語り合う中で、生徒がスポーツを通じた共生社会の実現のための視点を広げていくことにつなげたい。

毎時間終わりに次時に関する事前課題を提示し、班で意見をまとめる時間を設ける。予め知識と考えをもった上で本時の学びとつなげることで、より本質に迫る議論が期待できる。まとめた意見は事前に提出させ、その中から問い合わせや課題を提示し、生徒目線で授業を構成することで意欲向上を図る。本時では、当時の選手の状況や心情に関する記事を提示して、今回の出来事を多角的に捉えさせる。多様な性を受容することの難しさと必要性を実感させた上で、自分ならどうするかと自分事に置き換えて意見を考えさせ、スポーツを通して人とつながるために必要な「多様性」を受け入れる心構えを身に付けさせたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○スポーツには民族や国、人種等といった違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを理解できる。	○多様な関わり方についての自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて、考えを他者に伝えることができる。	○運動やスポーツが多様であることを理解し、意見交換等の表現する活動に自主的に取り組むことができる。

5 学習計画

- (1) スポーツのもつ文化的な意義を理解する。 1時間
(2) スポーツ界の抱える問題に迫る。 3時間（本時2／3）

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(金) 13:00~13:50 3年C組教室】

(1) 主眼 IOCが決定した判断の是非を考察することを通して、セクシャルマイノリティへの理解を広げ、共生の視点を広げることができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
<p>①課題に対する意見を代表の班が発表し、質疑応答を行う。</p> <p>【課題内容】 「相撲における体格差ごとの階級を分けるべきか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階級制度の重要性 ・競技の公平さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の意見が出るだろう。 <p>【肯定派の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道と同様に相撲も体格差が勝敗に直結するため階級は分けるべきである。 ・フェアな勝負ではなくなってしまう。 ・同じ体格の人と戦った方が様々な戦術が出てきて見応えがありそうだから。 <p>【否定派の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道には階級差がなく国際大会がないので、現行制度を変える必要はない。 ・大相撲の魅力の1つに、体が小さな者が大きい者に勝つ瞬間があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定派と否定派の意見が聞けるように事前に課題を提出させて、発表班を選出しておく。 ・データや資料を基に根拠をもって発表を行うように促す。 ・武道の理念を提示しながら、肯定派の意見を揺さぶる。 ・日本発祥の武道における階級制度に着目させ、公平性を高める目的があることを確認させる。

I B A (競技性) と I O C (多様性) どちらの意見に賛同するか。

②学習課題を掴む。	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の意見が出るだろう。 <p>【IBA派の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打撃を伴うスポーツにおいて、力のバランスを取らなければ、命の危険を伴う可能性があるから。 ・そもそも階級制度は「勝敗の公平性」を担保していることから、例外的な対応ではあるが、今回の対応は望ましいと感じる。 <p>【IOC派の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれてきた性別が「女性」であるならば、女子ボクシングの大会に出る資格は当然あると思う。 ・病気の一種なのにも関わらず、「女性である」という人権を侵害し、権利を尊重しない決定はあってはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ②他の意見に影響されないようにフォームで回答させる。 ・今回の事案についての記事を提示することで、生徒が考える意見に妥当性をもたせる。 ・IBAは「公平な試合」を行うため、階級整備を行ってきたことを確認させる。 ・IOCはクーベルタンの思想を軸に、参加までの過程を大切にしてきたことを確認し、次の問い合わせを提示する。
③学習課題を追究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の意見が出るだろう。 <p>【受け入れられる派の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ目標をもったライバルだから。 ・この人自身には何の罪もないから。 ・公的機関が承諾しているから。 ・平和の祭典として、全員が平等に出席の機会を得られるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ③各自の意見を把握するため白板にネームプレートを貼らせる。 ・両者の意見を発表させて、考えを共有させる。 ・敗退後の選手の言動を取り上げ、冷静さを保ちながら瞬時に多様性を受け入れることの難しさを確認し、問い合わせを行う。 ・相手を称えたり、多様な人を認めたりすることの難しさを再確認し、振り返りにつなげる。 ・議論前の意見と比較させ、考えが変化した理由を問う。
④本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「性」への多様性に反した差別が存在する限り、スポーツで人は理解し合うことはできない。 ・他者の個性や特性を理解し、受け入れていく行為は国際理解や世界平和につながっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ④自己の変容を自覚させるため、授業前のアンケートを共有し、再度「スポーツを通して人々は理解し合えるのか」と問う。 ・意見を共有した後、次回に向けての学習課題を提示する。
(3) 評価 ワークシートから、セクシャルマイノリティへの理解が深まり、共生の視点が広がったかを見取る。		

技術・家庭科（技術分野）学習指導案

2年B組 指導者 德光 慧

1 ねらい 動力伝達のしくみを活用する

○高齢者の生活に焦点を当て、エネルギー変換の技術を用いて問題を解決することができる。

2 教材 「高齢者の生活サポートアイテムを生み出そう」

3 学習のとらえ方

(1) 生徒は、身の回りのものが動くしくみについて、深く理解するまでには至っていない。

生徒は小学校で、生活科や、図画工作科における「コマづくり」や「動くおもちゃづくり」等の経験をしている。回転したり、左右に揺れたりするなど様々な動きを生み出す機構があることを認識し、作る楽しさや動かす面白さを体験している一方で、その機構の動く原理や法則については深く理解できていない。身近な自転車を例に挙げ、「ペダルを漕ぐという力がどのように伝達されて前へ進む力へ変換されていくのか」と生徒に尋ねても、その機構を明確に説明できる生徒はごくわずかであった。また、ギヤによる変速のしくみを学習した際には、机上では理解ができていても、それを自らの実体験と関連付けて理解を深められている生徒も少なかった。

(2) Tech 未来教材は、生徒のアイデアを具体的な形にできる点で学習に効果的な教材である。

Tech 未来教材はブロック型教材であり、簡単に組み立て・分解・再組み立てができるため、生徒は自らのアイデアをすぐに形にすることことができ、創造の世界に没頭する楽しさを体験することができる。失敗を恐れずにトライ＆エラーを繰り返すことで、基本的な知識・技能を単に暗記するのではなく、実物に手で触れながら知識を活用する力を身に付けることが期待される。また、厳選されたパーツの組み合わせで多様な機構を創り出すことが可能で、生徒同士で機構の説明をする場面では、説明用のモデルを別に作って提示するなど、生徒の主体性を育むことのできる最適な教材である。

(3) 理解した動力伝達のしくみを社会のニーズに応じて活用しようとする態度を育てたい。

少子高齢化が加速する今後の世の中は、高齢者雇用や老老介護など、これまでになかった新しい社会構造に変容し、新しい技術開発によってそれらの抱える様々な問題を解決していくことの必要性が高まっている。そういう背景をもとに、本題材では高齢者の生活（動作）をサポートするアイテムを考案し、そのモデルを製作することを最終的なねらいと設定している。本時では、アイテム製作の基礎となる、重たいものをいかに効率よく、軽い力で動かすことができるかに焦点を当たた機構モデルの製作を行う。その際に、次の点に留意する。

- ・作り出した機構について、その原理をギヤ比などの用語を用いて説明できることを目標とする。
- ・ただ機構を作りだすだけでなく、より具体的な生活の場面を想定させたものづくりになるように場面設定や目的を明確にさせて機構作りを行うようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○動力伝達についての科学的な原理・法則や基礎的な技術のしくみについて理解している。	○動力伝達の技術を評価し、適切に選択、管理・運用する力を身に付けている。	○課題の解決に主体的に取り組み、工夫し、創造しようとしている。

5 学習計画（計 13 時間）

- (1) 社会や生活を支える技術や製品に込められた技術を知る。 1時間
- (2) 動力伝達のしくみについて理解する。 3時間
- (3) 動力伝達のしくみを活用したアイテムを作る。 2時間（本時 1／2）
- (4) 高齢者の生活における問題を発見し、課題を設定する。 1時間
- (5) 課題の解決に向けた設計を行い、試作等を通じて修正を図る。 4時間
- (6) 学習を振り返り、エネルギー変換の技術と私たちの未来を考える。 2時間

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 技術室】

(1) 主眼 重力物を巻き上げる機構の開発を通して、速さと力のバランスに着目して技術の最適化を図り、そのしくみを説明することができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
①50ml ペットボトルを巻き上げる機構を作り出す。	<ul style="list-style-type: none"> ギヤの組み合わせがよく理解できない。 力を上げすぎて、速さが損なわれてしまった。 計算方法がよく分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> 歯車の組み合わせについてこれまでの学習を振り返る。 速度伝達比 回転速度（スピード）と回転力（トルク）の関係
②完成した機構について、作り出した回転速度や回転力を数値化する。 ・元のモータを基準とし、何倍になったのかを算出		<ul style="list-style-type: none"> 速度伝達比の算出方法を再確認する。 $\text{速度伝達比} = \frac{\text{駆動軸の回転速度}}{\text{被駆動軸の回転速度}}$ $= \frac{\text{被駆動軸の歯車の歯数}}{\text{駆動軸の歯車の歯数}}$

より重たいものを巻き上げる機構を生み出そう

③2Lペットボトルを巻き上げる機構を作り出す。	 <ul style="list-style-type: none"> 50ml ペットボトルを巻き上げた機構を根拠に、4倍にすれば良いと予想するだろう。 より軽い力で、もっと早く巻き上げるにはどうしたらよいだろうか。 回転軸が滑らかに動かない。 電池を増やしたり、歯車以外の方法を考えようとしたりする生徒がいるだろう。 目的なく製作に取り組む生徒がいるだろう。 4倍にしても巻き上げることができなかったのはなぜだろう。 同じ歯車の組み合わせなのに出来る、出来ないがあるのはなぜだろう。 歯車だけでなく、形の工夫も必要だということが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想どおりの結果になるか、実際に試しながら検証することを助言する。 歯車の組み合わせ方について、駆動軸と被駆動軸の関係について再確認する。 重量物を持ち上げる生活の場面を考えさせ、実生活とのつながりを意識したモデル作りをするよう問い合わせる。
④出来上がった機構を説明し合い、他のグループとの情報共有を行う。 ・共有アプリの利用 ・アドバイスの共有・整理	<ul style="list-style-type: none"> モータの小さな力を変換するとこんなにも大きな力に変えることができて驚いた。 歯車以外の方法を用いて力を大きくする方法を考えようとする生徒がいるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 回転速度と回転力のバランスについて言及し、技術の最適化を考えさせる。 本体の強度や軸受けの位置調整について、調整するよう助言する。(回転抵抗、動力伝達効率)
⑤本時の活動を振り返る。 ・改善点の焦点化 ・既習内容とのつながり		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発想と具体化する姿勢を価値付け、次回から高齢者の生活をサポートするアイテムを製作することを伝える。

(3) 評価 スピードとトルクのバランスがとれた機構を作り、そのしくみを他者へ説明することができる。

第6学年家庭科學習指導案

6年2組 指導者 坪井 悠

1 単元 こんだてを工夫して

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

栄養バランスや対象者の状況に着目しながら、1食分の献立について話し合ったり、調理実習したりすることを通して、自己の食生活をよりよくしようとすることができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、「できることを増やしてクッキング」において、健康面や快適さに着目しながら「いためる」ことの特性を理解し、自己の家庭生活での調理実践に取り組んだ。また、「衣服の手入れで快適に」においても、健康面や快適さに着目しながら洗剤の働きや日常着の手入れの仕方について話し合うことを通して、洗濯の必要性や手入れの工夫に気付き、自己の家庭生活で実践できることを考えてきた。このような子どもたちが、自己の食生活を振り返ったり、栄養教諭や家族にインタビューしたりすることを通して、栄養バランスのとれた献立の構成要素（健康面）や、自己の家庭の状況を踏まえて（快適さ）食生活を見直していく。このことは、自分にできることや家族の一員としての自覚を高め、健康で快適な生活をめざす子どもの姿につながるであろう。

本単元は、料理や食品の組み合わせ方や調理方法を工夫して、対象者に合わせた1食分の献立を考えていく学習である。子どもたちは、自己の食生活を振り返る中で、栄養バランスを考慮したり、自分の好みに合わせたりしながら献立を作成するであろう。その際、料理や食品の組み合わせ方や好みだけでなく、食事の時間帯や家族構成などを踏まえた自己の家庭の状況に着目することを大切にしたい。そうすることで、自己の食生活と向き合いながら、工夫や課題を見いだしたり、自分が家庭でできることを見直したりすることができると考える。また、家庭環境が異なる他者の工夫からは、自分が「当たり前」と感じている食生活の中にある工夫や課題に気付くことができると考える。このことは、自己の家庭の状況に応じて、食生活の課題を見いだしたり、課題から献立を工夫したりしながら、健康で快適な食生活をめざす実践的な子どもの姿につながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 全校児童を対象にした給食1食分の献立を作成し、栄養教諭と意見交流する場を設定する。
そうすることで、栄養バランスに加え、対象者の状況に着目しながら献立作成ができるようになる。【発】
- 献立作成をした際の工夫とその意図を問う。そうすることで、栄養バランスに加え、対象者や家庭の状況に着目していたことを自覚することができるようになる。【獲】
- 家族を対象にした1食分の献立を考え、実践する活動を設定する。そうすることで、栄養バランスに加え、家庭の状況に応じた工夫を自らすることができるようになる。【活】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○栄養バランスをとるための献立の構成要素に加え、「ゆでる」「いためる」といった材料に適した調理方法を理解している。	○1食分の献立の栄養バランスや自己の食生活から見いだした課題や工夫をもとに、献立作成や実践方法を工夫している。	○自己の食生活をよりよくしようと進んで工夫や課題を見いだし、実践しようとしている。

5 指導計画（全12時間）

第1次 納食の献立作成における工夫を知る（3時間）

第2次 納食の献立を作成し、献立作成の工夫について話し合う（5時間）

第3次 家族を対象にした1食分の献立を考え、実践する（4時間）【本時1／4】

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 10:05~10:50 6年2組教室】

- (1) ねらい 栄養バランスや自己の家庭の状況に着目しながら、家族を対象にした1食分の献立を作成することを通して、食生活をよりよくするための工夫を見いだすことができるようとする。
- (2) 本時で働く見方・考え方 「栄養バランスと家庭の状況に着目すること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 納食の献立作成の工夫について振り返る。 (15分) ・献立の構成要素 ・対象者に合わせた献立作成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・納食の献立は、主食・主菜・副菜で分けると栄養のバランスが考えやすかったね。 ・瓦屋先生は、小学生には地元の食材のよさを味わってほしいという思いをもっておられたね。 ・<u>栄養バランス以外にも、地産地消の考え方</u>も取り入れていると言っていたよ。 <p>A 献立作成は、食べてもらう相手に合わせて工夫することが変わったのだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生が、相手が家族だとどのような工夫があるのかと聞いているよ。 	○給食の献立作成の工夫を振り返る場面を設定する。そうすることで、献立作成の際、栄養バランスに加え、対象者の状況に着目することができるようとする。 【発】
家族に向けた献立を考えるときは、どのような工夫ができるのかな。		
2 家族を対象にした1食分の献立の工夫について話し合う。 (20分) ・栄養バランスのとれた献立作成すること ・自己の家庭の状況に応じた献立作成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・給食のときと同じように家庭でも栄養バランスをとることを考えないといけないね。 ・他にも工夫できることがあると思うよ。 <p>A <u>私の家族は、みんなお肉が好きだから主菜には、お肉を使いたいな。だから副菜には野菜を使う必要がありそうだな。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんは栄養バランスをとりながら、家族の好みも考えて、食事を「楽しむ」ことも大切にしているのだね。 <p>B 私は毎日習い事があるから、いためもので速く作ることができる献立にしたいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bさんは栄養バランスを考えながら「時間」を短くすることも大切にしているのだね。 ・それぞれの家庭によって大切にしたいことがあるのだね。 	○家庭に向けて作成した献立の工夫について、その意図を問う。そうすることで、栄養バランスに加え、自己の家庭の状況に着目していたことを自覚することができるようとする。 【獲】
3 家族を対象にした献立作成の工夫について振り返る。 (10分) ・栄養バランスや自己の家庭の状況に着目すること	<p style="text-align: right;"></p> <p>献立作成でこだわったことは、 どのようなことだったかな。</p> <p>A 栄養バランスだけでなく、家族で「楽しく」食事をするために好みにこだわって献立を考えたことだよ。</p> <p>B <u>みんなのこだわったことは、給食の献立のときのように、食べてもらう人に合わせた工夫になっていたのだね。</u></p>	○献立作成の工夫を視点に振り返るよう促す。そうすることで、栄養バランスに加え、自己の家庭の状況に応じた献立の工夫を自らしようとすることができるようになる。 【活】

第6学年家庭科学習指導計画

6年2組 指導者 坪井 悠

1 本単元までの学びの過程

単元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
できることを増やしてクッキング (全8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・食材をいためるとかさが減るからたくさん食べることができるね。同じ食材で調理時間を比べると、いためるときは、ゆでるときよりも短くなっていたね。<u>家で朝ご飯にスクランブルエッグを作ったら、家族から「短時間で作ったのにおいしいかった」と言われて嬉しかったよ。</u>
衣服の手入れで快適に (全6時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯をする以外に服やタオルなどを畳んだり、整頓したりするなど、服を手入れするたくさんの工夫が分かったね。<u>家で家族と一緒に服の手入れをしてみると、環境に配慮したものや手間をかけずにできる工夫がたくさんあったよ。みんなのしている工夫も試したくなつたよ。</u>

2 本単元の学びの過程

		12時間	が本時
学習活動	子どもの思考の流れ		
第1次 給食の献立作成における工夫を知る。			3時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1食分の献立の栄養バランスや対象者に合わせた工夫に気付くこと（知） ・献立の構成要素を知ること（知） 		
□給食の献立について話し合う。（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・今日から給食の献立を考えてみるそうだよ。僕の好きな「わかびーあえ」を入れたいな。Aさんは揚げパンを入れたいと言っているよ。確かにみんなの好きな給食だね。あれ、献立表を見てみると、毎日みんなの好きなものばかりではないよ。栄養バランスのことも考えて作られているよね。他にも工夫されていることがあるかもしれないぞ。瓦屋先生から献立作成の工夫について聞いてみよう。 		
□栄養教諭から献立作成への思いや工夫を聞く。（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は瓦屋先生が来てくれたよ。栄養バランスをとるために主食、主菜、副菜に分けているそうだよ。確かに給食の献立もそのように分かれているな。栄養のバランスを考えるだけでなく「味」や「香り」も工夫して、みんなに「楽しく」食事をしてほしいのだって。他にも地元の事を知つてもらうための工夫もしていることが分かったよ。瓦屋先生の献立には、私たちに食べてもらうための工夫がたくさん詰まっているのだね。 		
□12月の給食の献立作成の工夫を話し合う。（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・今日も瓦屋先生が来てくれたよ。12月の給食の献立を考えてみないかと言われたよ。自分たちが考えた献立が給食で出るなんて嬉しいね。どのような工夫ができるかな。栄養バランスがとれるように主食、主菜、副菜で考えるといいね。主食はご飯で、主菜と副菜、汁物を考えるそうだよ。Aさんは、色とりどりの野菜で「彩り」をよくしたいと言っているね。Bさんは、栄養バランスを考えて、食べた人が「元気になる」献立にしたいそうだよ。全校のみんなが楽しく食事できる献立にしたいな。 		
第2次 給食の献立を作成し、献立作成の工夫について話し合う。			5時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象にした献立作成の工夫を見いだすこと（思） ・小学生を対象にした献立作成を工夫しようとすること（態） 		
□給食の献立を決定する。（2時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、班で献立を決めていくのだね。僕たちの班は、はなっこりーを使った「山口大好きメニュー」にしたいな。山口市の食材を使うと、みんなが地域のことをもっと好きになってくれるかな。はなっこりーを使った野菜炒めにベーコンも入れて主菜にしよう。副菜は、山口市産ほうれん草を使っておひたしを作るよ。みそ汁の実も山口市産にすると、「山 		

<p>□ご飯と汁物、副菜を調理する。 (2時間)</p>	<p>「山口大好きメニュー」にぴったりだな。みんなは、どのような献立を考えたのかな。Bさんの班が考えている「エネルギー全開メニュー」には、カレーに旬の野菜が入っているよ。栄養バランスがとれていて、野菜が苦手な人もおいしく食べられるね。どの班も主食、主菜、副菜に分けて、栄養のバランスをとっていたね。それに、全校のみんなが食事を楽しむことができる工夫も考えられて、素敵だなと思ったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日はいよいよ調理実習だ。みんなで計画通りに作ろう。まずは、時間のかかるみそ汁から作るぞ。火の通りにくいやがいもといちよう切りにしたにんじんからゆでよう。次に、副菜のおひたしを作るぞ。ゆでて色が鮮やかになったら完成だ。主菜のベーコン入り野菜炒めは、短時間で作れるから最後に作るよ。具材を小さくするといためる時間も短くなるね。主食のご飯も炊けたぞ。よし、これで「山口大好きメニュー」が完成したぞ。栄養バランスもとれているし、山口市産の食材をたっぷり使った献立になっているよ。瓦屋先生は、この「山口大好きメニュー」を食べたら何と言ってくれるかな。早く感想を聞いてみたいな。このメニューが給食の献立に選ばれたら、全校のみんなも楽しく食べててくれると思うよ。 瓦屋先生が「どの班も栄養バランスを考えて、全校のみんなが楽しむ工夫ができていた」と褒めてくれたよ。Bさんたちの「エネルギー全開メニュー」は旬の野菜をたくさん使って、栄養バランスをとっていたね。私たちは、山口市産にこだわったけど、けんちようを入れて郷土の文化も感じられる献立にすることもできそうだね。どの班も栄養バランスをとるだけでなく、食べる人が楽しめる工夫を考えて献立を作っていたね。どの献立が給食になるか楽しみだね。
<p>□献立作成の工夫について振り返りをする。 (1時間)</p>	

第3次 家族を対象にした1食分の献立を考え、実践する。

4時間

- 学習内容**
- ・家族を対象とした献立の工夫を見いだすこと（思）
 - ・家庭生活での実践意欲をもつこと（態）

<p>□家族を対象にした1食分の献立の工夫について話し合う。 (本時) (1時間)</p> <p>□家族を対象にした1食分の献立を決定し、計画を立てる。 (2時間)</p> <p>□単元全体の学習を振り返る。 (1時間)</p>	<p>・学習指導案を参照。</p> <p>・私は、調理時間にこだわった「時短メニュー」を家で作ってみたいな。お姉ちゃんは塾で忙しいし、お母さんとお父さんも仕事や私たちの習い事の送り迎えもあるからね。短い時間で作って、みんなで楽しく食べる時間を長くしたいな。主食、主菜、副菜の献立にすると、栄養バランスがとれるよ。それなら、主菜は食材をたくさん入れた具入りのスクランブルエッグにして、主食はパン、副菜をわかび一あえにしようと思うよ。スクランブルエッグにベーコンやほうれん草を入れると栄養バランスがばっちりだね。この献立なら、主菜がいためもので早くできそうだよ。家で作って家族の人が喜んでくれるといいな。早速、今週土曜日の朝に家族に作ってみよう。</p> <p>・家族に1食分の献立を作って食べてもらったよ。家族から「栄養バランスがとれていて、おいしかったよ」と言ってもらえて嬉しかったよ。給食でも家庭でも献立作成で大切なことは、栄養バランスをとることと、食べてもらう相手に合わせた工夫をすることだったね。すると、楽しい食事時間になったよ。これからもよりよい食生活にしていきたいな。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第3学年外国語活動学習指導案

3年1組 指導者 中野光彦

1 単元 What do you like?

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

相手の好みを知る、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもとに、表現を工夫しながら友達やALTとコミュニケーションを図ることを通して、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことができる。

3 本単元の捉え

本学級の子どもたちは、前単元「I like blue.」の学習において、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもとに表現を工夫しながら自己紹介をしてきた。このような子どもたちが、相手の好みを知るという目的意識も加えて表現を工夫しながら、相手の好みを尋ねたり、自分の好みを伝えたりする学習に取り組む。複合的に目的意識をもってやり取りをすることは、より相手に伝わりやすい表現の自発的な構築のみならず、一方的な伝達ではない、双方のやり取りによる相互理解を生み、コミュニケーションの楽しさを実感できると考える。このことは、外国語活動において、言語材料が変わっても、目的や場面、状況等に応じて、相手との会話を広げながらよりよい表現を見いだす姿につながるであろう。

本単元は、友達やALTの好みを知るために、What～do you like?や I like～.を用いて、果物やスポーツなど様々なカテゴリーの中から何が好きかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しんでいく学習である。子どもたちは、ゲームや言語活動において、複数あるカテゴリーの中から、「相手の本当に好きなものを知りたい」「自分の本当に好きなものを伝えたい」という思いをもつであろう。その際、相手の好みを知る、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもとに、表現を工夫することを大切にしたい。そうすることで、より相手に伝わる表現を選択しながら、やり取りを繰り返し行うことができると考える。このことは、言語活動における目的や場面、状況等に応じてコミュニケーションを図りながら、相手に好みを尋ねたり、自分の好みを答えたりする表現に慣れ親しんでいく姿につながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 友達の好きな色を尋ねて、学級のオリジナルフラッグをつくる活動を設定する。そうすることで、相手の好みを知るという目的意識をもとにやり取りができるようになる。【発】
- 自他の好みを伝え合う際に工夫したことやその理由を振り返るよう促す。そうすることで、相手の好みを知る、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもって表現したことが、よりよいコミュニケーションにつながっていたことを実感できるようになる。【獲】
- マイランキングづくりを行う言語活動を設定する。そうすることで、自覚的に相手の好みを知る、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもとに表現を工夫しながら何が好きかを尋ねたり答えたりすることができるようになる。【活】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○What～do you like? や I like～.の表現に慣れ親しむことができる。	○相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするために、表現を工夫して伝えている。	○相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするために、表現を工夫しようとしている。

5 指導計画（全4時間）

第1次 何が好きかを尋ねる表現を知る（1時間）【本時1／1】

第2次 ゲームや言語活動を通して、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ（3時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 9:05~9:50 3年1組教室】

- (1) ねらい 学級のオリジナルフラッグをつくることを通して、相手の好みを知る、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもとにコミュニケーションを図り、何が好きかを尋ねる表現に慣れ親しむことができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「相手の好みを知る、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 Teacher's talk を聞く。 (10分) ・好きかどうかを尋ねる表現 ・相手の好みを知るという目的意識をもつこと	<ul style="list-style-type: none"> 中野先生が附属小の先生に好きな色を尋ねて旗をつくったのだって。 Do you like red?と尋ねてエカテリーナ先生が Yes, I do. と答えたから赤色を塗って完成したよ。 <u>私たちも学級の旗をつくるのだって。友達に好きな色を尋ねて、完成させたいな。</u> <p>3年1組のオリジナルフラッグをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> Aさんは青色が好きだと思うから、Do you like blue?と尋ねてみよう。 Aさんが Yes, I do. と答えてくれたよ。予想通りだったよ。 <p>A Cさんの好きな色を予想して、Do you like ~?と何回か尋ねたけれど、No, I don't. ばかりだったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色が多すぎて、予想が難しいね。 <p>B 前の学習で色クイズをしたときに What color? で何色か尋ねていたから、What color like? と尋ねると伝わりそうだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 答えるときは自分の好きな色を伝えるから I like ~. と言えばよいよ。 <p>A Cさんに尋ねてみよう。What color like? C I like purple.</p> <p>A 紫色が好きなのだね。やっと分かったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> これで3年1組のオリジナルフラッグができたぞ。 <p>友達の好きな色が分かったのはどうしてかな。</p>	○旗を完成させるために、ALTの好きな色を尋ねるやり取りを示す。そうすることで、相手の好みを知るという目的意識をもつことができるようになる。 【発】
2 旗をつくるために、インタビューをする。 (25分) ・好みを尋ねる表現 ・好みを伝える表現 ・相手の好みを知るという目的意識をもつこと ・自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもつこと	<ul style="list-style-type: none"> Aさんは青色が好きだと思うから、Do you like blue?と尋ねてみよう。 Aさんが Yes, I do. と答えてくれたよ。予想通りだったよ。 <p>A Cさんの好きな色を予想して、Do you like ~?と何回か尋ねたけれど、No, I don't. ばかりだったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色が多すぎて、予想が難しいね。 <p>B 前の学習で色クイズをしたときに What color? で何色か尋ねていたから、What color like? と尋ねると伝わりそうだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 答えるときは自分の好きな色を伝えるから I like ~. と言えばよいよ。 <p>A Cさんに尋ねてみよう。What color like? C I like purple.</p> <p>A 紫色が好きなのだね。やっと分かったよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> これで3年1組のオリジナルフラッグができたぞ。 	○インタビューをした際に困ったことを視点に話し合う場を設定する。そうすることで、相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするという目的意識をもとに表現を工夫することができるようになる。 【活】
3 本時の学習を振り返る。 (10分) ・相手の好みを知る、自分の好みを分かりやすく伝えるという目的意識をもつことのよさ	<ul style="list-style-type: none"> 友達が好きそうな色を予想して、Do you like ~? を使って尋ねたからだよ。 知っている表現を組み合わせたら、相手の好きな色を知ることができたね。 <p>B エカテリーナ先生が、What color do you like?だとより正確だと教えてくれたよ。</p> <p>A 何回か尋ねて分からないときには、What color do you like? と言うと、本当に好きな色を知ることができるね。</p>	○友達の好きな色が分かった理由を問う。そうすることで、相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするためには表現を工夫したことが、よりよいコミュニケーションにつながったことを実感できるようになる。 【獲】



第3学年外国語活動学習指導計画

3年1組 指導者 中野光彦

1 本単元までの学びの過程

単元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
Unit4 I like blue. (全4時間)	・自分の好きなものを伝えるときには、I like ~.を使うとよいね。より分かりやすく伝えるためには、ジェスチャーを付けたり、繰り返して英語を言ったりするとよいね。

2 本単元の学びの過程

		4時間	が本時
学習活動		子どもの思考の流れ	
第1次 何が好きかを尋ねる表現を知る。			1時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・What～do you like? や I like～. の表現に慣れ親しむこと（知） ・相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするために、表現を工夫して伝えること（思） 		
□学級のオリジナルフラッグをつくる。（本時）	・学習指導案を参照。		
第2次 ゲームや言語活動を通して、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。3時間			
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・What～do you like? や I like～. の表現に慣れ親しむこと（知） ・相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするために、表現を工夫して伝えること（思） ・相手の好みを知ったり、自分の好みを伝えたりするために、表現を工夫し伝えようとする（態） 		
□おはじきゲームや好きなもののインタビューをする。（1時間）	<p>・中野先生が教科書のラーメンのイラストを指しながら Do you like noodle?とエカテリーナ先生に尋ねているよ。エカテリーナ先生が No, I don't と答えたよ。好きではないのだね。今度は、Do you like hamburger?と尋ねたけれど、これも No だと言っているよ。今度は What food do you like?と尋ねているよ。エカテリーナ先生が、I like pizza. と答えたから、ピザが好きなことが分かったよ。色と同じように、好きな食べ物を知りたいときは、What food do you like?と尋ねたらよいね。他にもいろいろな果物やスポーツのイラストがあるね。イラストを使って、おはじきゲームをするのだって。イラストの上に置いた5つのおはじきから、エカテリーナ先生に何が好きかを尋ねて、答えたものがあつたらおはじきを取っていくのだね。早くおはじきがなくなつた人が勝ちなのだね。What food do you like? エカテリーナ先生は I like cake. と答えてくれたよ。やつた。おはじきが取れたぞ。次は好きなスポーツを尋ねるから What sports do you like?だね。I like volleyball. と答えてくれたよ。好きな果物を尋ねるときは、What fruit do you like? と言えばよいね。エカテリーナ先生は kiwi fruit が好きなのだつて。エカテリーナ先生の好きなものがいろいろ分かつたね。What～do you like?の～を尋ねたいものに変えれば、好きなものが分かるね。食べ物や果物、スポーツの言い方が分かつたね。日本語と言葉が似ている言葉や全然違う言葉があって面白いね。班の友達にも尋ねてみるのだって。What food do you like?と尋ねたら、I like spaghetti. と答えてくれたよ。What fruits do you like?と尋ねると I like grapes. と答えてくれたよ。やつた。班の友達の好きなものをいろいろ知ることができたし、英語で何が好きかを尋ねることができるようになってきたぞ。次はもっとたくさんの友達に好きなものを尋ねてみたいな。</p>		

<p>□ 3年1組好きな動物ランギングをつくる。 (1時間)</p> <p>□マイランギングをつくる。 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エカテリーナ先生が、動物のイラストを見せながらいろいろな動物の名前を英語で紹介してくれたよ。犬は dog、ライオンは lion、猪は wild boar と言うのだね。中野先生が、3年2組のみんなに Do you like ~? や What animal do you like? と尋ねてインタビューしている映像を見せてくれたよ。2組の好きな動物ランギングをつくったのだって。2組の友達のことがよく分かったね。僕たちもクラスの好きな動物ランギングをつくりたいな。もっとみんなの好きなものが知れそうだからね。1位は猫、2位は犬、3位はハムスターではないかな。よし、いろいろな友達に好きな動物を尋ねてみよう。What animal do you like? I like cats. What animal do you like? I like…うーん、象と言いたいけれどどう伝えるとよいのかな。先生が、何か困ったことがないか聞いていいよ。象は英語でなんと言えばよいのか困ったよ。象は elephant 言うのだって。鼻のジェスチャーを付けながら言うと、より伝わりやすいのか。たしかに、好きなものを伝えるときにジェスチャーを付けたり、繰り返し英語を言ったりするとよく伝わったよ。よし、ジェスチャーを付けながら I like elephants. と言ったら伝わったぞ。1組は、1位が犬、2位が猫、3位がゴリラと象だったよ。先生が、好きな動物ランギングがつくれたのはどうしてかと聞いているよ。友達の好きな動物を知るために、What animal do you like? を使って尋ねたり、友達がジェスチャーを使いながら工夫して答えてくれたりしたからだね。やっぱり What ~ do you like? と尋ねると、友達の本当に好きなものが知れて、お互いのことがよく分かるから嬉しいね。他の種類のランギングもつくれてみたいな。何を聞くか考えておこう。 ・今日は、マイランギングをつくるのだね。中野先生はみんなの好きな本を知りたいから好きな本ランギングをつくるのだって。最初に、I like The very hungry caterpillar. と言って、自分の好きな本を伝えた後に What book do you like? と言っているよ。そうすると自分のことも伝えることができるのか。まずは自分の好きなものを伝えてから聞いてみるとよいのだね。僕はみんなの好きなキャラクターが知りたいな。Aさんに I like Tanjiro. What character do you like? と尋ねると I like Luffy. と答えてくれたよ。Aさんの好きなキャラクターが分かったよ。Bさんに尋ねたら、Me too. I like Tanjiro. Nice. と言ってくれたよ。同じということが分かると嬉しいな。先生が困っていることがないかと聞いているよ。Cさんが、好きなお菓子を尋ねたいけれど What の後に何と言えばよいのか分からぬと言っているよ。「chocolate」「candy」などお菓子に関する単語を言えば伝わりそうだね。Cさんが友達に What do you like? chocolate, candy? と尋ねたら、I like jelly. と答えてくれたと言っているよ。関係する単語をいくつか言ったら伝わるね。僕も友達に伝わりやすいように I like Tanjiro. What character do you like? Luffy, Chiikawa, Pikachu? と尋ねてみよう。Dさんが分かりやすいと言ってくれたよ。みんなの好きなキャラクターは、1位がちいかわ、2位がピカチュウ、3位がドラえもんだったよ。今日もみんなの好きなものが分かったぞ。先生が、マイランギングがつくれたのはどうしてか聞いているよ。相手の好みを知るために、尋ねたいことを考えて、関係する言葉を使って表現を工夫したからだね。どんなことを伝えたいかを考えて工夫して表現すると、お互いのことがよく分かったね。
-----------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

外 国 語 科 学 習 指 導 案

1年B組 指導者 山信 和也

1 ねらい 人物の魅力を伝える

○話す内容や話し方を検討し改善することで、人物の魅力が伝わるスピーチをすることができる。

2 教 材 「人物紹介スピーチ～この人を知っていますか～」（Our Project 2）

3 学習のとらえ方

(1) スピーチをより良くするにあたり、話し方のみに課題意識が向いている生徒が多い。

人物紹介は小学校外国語でもよく行われる定番の活動である。生徒は本単元に至るまでに、代名詞や一般動詞の三人称単数現在形などを学習してきており、第三者について紹介できることが小学校時よりも大幅に広がっている。今年の7月には『あなたの知らない私』というテーマでスピーチ活動を実施した。単元の冒頭から「内容」と「話し方」の2つの視点を提示してスピーチの改善を促したが、振り返りの際には、圧倒的に話し方への言及が多かった。中には「聞き手に分かりやすい言葉選びができた」「もっと詳しく話したい」など内容面に触れる生徒もいたが、多くの生徒は話すスピードや声のボリュームなど、話し方に限定した成果や課題を述べるにとどまった。

(2) 人物紹介スピーチは、話す対象を強く意識したうえで、話す内容に着目しやすい教材である。

本単元では、『この人を知っていますか』というテーマで、お気に入りの人物や尊敬する人物など「ぜひ知ってほしい人」の魅力を紹介するスピーチを行う。単元末にはクラス全体に向けて発表をするが、ALTを最優先の聞き手とする。つまり、ALTの視点に立つ必要があり、強い相手意識が求められる。選んだ人物の魅力をどう捉えるかは人それぞれで、例えば人柄や特長、功績などが想定される。いずれにしても、その人物に関する具体的な事実やエピソードなどをALTに伝わるように説明する必要がある。複数の観点からより詳しい解説を加えたい一方で、1分という限られた発表時間を考慮して情報を取捨選択し、話す順序やスピーチ構成にも気を配らねばならない。このように、ALTに選んだ人物の魅力を伝えるために、必然的にスピーチの内容に焦点が当たりやすい教材である。

(3) 話す内容と話し方という2つの観点から、英語での発信力を高めようとする生徒を育てたい。

本単元を通して、話す内容と話し方のどちらの観点からもスピーチの改善を図り、伝える情報を吟味したうえで、英語でそれを生き生きと発信できる生徒を育成したい。そのため、以下の点に留意する。

- ・前回のスピーチ単元末に生徒自身が書いた振り返りを参考するところから本単元をスタートし、「話す内容と話し方という観点は自分たちで見出した課題である」という認識につなげる。また、第一次で、10月に学習した「具体的な情報」「複数の観点」「話す順序や構成」などの視点を再度共有する。
- ・本時は、「エヴァ先生（ALT）に『もっとその人のことを知りたい』と思わせるには」と問い合わせる、代表者の原稿をグループで吟味する機会とする。活発な議論が行われているグループを教師が見出して全体共有を図り、それをもとに意見の整理と集約を進め、最後は、各々の原稿に立ち返る時間を確保する。
- ・内容を検討する際にはALTを第一に念頭に置くが、言語面ではクラス全体の理解度も十分考慮する。
- ・次時以降は「内容がより伝わる話し方とは」という部分に焦点を当て、スピーチ練習の機会を設ける。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「導入・展開・まとめ」の構成に沿って、選んだ人物について複数の魅力を紹介できる。	○人物の魅力が伝わるように、スピーチの内容や話し方を工夫することができる。	○スピーチの作成や発表において、学んだことを活かして、意欲的に活動することができる。

5 授業計画（計7時間）

- (1) 前回のスピーチを振り返るとともに、伝えるための視点を共有したうえで原稿を作成する。…… 2時間
- (2) 伝えるための視点から代表者のスピーチを検討したうえで、各自の原稿を推敲する。…… 1時間（本時）
- (3) 前回の自身のスピーチ動画を確認したうえで、発表に向けてスピーチの練習をする。………… 1時間
- (4) 相互にスピーチを聞き合い、フィードバックをもとに各自で伝え方の改善を図る。………… 1時間
- (5) ALTを最優先の聞き手としつつ、クラス全体に対して人物紹介スピーチを行う。………… 2時間

6 本時の学習指導【令和7年11月27日(木) 13:00~13:50 1年B組教室】

(1) 主眼 代表者の英文原稿を推敲する活動を通して、スピーチの内容改善に関する有効な視点と実際の改善事例を学び、自身の原稿を推敲する際に活用することができる。

(2) 学びの過程

学習活動・学習内容	予想される生徒の反応	教師の働きかけ
<p>①各グループで前時に選出した代表者のスピーチ原稿を読み、良さを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人物の魅力を伝えるのに有効だと感じた部分は？」という視点 ・具体的な情報、複数の観点 ・話す順序や構成 <p>②選出理由を全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のスピーチの振り返りや、Steps 3で学習した視点をもとに原稿を読み進めるだろう。 <p>理由、例示、数値、ユニークさ、自身の思い、話の一貫性、問い合わせ、ディスコースマーカー</p>	<p>①机間指導をしながら、「どうしてそれが良いと感じるのか」と問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良さを言語化するよう伝える。 ・多くの視点を出しているグループを探し、意図的指名につなげる。 ・代表者の原稿を撮影し、写真をclassroomにアップする。 <p>②まずは意図的指名から始め、補足がある生徒には挙手を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップされた原稿を手元のiPadで確認するよう指示する。 ・やり取りをしながら、白板にポイントを整理し、価値付けを行う。 ・改善すべき点にも気付くだろうが、まずは良い点に焦点を当てる。
<p>This is Kubo Takefusa. He is a good soccer player. He plays soccer in Spain. His dribble is great. He scores many goals. Also, he can speak Spanish well. So he can communicate with his teammates well. I want to be a soccer player like him.</p> <p>○サッカーと言語という複数の視点。接続詞のおかげで構成がよく分かる ○スペイン語が話せることが、チーム内の連携に活きているのが分かる。</p>		

「その人のことをもっと知りたい」と思ってもらえる原稿にするには？

③グループごとに、選出した原稿の推敲に挑む。	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに良くすることに難しさを感じる生徒がいるだろう。 ・内容面よりも、文法的な部分に目が行く生徒がいるだろう。 ・1分間で収まる文量だろうか。 ・iPadで人物のことを調べたり、英語表現を確認したりしたい。 ・「エヴァ先生にとっての意外性や新たな認識に通じるものなどがよいのではないか」 ・大幅に変えようとする生徒がいるだろう。 ・少しの変更にとどまる生徒もいるだろう。 ・改善した部分はどのように受け止められるだろうか。 ・具体的なエピソードを1つ追加したから魅力が増したと思う。 ・形容詞を1つ変更しただけでも、印象が変わると言われた。 	<p>③聞き手(読み手)として興味を引いた部分や、さらに詳しく知りたいと感じた部分を共有させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容面に着目するよう声掛けする。 ・80~100語が目安として、「何をもとも伝えるべきか」と問う。 ・必要に応じてiPadの使用を認める。 <p>④変更や改善の意図を問い合わせし、生徒から左記の反応を引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな変更にも価値付けを行う。 <p>⑤吹き出しや矢印などを活用し、手軽な形で推敲するよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たとえ1語でも再検討して変更したことによる価値があると伝える。 <p>⑥変更の意図を言葉で説明するとともに、変更の効果をフィードバックするよう伝える。</p> <p>⑦振り返りを書いた生徒を指名して数名発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回から2時間かけて、話し方を改善するという見通しを伝える。
④指名されたグループの発表を聞き、アイディアを共有する。		
⑤発表を受けて、自身の原稿を推敲する。		
⑥ペアで変更点を伝え合う。		
⑦本時を振り返る。		
<p>内容を改善するのに有効だと感じたポイントは何か。</p>		

(3) 評価 全体で共有した話す内容を改善するのに効果的な視点を活用し、自身の原稿を推敲するとともに、推敲の際に考えたことなどをワークシートにまとめることができる。

第1学年道徳科學習指導案

1年1組 指導者 中川 穂

1 主題 しんせつから うまれる あたたかさ

2 本主題の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

2つの教材の人物の行動のよさについて親切という道徳的価値と関連付けながら話し合うことを通して、親切から生まれる自分と相手の心の気持ちよさが、互いの温かい関係につながることに気付き、相手のことを考えて親切にしようとする思いをもつことができる。

3 本主題の捉え

本学級の子どもたちは、これまで『はしのうえのおおかみ』で親切にすることが自分の心の気持ちよさにつながることを学んできた。そのような子どもたちが、再び親切、思いやりを内容項目とする教材を通して、親切から生まれる温かさについて話し合う。年間34時間の道徳科の学びでは、今回の親切のようにねらいとする道徳的価値が重なることが多い。そこで、道徳的価値の重なりを生かし、2つの教材の人物の行動の善し悪しについて、道徳的価値と関連付けながら話し合う学習に連続して取り組む。このことは、既にもっていた自分の道徳的価値を捉え直し、よりよい考え方へと深めようとする姿につながるであろう。

本主題で扱う『はなばあちゃんがわらった』は、大切に育ってきた花がなくなって悲しんでいるおばあさんに、まほ達が自分達にできることを考え、花の絵を贈るという話である。子どもたちは、誰かのために進んで行うまほ達の親切に温かさを感じるであろう。その上で、以前扱った『はしのうえのおおかみ』を想起させ、2つの教材の人物の行動のよさについて話し合う学習活動へ展開していく。その際、人物の行動のよさについて親切という道徳的価値と関連付けながら話し合うことを大切にしたい。そうすることで、自分がもっている親切についての考えが明確になるだけでなく、自分にはなかった考えに出会い、親切についての道徳的価値観を広げ、自ら相手のことを考えて親切にしようとする姿につながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 自分が親切だと感じるところを探しながら教材を読むよう促す。そうすることで、親切という道徳的価値と関連付けながら登場人物の行動のよさを見いだすことができるようする。【活】
- 2つの教材の人物の行動について、親切という道徳的価値と関連付けながら共通点や相違点を見付け、話し合う場を設定する。そうすることで、親切という道徳的価値の大切さについて自分なりの考えをもつことができるようする。【活】
- 新しく見いだすことができた親切のよさを問う。そうすることで、道徳的価値を関連付けることが、親切についての考え方の広がりや深まりにつながることを実感することができるようする。【獲】

4 本主題における評価の視点

多面的・多角的に考える姿	自己との関わりで考える姿
○親切にした側と親切を受けた側に立って、親切にすることのよさを考えている。	○親切にした側と親切を受けた側の温かい気持ちを、自分の経験やそのときの気持ちと重ねて考えている。

5 本時の学習指導 【令和7年11月27日 11:05~11:50 1年1組教室】

- (1) ねらい 2 本主題の目標に準ずる
- (2) 本時で働く見方・考え方 「親切という道徳的価値と関連付けること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけと めざす子どもの姿
1 本時の学びの見通しをもつ。 (5分) ・以前の学びとのつながり ・親切という道徳的価値と関連付けようすること	<ul style="list-style-type: none"> 今日の心の種は『はしのうえのおおかみ』でも考えた「親切にする」だよ。 そのお話では、自分の心が気持ちよくなるという親切のよいところを見付けたよね。 今回は『はなばあちゃんがわらった』という話から親切について考えるのだって。 <p>親切のよいところはもっとあるのかな。</p>	<p>○自分が親切だと感じるところを探しながら教材を読むよう促す。そうすることで、親切という道徳的価値と関連付けながら登場人物の行動のよさを見いだすことができるようになる。 【活】</p>
2 まほ達の親切について話し合う。 (20分) ・親切をした側と受けた側の温かい気持ち	<ul style="list-style-type: none"> はなばあちゃんのために、まほ達が花の絵を贈るという親切をしていたね。 <u>まほ達が親切したことではなばあちゃんは笑顔になって喜んでいるよ。</u> 絵は本物の花ではないけれど、絵にこめられた温かい気持ちがはなばあちゃんを笑顔に変えたのだろうな。 <p>B『はしのうえのおおかみ』でも、おおかみの親切でうさぎが笑顔に変わっていたね。</p> <p>A親切をした側も笑顔になっているところが同じだよ。やっぱり親切は、自分も相手の気持ちも温かくするすてきなものだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 違うところも見付けたよ。おおかみの親切はくまの真似で、まほ達は自分達で考えたオリジナルの親切だよ。 <p><u>A人のよいところを真似できるところも素敵だけれど、相手がどうすれば嬉しくなる今まで考えた親切は温かい気持ちがより伝わって、もっと仲良くなれそうだね。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> そういうえば、自分も友達に親切にして、もっと仲良くなれたことがあったな。 	<p>○2つの教材の人物の行動について、親切という道徳的価値と関連付けながら共通点や相違点を見付け、話し合う場を設定する。そうすることで、親切という道徳的価値の大切さについて自分なりの考えをもつことができるようになる。 【活】</p>
3 まほ達の親切とおおかみの親切を比較する。(10分) ・親切が自分と相手の気持ちを温かくすること ・親切がつくる温かい関係	<p>親切のどのようなよいところが見付かりましたか。</p> <p>B<u>親切にすると、相手ともっと心がつながるのだなと思ったよ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 誰かとつながれて、自分も相手も笑顔になれて、親切ってやっぱりよいものだね。 すてきな親切を友達や家族にもっとしていくとなってきたよ。 	<p>○新しく見いだすことができた親切のよさを問う。そうすることで、道徳的価値を関連付けることが、親切についての考えの広がりや深まりにつながることを実感することができるようになる。 【獲】</p>
4 本時の学びを振り返る。 (10分) ・親切という道徳的価値と関連付けることのよさ ・自分にとっての親切にすることのよさ		

第1学年道徳科学習指導計画

1年1組 指導者 中川 穂

本主題までの学びの過程

主 題	前主題までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
わがままを しないで 節度、節制	<ul style="list-style-type: none"> この前学習した『きをつけ』の話では、わがままをすると危ないことに巻き込まれてしまうと気が付いたね。『かぼちゃのつる』の話では、かぼちゃが自分のつるを伸ばして色々な人に迷惑をかけるだけでなく、最後はそのせいで自分のつるが切れて悲しい気持ちになっていたね。やっぱり <u>わがままをすると、みんなの迷惑になるだけではなく、自分にとっても気持ちよく過ごせないことにつながってしまうのだな。</u> わがままをしないで、気持ちよく毎日過ごしていこう。
わたしの いのち 生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> この前学習した『どきどきどっこんぐ』の話では、心臓のどきどきが誰かとつながる不思議さや、すごさを感じたね。『おたんじょうびカード』の話では、私たちが生きているだけで、周りの人は幸せなのだと感じたよ。<u>当たり前にある命がよりかけがえのない大切なものに見えてきたね。</u> これからも自分の命を大切に学習したり生活したりしたいと思ったよ。
みんなが つかうもの 規則の尊重	<ul style="list-style-type: none"> この前学習した『よりみち』の話では、帰り道のきまりを守ることができていなくて、先生やお母さんを悲しませていたね。『みんなのボール』の話では、ボールを使うきまりを守ることができていなくて、クラスのみんなを困らせていたよ。きまりを守ることができているのかどうかについて2つのお話の違うところや似ているところを探してみよう。きまりを守らないとクラスの友達も、お母さんや先生もみんなが困ることになるのだね。みんなと気持ちよく過ごしていくためには<u>自分のことだけではなく、みんなの気持ちも考えてきまりを守ることがやっぱり大切だと気付くことができたね。</u> これからは、身の回りにあるきまりを自分から守っていきたいな。

主 題	前主題までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
しんせつにすると 親切、思いやり	<ul style="list-style-type: none"> 『はしのうえのおおかみ』では、意地悪をして威張る気持ちと親切にしようとする気持ちの2つが出てきたね。<u>威張って気持ちがよいのは自分だけだけれど、親切にすると自分も相手も気持ちよくなるところが違う</u>と思ったよ。確かに私も友達に親切にしたら友達も笑顔になったから自分も嬉しくなったことがあったよ。相手の心を気持ちよくする親切を、いろいろな人にしていきたいな。

第6学年総合的な学習の時間学習指導案

6年2組 指導者 久保田 大貴

1 単元 探究！「FYS プロジェクト150」

2 本単元の目標（下線は本単元で子どもが発見・獲得・活用する見方・考え方）

創立150周年記念式典に係る様々な対象（人・もの・こと）と関わる中で、4つの過程を視点に学習過程を意味付けながら、探究的な学習の過程そのものを自覚し、自分なりの愛校心を見いだしたり、実現したい自己のこれからへの姿への見通しをもつたりすることができる。

3 本単元の捉え

子どもたちは、第5学年までの総合で、身近な地域や学校行事に係る探究課題を設定し、その時々ならではの特別な思いをもって学習してきた。実生活に根差した題材と特別な思いは探究の原動力となり、自ら課題を設定し、解決に向けた方途を探り続けるという探究的な学習を進める上での支えとなっていたであろう。第6学年では、本校が創立150周年を迎える節目の年であることへの特別な思いとともに「創立150周年記念に係る学習」を探究課題として設定した。前期には、保護者や地域の方も巻き込みながら自校への感謝や祝意を表す行事にしたいという学年全体の意志を明らかにし、後期の探究に向けた準備を進めてきた。このような子どもたちが、自分たちが進めている探究的な学習の過程そのものを教科の学び方として自覚しながら、行事を盛り上げるための方途や自分なりの愛校心を探求していく。このことは、所属する社会への誇りや連帯感を感じながら生きていこうとする態度や、あらゆる課題解決の場面において探究的な学習をいかそうとする姿につながるであろう。

本単元は、創立150周年記念式典の趣旨に鑑みた活動を自分たちで企画、運営、発信するための方途と、自校への誇りと繁栄を願う心（愛校心）の具体を探求する学習である。子どもたちは、式典に係る対象との関わりを振り返りながら、式典の趣旨に沿うように活動を計画していくであろう。その際、4つの過程を視点に学習過程を意味付けながら学ぶことを大切にしたい。そうすることで、課題解決に向けた方途を探り続ける中で、活動全体を俯瞰的に捉え、探究的な学習の過程を自覚することができるからである。このことは、活動の成果につながった過程と、自分なりの愛校心を見いだすことにつながった過程を意味付けたり、今後も、探究的な学習をいかして課題解決しようとする自己の姿を思案したりすることにつながるであろう。

そこで、以下のような働きかけを具体化し、本単元で目指す子どもの姿の実現を図る。

- 単元の初めに、第5学年までの総合の学習を探究的な学習の過程における4つの過程（以下「4つの過程」）を視点に振り返る活動を設定する。そうすることで、探究的な学習の過程そのものを自覚することができるようになる。【発】
- 単元の節目毎に、これまでの活動の達成度について振り返る場面を設定する。そうすることで、4つの過程を視点に学習過程を意味付けることができるようになる。【獲】
- 単元の終末には、愛校心を見いだすことができた過程や理由を話し合う活動を設定する。そうすることで、探究的な学習の過程をたどることが愛校心の形成に寄与していたことに気付くことができるようになる。【活】

4 本単元の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<ul style="list-style-type: none">○記念式典を支える組織と人々の思いや願いに気付き、自分なりの愛校心を見いだしている。○探究的な学習の進め方を理解している。	<ul style="list-style-type: none">○記念式典の開催に際し、自分たちで課題を設定したり、解決に向けた方途を探り続けたりしている。	<ul style="list-style-type: none">○イベント開催に向けた方途、自分なりの愛校心の探究を通して、実現したい自己のこれからへの姿について考えようとしている。

5 指導計画（全70時間）

- 第1次 5年生までの総合の学習内容を振り返り、探究課題を設定する（6時間）
- 第2次 創立150周年記念式典の趣旨や学習の位置付けについて話し合う（15時間）
- 第3次 記念式典と学習発表会の開催に向け、趣旨や開催方法について話し合う（25時間）
- 第4次 保護者やOBに向けた学習発表会「FYS150フェス」を開催する（6時間）
- 第5次 イベント開催を経て、自分なりの愛校心を見いだし、まとめる（12時間）【本時2／12】
- 第6次 単元全体の学習を振り返り、自己のこれからへの姿への見通しをもつ（6時間）

6 本時の学習指導 【令和7年11月27日 11:05~11:50 6年2組教室】

- (1) ねらい 創立150周年記念式典や学習発表会「FYS150フェス」の成果や過程を振り返る活動を通して、4つの過程を視点に学習過程を意味付け、探究的な学習の過程をたどることのよさに気付くことができるようとする。
- (2) 本時で働くさせる見方・考え方 「4つの過程を視点に学習過程を意味付けること」
- (3) 学びの過程 ※下線は教師の働きかけによって引き出したい子どもの反応

学習過程 学習活動・学習内容	子どもの思考の流れ 引き出したい子どもの反応	○教師の働きかけとめざす子どもの姿
1 「FYS150フェス」と記念式典の達成度を交流する。 (15分) ・各班のフェスと記念式典における活動内容とその達成度	<ul style="list-style-type: none"> 運営班はフェス全体の運営と式典の司会や裏方を務めて、達成度は95%にしたよ。 記念品班は150周年を記念して、全校に定期とキーホルダーの記念品を配ったよ。達成度は50%といったところだよ。 <p>A どの班も、熱心に活動していたと思うけれど、班毎に結構な差があるね。</p> <p>それぞれの班で、こんなにも達成度に差があるのはどうしてだろうか。</p>	<p>○フェスと記念式典を迎えるまでの各班の活動の達成度を比較する場面を設定する。そうすることで、班毎に成果の捉え方に違いがあることに気付き、学習の過程に目を向けることができるようとする。 【発】</p>
2 「FYS150フェス」と記念式典における成果や課題を振り返る。 (20分) ・各班の達成度の理由 ・4つの過程を視点に学習過程を意味付けること ・探究的な学習の過程を自覚すること	<ul style="list-style-type: none"> 運営班は、大枝さんとも協力して司会の準備をしてきたことも踏まえて考えたよ。 司会では子どもらしさを大切にしてほしいと仰っておられたことを取り入れたね。 大枝さんの思いを知れたことは、よい情報収集をすることができたといえそうだよ。 <p>C 整理・分析の視点で見ると、原稿を見直し、楽しい雰囲気になるように練習をしたから上手くいったのだと思うよ。</p> <p>A だから、運営班は95%が高いのだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 記念品班は、記念品を何にするかやどのようなデザインにするかの話し合いが何度も行き詰まってしまったよね。 4つの過程で見ると、班の課題設定と共有が不十分だったと思ったよ。 <p>A だから記念品班は50%にしたのだね。</p> <p>どうして、それぞれの班の達成度の理由がはっきりとしてきたのかな。</p>	<p>○これまでの学習活動の成果や課題を意味付ける発言があった際、探究的な学習の過程との関連を問う。そうすることで、4つの過程を視点に各班の学習過程を意味付けることができるようとする。 【活】</p>
3 本時の学習を振り返る。 (10分) ・探究的な学習の過程をたどることのよさ	<p>A これまでの活動を振り返り、4つの過程の中で上手くいったことや不十分だったところが見えてきたからだよ。</p> <p>B 不十分だったところが改善されると、達成度もさらに上がっていくと思うよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> そして、4つの過程全てが上手く進むとさらにやりがいのある学習になるはずだね。 	<p>○探究的な学習の過程が充実することのよさを問う。そうすることで、探究的な学習の過程をたどって課題解決することのよさに改めて気付くことができるようとする。 【獲】</p>

第6学年総合的な学習の時間学習指導計画

6年2組 指導者 久保田大貴

1 本単元までの学びの過程

単元	前単元までの見方・考え方を働かせてきた子どもの思考
【第5学年】 やまぐち学園プロジェクト (30時間) 「実生活や実社会に根差した問題意識から「課題」を見いだし、探究課題として設定し解決する学習」	<p>・5年生では山口大学で音楽発表会をするよ。大学の先生や学生さんとのつながりをもてるのは附属山口小学校の強みだね。大学の先生や学生の皆さん、来てくれる保護者の方、そして私たちの誰もが楽しく心地よい時間となるような発表会にしたいよ。どのように、準備を進めるとよいのかな。発表に向けて、大学の高橋先生が合唱のコツを教えてくれたよ。曲目の順序や間奏のときのセリフは皆で考えよう。当日の発表会は大盛況だったよ。大学の講義にも参加して学生の皆さんから色々なことを教えてもらったね。学生の皆さんたちはとても楽しそうに学んでいて素敵だったな。<u>来てくださる全ての方に楽しんでもらうために、大学の先生をはじめ、様々な人と協力しながら準備を進めてきて、本番を迎えることができたよ。</u>自分たちの発表のよい所は伸ばして、不十分なところは何度も練習をして改善を重ねたね。本番ではすごくよい表情をしていたと教頭先生や大学の先生方から褒めてもらえて嬉しかったね。小学生と同じ目線で話をしてくれる学生の皆さんの人柄や学び方もとても素敵だったよ。私も10年後には、そんな大人になりたいな。</p>

2 本単元の学びの過程

70時間 が本時

学習活動	子どもの思考の流れ
第1次 5年生までの総合の学習を振り返り、探究課題を設定する。	6時間
学習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の進め方とその過程（知） ・これまでの学習を振り返り、4つの過程を視点に学習過程を意味付けて捉えること（思） ・実生活の中からふさわしい探究課題を見いだすこと（思） ・探究課題の解決に向けた意欲（態） 	
<input type="checkbox"/> これまでの総合の学習の進め方や学習内容について話し合う。 (3時間)	<p>・4年生の「ひとつなぎプロジェクト」では、誰もが心地よく過ごせるように私たちができることを考えたよ。皆で応募したUDコンテストでは、Aさんの案が最優秀賞に選ばれたよ。私たちの取組が多くの人々に知ってもらえたのは嬉しかったな。5年生では大学での音楽発表会や幼稚園の子に向けた小学校ツアーを開催したよ。学生さんに褒めてもらったり、園児の皆さんのが楽しかったと言ってくれたりしてやりがいを感じたね。総合の学習の流れを探究的な学習といって「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つの流れがあるのだって。これまでの学習にも4つの流れがあったかと聞かれたよ。5年生で、音楽発表会に向けて皆で合唱したい曲のアンケートをしたり、山口大学の高橋先生を招いて合唱のコツを教えてもらったりしたことは「情報の収集」だといえると思うよ。Bさんが、音楽発表会や小学校ツアーの本番は、「まとめ・表現」にあたる活動だと言っているよ。準備してきた成果を披露するからだね。総合の学習は、探究的な学習をしながら学んでいくということが分かったよ。</p> <p>・今年はどのようなプロジェクトがふさわしいかと聞かれたよ。私は、創立150周年記念に関するプロジェクトがよいと思うな。だって、今年の6年生だからこそ、こだわりをもって取り組むことができるからね。全</p>

<p>プロジェクトの立ち上げに向けた意欲をもつ。 (2時間)</p>	<p>校の皆の思い出に残るプロジェクトにしたいな。CさんがSDGsに関する内容も入れてはどうかだって。確かに、世界的な課題に向き合うこともやりがいがあるね。それなら、創立150周年記念に関わる内容の中で、SDGsをテーマに班を立ち上げてはどうかな。環境に関する話題を取り上げて活動するなどがよいね。班に分かれて活動するとよさそうだね。早速プロジェクトの具体を次の時間から話し合うよ。よし「FYSプロジェクト150」の始まりだ。でも創立150周年記念式典ってそもそも何をする式典なのかな。</p>
<p>第2次 創立150周年記念式典の趣旨や学習の位置付けについて話し合う。</p>	<p>15時間</p>
<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立150周年を迎える自校への思い（知） ・創立150周年記念式典の趣旨と学習の位置付け（知） ・自校の歴史や創立150周年記念式典に係る事柄について情報を集めること（思） ・4つの過程を視点に学習過程を意味付けること（思） ・創立150周年を記念して自分たちにできることを考えること（態） 	
<p>□創立150周年記念式典の趣旨について話し合う。 (5時間)</p>	<p>・そもそも創立150周年記念式典とはどのような式典なのかな。坪井先生が前の小学校で経験した際にも式典とイベントがあったのだって。全校で風船を飛ばすなどのイベントを行ったそうだよ。インターネットで調べてみると、県外の小学校で、お祝いのために学校の飾り付けを全校で行ったところもあるみたいだよ。給食の献立を、150周年を記念するものにして食事会をしたり、その学校の歴史を6年生が紹介したりするイベントをする学校もあったのだって。きっと、瓦屋先生も創立150周年記念式典に向けて、何か考えていると思うな。数年前に色々な小学校で行われたときのことを調べてみると、どうやら卒業式のような式典や子どもたちによるイベントが行われていたようだね。でも、式典やイベントは何のために行われていたのかな。式典は卒業式のように、主役に対するお祝いや感謝の気持ちを表すものだと思うよ。今回の場合、主役は附属山口小学校ということになるね。Aさんが、イベントは、素敵な学校だということを広く知ってもらうために行われているのではないかと考えたそうだよ。確かに、私たちが感謝の気持ちを表したり、歴史や文化を紹介したりすることで、附属山口小学校のことを素敵なお学校だと思ってもらえそうだね。そのためには、明るく楽しい雰囲気でイベントを進めた方がよさそうだね。創立150周年記念式典が学校に対するお祝いや感謝の気持ちを表したり、歴史や文化を知ってもらったりするものだということが見えてきたぞ。そのために、まず、私たちにできることは何だろう。</p>
<p>□創立150周年記念式典と附属山口小学校の歴史や文化について調査する。 (6時間)</p>	<p>・Bさんが、お祝いや感謝の気持ちを表すためには、まずは私たちが附属山口小学校のことをもっとよく知らないといけないと言っているよ。Cさんが、附属山口小学校の中に、創立〇〇周年を記念して作られた物や、さらに以前から残されている石碑などを見たことがあると言っているよ。私も見たことがあるけれど、何が書かれているのかや、なぜ設置されたかなどは知らないな。まずは私たちが附属山口小学校のことをもっとよく知ることが大切だね。学校のことについて、色々と調べてみたいよ。Aさんが、校長室にたくさんの過去の卒業アルバムが並べられているのを見たことがあると言っているよ。校長室に行けば、何か学校の秘密が分かりそうだよ。校長先生にも調査の協力をお願いしてみよう。そういうえば、音楽の授業のときに、教頭先生が創立150周年式典の当日に</p>

	<p>は、私たちで音楽発表をすると言っていたよ。教頭先生にも、もっと詳しく今年の創立 150 周年記念式典の内容について聞いてみた方がよさそうだね。早速、附属山口小学校のことについて知るための調査を始めよう。私は、教頭先生にインタビューをしたよ。やはり、音楽発表会をするのは本当なのだって。低学年、中学年、高学年に分かれて合唱や合奏の発表をするそうだよ。高学年では実行委員会を立ち上げるのだって。曲の演出やセリフを自分たちで決めてみたいな。高学年の力の見せどころだね。附属山口小学校の高学年は素敵だなと思ってもらえるように頑張りたいと思ったよ。調査をしてみて、皆も学校の歴史や文化、式典の内容についての新たな発見があったみたいだよ。どのような情報が手に入ったのか聞いてみたいな。</p> <p>・今日は、皆がどのような情報を手に入れたのかを交流するよ。Cさんは、校長先生から資料を見せてもらって、学校の歴史や文化について調べてみたのって。水辺の生き物が生息している「ビオトープ」とその周辺の「理科庭園」は、創立 100 周年記念のときに作られたものらしいよ。植物や生き物についての学習が充実するように当時の人々で話し合って決めたそうだよ。Bさんは多目的ルームの前の「伊藤博文」の名前が刻まれた「光被」と書かれた石碑を見付けたけれど、初代内閣総理大臣も附属山口小学校に関わっていたのだね。調査を通して、創立 150 周年記念式典で行われることと学校の歴史や文化が少しずつ見えてきたよ。</p> <p>・どうして式典の内容と歴史や文化のことが見えてきたのかだって。校長先生や教頭先生にインタビューをしたり、インターネットの情報や学校にある資料を見たりして、正確な情報が見付かったからだね。探究的な学習の流れとしては、どこにあたるのかと聞かれたよ。多くの方法で調査をしたことは「情報の収集」そのものだと思うよ。また、新しい情報が見付かったときには、皆に共有して本当かどうかを話し合って確かめたね。皆で見極めていったことは「整理・分析」だと思うよ。学校のことについて調査する学習の中にも、探究的な学習につながっているところがあったのだね。よし、今度こそ、私たちのプロジェクトでお祝いと感謝、歴史や文化を伝えていくための活動を考えていこうぞ。</p>
□創立 150 周年記念式典と附属山口小学校の歴史や文化を調査したことについて交流する。 (2 時間)	
□どのように学習を進めてきたのかを視点にこれまでの学習の成果や過程を振り返る。 (2 時間)	

第3次 記念式典と学習発表会の開催に向け、趣旨や開催方法について話し合う。 25 時間

学習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・創立 150 周年記念式典に携わっているOBや組織の方の思いに気付くこと（知） ・学習発表会「F Y S 150 フェス」の趣旨や開催方法（知） ・「F Y S 150 フェス」の趣旨に沿って、班の活動を計画すること（思） ・4つの過程を視点に学習過程を意味付けること（思） ・式典やフェスの趣旨に沿うように自分たちなりの活動を計画し実行しようとすること（態） 	
□イベントの趣旨や開催方法について話し合う。 (5 時間)	<p>・今日から私たちがプロジェクトで行う活動を考えるよ。附属山口小学校へのお祝いや感謝の気持ちを伝えたり、学校の歴史や文化を知ってもらったりするためには、どのような活動がふさわしいかな。当日の 11 月 15 日（土）は午前中が参観日で午後からは市民会館に移動して全校で式典に参加するという日程なのって。そういえば、以前プロジェクトの立ち上げのときに、「SDGs」をテーマにした班を作りたいという考えがあったね。他にはどのような班があるとよいのかな。Aさんが附属山口小学校の歴史や文化を伝える班が必要だと言っているよ。確かに、歴史や文化を広く知ってもらうことの大切さは前に皆で話し合ったものね。よし、「歴史」班を作ろう。私は式典の手伝いがしたいと思つ</p>

<p>□イベントの開催に向けて班で準備をする①。 (10時間)</p>	<p>たよ。5年生のときに6年生を送る会の運営をしたから、司会や裏方で式典の運営に携わりたいな。先生が、式典の児童発表での司会や裏方は、6年生に任せてもらえないかお願いしてみてくれるのだって。「運営」班もあるとよいね。Dさんは、全校の皆に6年生からの記念品を届けることを提案しているよ。記念品となるとお金もかかるね。お金のことでも踏まえて内容を決めていくのもやりがいがありそうだぞ。「記念品」班も立ち上げるよ。話し合いの結果、他にも「給食」「広報」の2つを加えて全部で6つの班ができたよ。当日の午前中の参観日では、それぞれの班が活動してきたことを、紹介する学習発表会を開くことにしてはどうかな。運営班に、その発表会の運営や司会を任せてもらいたいな。やったね、皆も賛成してくれたよ。それでは、班ごとにさらに具体的な活動と発表会の内容を決めて準備を進めよう。</p> <p>・班の皆で話し合った結果、私たち運営班は午前の参観日と午後の式典とで役割をさらに分担することにしたよ。参観日で行う学習発表会は「F Y S 150 フェス」と題して、各班が創立150周年記念に関わる活動を発表するときの全体運営をとりまとめるよ。また、私たち運営班自体の発表では、私たちが低学年や中学年の音楽発表会の練習などを取材した様子や、6年生がこのプロジェクトにどのような気持ちで取り組んでいるのかを紹介することになったよ。6年生はもちろん、全校の皆が創立150周年という特別な年に対するお祝いや感謝の気持ちを表すために、心を一つにして取り組んでいるということを感じてほしいからだよ。</p> <p>「SDGs」班は、これまで自分たちが学習で活用したことや、創立100周年のときから受け継がれていることへの感謝の気持ちを表すために、ビオトープと理科庭園の清掃を行うのだね。ゴミをとったり、周囲の草抜きをしたりするそうだよ。中にいる生き物を傷つけないように気を付けないとね。「歴史」班は、パネルやタブレットで作ったスライドショーと動画を使って学校の歴史について紹介するそうだよ。校長先生からいただいた資料をもとに、インターネットだけでは分からぬ情報を載せるのだって。「給食」班は、瓦屋先生と協力して、創立150周年を記念したメニューを考えたり、全校の皆からのアンケートをもとに人気の献立を給食で提供したりするのだね。やっぱり、瓦屋先生は創立150周年の記念と給食を関連付けた取組を考えていたのだね。「記念品」班は、全校の皆や6年生全員に対して創立150周年を記念した記念品を配るそうだよ。Tシャツや定規、キーホルダー、缶バッジなどの案が出ていて、これから絞っていくみたいだよ。でも、班内で上手く考えがまとまらないみたいだね。「広報」班は、事務の藤田さんからの依頼を受けて、全校の皆に配る子ども用のパンフレットを作るそうだよ。その他にも、来賓の方への招待状を6年生が用意したり、地域のお店に掲示してもらうポスターも作ったりするのだね。招待状とポスターは、私たちが6年間でお世話になった先生方にも送りたいのだって。「F Y S プロジェクト150」の組織と活動内容がこれではつきりとしてきたね。私は、運営班の中でも、午後からの式典の司会と裏方を担当する方の役割になったよ。でも、市民会館での式典のイメージがあまり思い浮かばないよ。式典の進め方や音楽発表の流れはどうなっているのだろう。先生が、創立150周年記念式典には大人たちで作る実行委員会があると教えてくれたよ。校長先生や教頭先生、PTAの方などを中心に20人ほどのメン</p>
-----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>□実行委員会の末永さんと大枝さんから話を聞く。(3時間)</p>	<p>バーで作られた組織なのって。その中で、末永さんという方が実行委員長として式典で挨拶をされるそうだよ。それに、大枝さんという方が司会進行をされるのって。一度話を聞いてみたいな。実際に当日の運営のことがよく分かっている方に話を聞いた方が、私たちもイメージしやすいからね。早速、先生にお願いしてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は、実行委員長の末永さんと司会の大枝さんが来てくれたよ。末永さん自身もご家族も皆、附属山口小学校の出身で、お世話になった附属山口小学校には感謝の気持ちでいっぱいなのって。家族でずっと附属山口小学校に関わり続けてくださっているなんて嬉しいな。大枝さんは、お子様が附属山口小学校の卒業生で、式典では、参加者全員で昭和、平成、令和の歴史を感じられるような式にしたいのって。私たちの音楽発表会は、大人やA I が考えたような畏まった雰囲気ではなく、子どもらしい温かい雰囲気で進めてほしいとアドバイスをしてくれたよ。司会の原稿例も用意してくださっていて、式典の流れについてイメージが湧いてきたよ。末永さんも大枝さんも、附属山口小学校への感謝の気持ちをもっていたり、これまで受け継いできた歴史を大切にしたいという気持ちをもったりしていることがよく分かったね。私たちがプロジェクトを通してお祝いや感謝の気持ちを伝えたり、歴史や文化を広めたりしようとしている気持ちと同じだよ。今日、充分に打合せができなかった部分もまだ残っているから、準備を進めていく途中で大枝さんと運営班でもう一度打合せをしたいな。
<p>□イベントの開催に向けて班で準備をする②。(10時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> さて、夏休みが終わってから各班で活動を進めてきたけど、運営班も当日に向けてかなり具体的な活動が決まってきたよ。まず、午前中の参観授業「F Y S 150 フェス」では、体育館を6つのブースに分けて学習発表をするよ。参観される方は、6つのブースを自由に回りながら、それぞれの班のこれまでの取組について知ることができるよ。フェス全体の司会は運営班の中の午前中担当の皆で行うことにしてたよ。司会以外の午前中担当の人たちで、私たち運営班自体の発表内容を考えたのって。今のところ、6年生全員がこのプロジェクトにどのような気持ちで取り組んできたのかや、運営班と大枝さんが打合せをしながら進めてきたこと、低・中・高学年の皆が音楽発表会について取材したことを「F Y S ドキュメント 150」と題して紹介する予定なのって。本番だけでなく、それまでに何度も練習を重ねてきた様子や、各学年が大切にしてきた思いを紹介する裏側特集だよ。取材には各学年との交渉が必要になるから、早速動き出さないといけないね。私は午後担当だから、式典の司会や裏方の動きについて考えていくのだけれど、先生に、もう一度大枝さんとの打合せが必要かと聞かれたよ。司会の原稿を見ていただきたいし、他にも聞きたいこともあるから、もう一度来ていただきたいな。やつたね。来週、もう一度大枝さんが来てくださることになったよ。聞きたいことをリストアップしておこう。Bさんが、式次第にある「学園の歌と新学園の歌の合唱」のときの、「末永さんのお母様との対談」とはどういうことをするのかがよく分からないと言っているよ。そういえば、この間の末永さんのお話の中で、「学園の歌」は末永さんのお母様が作詞をされたというお話があったね。だから式次第の中に対談が組み込まれているのではないかかな。対談の部分はどのように進めるべきかについても大枝さんと確認しておこう。今日はもう一度大枝さんが来てく

	<p>れたよ。司会の原稿は、子どもらしい言葉で温かい雰囲気になりそうだと言つてもらえたよ。音楽発表のときの、学年間のつなぎの部分にユーモアも入れながら工夫できるとよいのではないかと言つてもらったよ。もう少し工夫できそうだから、早速見直してみよう。次は末永さんのお母様との対談について、どのように進めたらよいか聞いてみるよ。どのような経緯で学園の歌を作ることになったのかということや、どうして作詞者に指名されたのかを聞いてみたいと思っているのだけど、どうかな。それに加えて、どのような思いを込めて歌詞を決めていったのかも聞いたらよいと言われたよ。よし、この3つを尋ねることにしよう。大枝さんに協力してもらって、来週、末永さんのお母様と打合せをすることになったよ。どのような質問をするかを予め伝えておくと、末永さんのお母様も、対談のときの受け答えを前もって考えておくことができるね。式典の進め方で分からなかったことも今日の打合せでかなりはつきりとしてきたよ。運営班は、全校が心を一つにして長い時間をかけて音楽発表の準備をしてきたことや、大枝さんと打合せをしながら原稿や動きを何度も見直してきたことを来てくれる人にも知つてもらいたいよ。準備はほとんどできたね。「F Y S 150 フェス」と式典まであともう少しだよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようにして、ここまで準備を進めてきたのかを振り返るのだって。まず6つの班を立ち上げたよ。次に班毎の活動を決めながら、途中で末永さんと大枝さんにも来てもらったよ。2人がどのような思いで関わっているのかを知ることができたね。特に運営班は、大枝さんからのアドバイスをもとにして、活動を見直してきたよ。探究的な学習の流れはどう当てはまるかを聞かれたよ。班毎に活動内容を決めたことは「課題の設定」といえるのではないか。そして、準備を進めてきたことは「F Y S 150 フェス」という「まとめ・表現」のために活動してきたともいえるよ。長い準備期間の中にも、やっぱり総合では探究的な学習をしていたのだね。来週はいよいよ「まとめ・表現」の「F Y S 150 フェス」と記念式典だよ。
第4次 保護者やOBに向けた学習発表会「F Y S 150 フェス」を開催する。	6時間
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・創立 150 周年に係る自分たちなりの学習の成果（知） ・探究的な学習のよさ（知） ・4つの過程を視点に学習過程を意味付けること（思） ・「F Y S 150 フェス」の開催を通して、自分たちなりの成果を発信しようとする意欲（態）
<p>□学習発表会「F Y S 150 フェス」を開催したり、式典の運営に携わったりする。（6時間）</p>	<p>・今日はいよいよ「F Y S 150 フェス」と創立 150 周年記念式典が開催される日だよ。早速、6 年生の保護者の方やOB の方が見に来てくれたよ。私たちは創立 150 周年という特別な年の 6 年生として、附属山口小学校へのお祝いの気持ちや感謝の気持ち伝えたり、150 年間の歴史や文化について多くの人たちに知つてもらったりするためにこのプロジェクトを始めたよ。運営班は、全校の皆が今日の式典での音楽発表会に向けて準備を進めている裏側を「F Y S ドキュメント 150」として紹介するよ。3・4 年生は「エーデルワイス」のリコーダー合奏と、「ドレミの歌」の英語バージョンの合唱を披露するのだって。創立 150 周年という特別な年に 3・4 年生のパワーで、多くの人を感動させようという意気込みで頑張ってきたそうだよ。3 年生からリコーダーの学習や外国語の学習が始まったことにちなんで、この 2 つの曲目を選んだのだって。中</p>

野先生にインタビューをしてみると「ドレミの歌のリズムにのった、子どもたちの元気でパワフルな歌声と、滑らかな英語の発音を、来てくれる人たちに楽しんでほしい」と仰っていたよ。また、3年生の男の子は「僕はリコーダーの指遣いが苦手で、タンギングも気を付けるのは大変だったけれど、ようやくできるようになってきたよ。」と言っていたよ。一生懸命練習しても、まだまだ不安な気持ちがある人もいるみたいだね。応援する気持ちで3・4年生の発表を聞いてあげるとよさそうだね。他の班の発表は上手くいったのかな。歴史班のAさんたちが、来てくれた人に「初めて知ることばかりで驚いた」「附属山口小学校がこんなにも歴史が深い学校だったとは思わなかった」と言ってもらえて喜んでいたよ。午後からはいよいよ私たち運営班が携わる式典だよ。緊張するな。低・中・高学年が楽しく音楽発表できるような雰囲気づくりを大切にして頑張るよ。やったあ。発表のときには、観客全員が手拍子をして盛り上げてくれたよ。中には、涙を流して私たちの発表を聞いてくれている保護者やO Bの方もいたね。お祝いと感謝の気持ちが伝わったのではないか。途中、言葉に詰まってしまったこと也有ったけれど、司会の大枝さんとのかけ合いやバトンタッチも上手くいったよ。来てくれた人たちも、大満足の1日だったのではないかな。フェスも式典も大成功だったと思うよ。

第5次 イベント開催を経て、自分なりの愛校心を見いだし、まとめる。

12時間

学習内容

- ・自分なりの愛校心と、自他の愛校心の違いへの気付き（知）
- ・愛校心を伝えるための表現方法を選択し、まとめること（思）
- ・愛校心について、多面的・多角的に捉えたり自己のこれから姿と関連付けて考えたりすること（思）
- ・4つの過程を視点に学習過程を意味付けること（思）
- ・自分なりの愛校心を見いだしたり、更新したりしようとしてすること（態）

□創立150周年記念式典や「F Y S 150 フェス」の成果や過程を振り返る①。（1時間）

・先週、家に帰ったらフェスも音楽発表もとても楽しかったと褒めてもらえたよ。フェスでは、運営班が各学年の練習の裏側を取材していたのがよかったです。Bさんも家で大好評だったそうだよ。当日を終えてみての班の達成度を聞かれたよ。運営班の達成度は95%かな。他の班の達成度はどうなったのかな。

・学習指導案を参照。

□創立150周年記念式典や「F Y S 150 フェス」の成果や過程を振り返る②。（本時）（1時間）

・創立150周年記念に関わる活動をしてみて、附属山口小学校がこれからどのような学校であってほしいかと聞かれたよ。私は、「卒業生も在校生も保護者も誰もが大好きになる学校」であってほしいな。式典のときの世代を越えた一体感がとても素敵だったからだよ。Bさんの「誰もが誇りに思える学校」というのも似ている気がするな。Aさんは、「歴史や文化を受け継いでいく学校」だよ。歴史について調べる中で、多くの有名人が学校に関わり、地域や日本に貢献する生き方をしていて感心したのだよ。学校への誇りをもち、これからも○○な学校であってほしいと願う心を愛校心というのだね。皆の愛校心には、学校への誇りや歴史や文化を受け継いでほしいという気持ちを感じたよ。1組の皆とも愛校心を紹介し合ってみたいな。

□これまでの活動を想起し、自分がどのような愛校心をもつようになったかを交流する。（2時間）

<p>□見いだしてきた愛校心を、自分なりの表現方法でまとめる。</p>	<p>(4時間)</p>	<p>・私たちなりに考えてきた愛校心を学年全体や末永さんや大枝さんを始めとした実行委員会の方に向けて紹介するのって。私はプレゼンテーションにまとめて紹介しようと思うよ。でも、学年の友達と実行委員会の方に紹介するときでは扱う内容を少し変えるつもりだよ。例えば、友達と紹介し合うときは、7月から12月までの全体の活動の流れと様子が分かるように、行った順に活動を整理して紹介するよ。6つの班が分かれて進めていたから、お互いの活動の過程は分からぬからね。実行委員会の方に紹介するときは、大枝さんとの打合せや各学年への取材の記録などの細かな取組に焦点を当てて紹介するよ。実行委員会の方は、大枝さんのこともよく知っているからね。こんなに細かく打合せをしていたのかと驚いてもらいたいな。Aさんは、豆知識レベルの細かい歴史もインターネットで紹介されているような歴史も、全てを1枚の紙にまとめた歴史イメージマップを作つて紹介するのって。Aさんの愛校心につながるような今までの歴史のつながりや広がりが一目見て分かるからよいね。Cさんは、創立100周年を記念して作られたビオトープの清掃活動を、スライドショーにして紹介するそうだよ。2~3か月をかけて少しづつ綺麗にしてきたことを、記録写真と併せて紹介するのって。ビオトープという文化を受け継いでいくという、Cさんの愛校心が伝わるスライドショーになるといいね。自分にとっては1つの愛校心だけど、相手に合わせた紹介の仕方を考えることができたよ。1組の皆は、どのような愛校心をもっているのかな。</p>
<p>□自分なりの愛校心を、学年で紹介し合ったり、実行委員会の方に向けて発信したりする。</p>	<p>(2時間)</p>	<p>・今日は1組の皆や実行委員会の方に自分なりの愛校心を紹介するよ。私は「卒業生も在校生も保護者も誰もが大好きになる学校」であつてほしいと願う心を紹介するよ。大枝さんとの打合せや各学年への取材、司会練習を繰り返しながら、参加者が楽しめるように準備をしてきたからね。実行委員会の方には、大枝さんとの打合せの様子を紹介すると、大枝さんも私たちも大好きな附属山口小学校のことを思つて司会の準備をしていたことが伝わったと言つてもらえたよ。Bさんは、各学年への取材から「誰もが誇りに思える学校」であつてほしいと願う心を紹介していたよ。附属山口小学校の一員であるというプライドをもつて練習に取り組む姿から、「誇り」という言葉を用いていたのだね。一人一人が紹介の仕方を工夫していて面白かったと褒めてもらえたよ。</p>
<p>□再度、自分がどのような愛校心をもつようになったかを交流する。</p>	<p>(1時間)</p>	<p>・1組とも紹介し合う中で、皆の愛校心に触れることができたよ。私はやっぱり「誰もが大好きになる学校」であつてほしいと強く願うのだけれど、Bさんの取材の体験から、学校の一員として「誇りに思える学校」を常に願う心も素敵だと思ったよ。Bさんの愛校心に触れて、誇りに思うことは学校を大好きになるということでもあるということだと考えたよ。</p>
<p>□自分なりの愛校心を見いだすことができた過程を振り返る。</p>	<p>(1時間)</p>	<p>・どのようにして愛校心を見付けてきたのかだつて。まず附属山口小学校がどのような学校であつてほしいかという「課題の設定」をして交流したね。すると、誇りをもつことや歴史や文化を受け継ぐことが大切だと考える人が多いと分かったね。これは「情報の収集」と「整理・分析」かな。そして、自分なりの愛校心をまとめて紹介し合つたことは「まとめ・表現」にあたると思うよ。新たに愛校心を見付けるときにも、やっぱり私たちは探究的な学習をしていたのだね。</p>

学習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習がイベントの開催やプロジェクトの遂行につながったことへの気付き（知） ・愛校心をもとにした、実現したい自己のこれから姿についての見通し（知） ・自己のこれから姿について、自分なりの愛校心と関連付けて考えること（思） ・愛校心と関連付けながら、実現したい自己のこれから姿を考えようすること（態） 	
□ 「F Y Sプロジェクト150」全体の成果や過程を振り返る。 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト全体の達成度は何%といえるかと聞かれたよ。私は、フェスや式典の開催に向けて運営班として準備をしたよ。達成度は100%だよ。途中上手くいかなかつたことがあっても、友達や先生、大枝さんと協力しながら進められたからね。学習発表会や式典の準備を進める中には、探究的な学習の流れがあったこともよく分かったよ。中学校でも、何か大きなテーマに向かって学ぶときには、探究的な学習が充実するように心がけていきたいな。そして、プロジェクト後半には自分なりの愛校心という新しい心にも気付くことができたよ。愛校心について考えるときにも、やっぱり探究的な学習をしていたことも分かったね。私は「在校生、卒業生、保護者の誰もが誇りをもって大好きといえる学校」であってほしいと願う心をもったよ。卒業した後も、附属山口小学校にはこのような学校であり続けてほしいな。
□ キャリアプランを作成し、自己のこれから姿への見通しをもつ。 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の最後に、自分なりの愛校心を基にして、これから将来に向けた自分の生き方について計画を立ててみるのって。このような計画のことをキャリアプランというそうだよ。だったら、つくったキャリアプランを、キャリアパスポートで中学校や高校にも引き継いでいけば、節目節目で小学校6年生のときの自分の考えと比較しながら、自分の将来について考えることができそうだね。今回つくるキャリアプランは、小学校卒業後の人生の中でどの期間を設定して書いててもよいのって。私は、大学を卒業するまでの10年間でキャリアプランを書いてみるよ。まずは附属山口小学校を卒業した後の中学校生活について考えるよ。私は附属山口中学校へ進学して、小学校からの仲間と一緒に、生徒会活動に参加して皆が学校のことを誇りに思えるように活動したいな。生徒会活動に熱心に取り組むことが、きっと中学校のことを大好きだと思えるきっかけになると思うのだよ。また、中学校には体育祭や文化祭という行事があるから、積極的に参加して、学校の魅力を見付けてみたいな。小学校卒業のときと同じように、中学校に対しても「在校生、卒業生、保護者の誰もが誇りをもって大好きといえる学校」であってほしいと願う心をもちたいな。そして、高校や大学に進学しても、学校への誇りをもって過ごすリーダーになりたいよ。卒業して大人になった後も、いつまでも母校への愛校心を忘れない大人になれると嬉しいね。

令和7年度 指導助言者・研究協力員

	指導助言者				研究協力員	
保育	山口大学教育学部 山口大学教育学部 山口大学教育学部	教 授 白石 敏行 教 授 中島 寿子 准教授 川崎 徳子				
国語	山口大学教育学部 山口市立鴻南中学校 防府市立華城小学校 美祢市立於福小学校	教 授 中野 伸彦 校 長 濱崎 美幸 教 諭 西村 光博 教 諭 大野 真弘	岩国市立灘中学校 教諭 中山 恵里加			
社会	山口大学教育学部 周南市教育委員会 防府市立松崎小学校	准教授 田本 正一 主 幹 佐藤 淳 校 長 川本 尚貴	山口市立阿東中学校 教諭 梅木 勇治			
算数学	山口大学教育学部 宇部市立西岐波中学校 山口市立大内南小学校 学校法人鎮西敬愛学園敬愛小学校	教 授 飯寄 信保 校 長 中村 好弘 教 諭 岡本 貴裕 教 諭 金尾 義崇	山口市立平川中学校 教諭 古屋 壮一			
理科	山口大学教育学部 防府市立大道中学校 山口市立秋穂小学校	教 授 佐伯 英人 校 長 横沼 潤一 教 諭 德永 裕	防府市立牟礼中学校 教諭 石津 智久			
音楽	山口大学教育学部 岩国市立高森小学校 防府市立右田中学校	教 授 高橋 雅子 校 長 坂本 総一 教 頭 田村 恵美	山口市立白石中学校 教諭 岡本 美穂			
図画工作 美術	山口大学教育学部 山口市立大海小学校 山口市立上郷小学校	教 授 (特命) 静屋 智誠 校 長 野崎 佐々木 真治	防府市立国府中学校 教諭 近藤 陽子			
体育 保健体育	山口大学教育学部 柳井市立柳井西中学校 広島女学院大学	講 師 斎藤 雅記 校 長 山口 英司 准教授 紀村 修一	美祢市立大嶺中学校 教諭 津田 周平			
技術	山口大学教育学部 阿武町立阿武中学校	准教授 堤 健人 校 長 矢田部 敏夫	山口市立平川中学校 教諭 中村 祐暉			
家庭科	山口大学教育学部 美祢市教育委員会	講 師 藤井 志保 主 幹 渡壁 誠				
外国語	山口大学教育学部 山口市立阿東中学校 周南市立徳山小学校	教 授 高橋 俊章 校 長 末富 真人 教 諭 植杉 公哉	山口市立秋穂中学校 教諭 弓立 朱夏			
道徳	山口大学教育学部 岩国市立岩国小学校	教授 (特命) 坂本 哲彦 教 諭 久保田 高嶺				
総合	柳井市立柳井小学校	教 諭 大塚 進真				
研究全体	山口大学教育学部 山口大学教育学部	准教授 藤上 真弓 講 師 藤井 志保				

研究同人

幼稚園

園長	久保田 尚		
副園長	高田 和宜		
教諭	井上明日香	水口 美沙	中原 早苗
養護教諭	吉開 佳織		

小学校

校 長	久保田 尚		
教 頭	山西 雅美		
国語科	松本 裕之	内山 公介	
社会科	田島 大輔	松富 仁美	
算数科	林 納梨	有村 竜希	
理 科	出穂 佑貴		
生活科	伊豆谷さくら		
音 楽	塩田 悠莉		
図画工作科	森田 歩香		
体育科	田中 博		
家庭科	坪井 悠		
外国語科	中野 光彦		
道 德	中川 穂		
総 合	久保田大貴		
栄養教諭	瓦屋 大志		
養護教諭	田中小百合		

中学校

校 長	前原 隆志		
教 頭	小田 康弘		
国語科	舛田健太郎	前村 昂宏	河辺 哲也
社会科	西村 勇輝	網本 翔太	重本 早織
数学科	伊藤 慧	小林 咲絵	松村 悠
理 科	竹田 崇志	藤田 真也	河野 智寛
音楽科	原田 美穂		
美術科	藤井 里奈		
保健体育科	上田 渉大	戎 健介	
技術・家庭科	徳光 慧	白井 志保	
英語科	山信 和也	梅本 陽翼	宮田 琴乃
養護教諭	奥藤 礼美		

旧研究同人【令和5・6年度末転出】

幼稚園	吉鶴 修	尾川 真子	中野 祐希	田中 博香	
小学校	吉鶴 修	志賀 直美	五十部大暉	今津 圭佑	石田 千陽
	池永亜由美	津守 成思	原田 勝	大野 真弘	
中学校	浅賀 亮史	鶴永 大貴	玉村恵理子		
	戸嶋 優子	舛重 飛鳥	中武 裕太	篠原 博之	秋山 広之
	田中 聰				

山口大学教育学部附属山口小学校、幼稚園 校舎図

2階



